

きみ
-君がいた夏

ゆうぐ うみ そ きみ だれ なに いちばんす
夕暮れの海に ほほを染めた君が 誰よりも 何よりも 一番好きだった

ふたり うみ み にち や たが かた
二人していつも あの海を見てたね 日に焼けた お互いの肩にもたれたまま

いちにちじゅう わら きりんぐらい くび なが
一日中 笑ってた キリンぐらい首を 長くしてずっと

ま なつ お
待っていたのが まるで夢のように また夏が終わる もうさよならだね

とき ふたり ひ はな い おもちやのとき けい はり もど
時は二人を 引き離して行く おもちやの時計の針を戻しても

なに か きみ であ なに て
何も変わらない Oh I will miss you 君と出会ってから 何も手につかずに

いみ だれ はや きみ
意味のないラクガキを 繰り返しているよ 誰よりも早く 君をみつけたくて

じてんしゃ か ぬ まなつ あさはや なみう きわ
自転車で駆け抜けた 真夏の朝 早く 波打ち際たどって

あき く ぼく もと ばしょ もど きも
秋が来れば僕ら また元の場所へ 戻ってくけど 気持ちはこのまま

なつ お とき ふたり ひ はな い
また夏が終わる もうさよならだね 時は二人を 引き離して行く

ことば はな むね
言葉にできずに そっと離れても いつか この胸に Oh I will miss you

さかみち か お きみ ふ む そら まぶ いま
ひまわりの 坂道 駆け降りてく君が 振り向いた あの空の 眩しさが今でも

なつ お とき ふたり ひ はな い
また夏が終わる もうさよならだね 時は二人を 引き離して行く

とけい はり もど なに か
おもちやの時計の針を戻しても 何も変わらない Oh I will miss you

抱きしめたい

であ ^ひ ^{おな}
出会った日と 同じように

^{きりさめ} ^{しず} ^{よる}
霧雨 けむる 静かな夜

^め ^と
目を閉じれば 浮かんでくる

^ひ ^{ふたり}
あの日のままの二人

^{ひとなみ} ^{あふ}
人波で溢れた

^{まち}
街のショウウィンドウ

^み ^{きみ}
見とれた君が ふいに

^{とき}
つまずいた その時

^う ^と ^{りょうて}
受け止めた 両手のぬくもりが

^{いま} ^だ ^{あふ}
今でも 抱きしめたい 溢れるほどの

^{おも}
想いが こぼれてしまう前に

^{ににん} ^{ゆめ} ^{むね}
二人だけの 夢を胸に

^{ある}
歩いてゆこう

^お ^{こい} ^{こころ} ^{きずあと} ^{ほく}
終わった恋の心の傷跡は 僕にあずけて

キャンドルを ^{とも}
灯すように

そっと二人 ^{そだ}
育ててきた

^{かたち}
形のない この想いは

^{いま} ^き
今はもう 消えはしない

^{ふる} ^{よる}
震えそうな夜に

^{こえ} ^{きみ}
声をひそめ 君と

^{ゆびき}
指切りした あの約束

^{わす}
忘れてやしないよ

^{しんばい}
心配しないで

^{きみ} ^み
君だけを 見ている

もしも ^{きみ} ^な ^{くらい}
君が 泣きたい 位に

^{きず} ^{かた} ^お ^{とき}
傷つき 肩を落とす時には

^{だれ} ^{すてき} ^{えがお} ^{さが} ^い ^{すべ} ^う ^と ^い ^{ふたり}
誰よりも素敵な 笑顔を探しに行こう 全てのことを 受け止めて行きたい ずっと二人で

だ 抱きしめたい ^{あふ}
溢れるほどに

^{きみ} ^{おも} ^こ
君への想いが 込みあげてく

どんな時も ^{とき} ^{きみ} ^{かた}
君と肩をならべて

^{ある} ^{きみ} ^{とき}
歩いていけるもしも 君が さみしい時には

いつも ^{ほく}
僕が そばにいるから

REPLAY

はぐれた時間じかんの隙間すきまなら きっとすぐ埋うまるよ ためらいのない想おもいが 甦よみがえる

こんなわがまま言いうのも久ひさしぶりね、と 君きみはつぶやく

海岸かいがんに沿そった通とおりへ 君きみをつだし あころの頃ころのように

夜よるは 君きみを不思議ふしぎな程ほど きれい うつ 綺麗きれいに写うつすよ

誘さそわれるように抱だきしめたなら 不安ふあんは消きえるから

誰だれより愛いとしい君くんよ いつの日ひもその胸むねに はな 離はなれていても か 変かわらぬ想おもいを

いつも同おなじような事ことで 何なん度どとなく ぶつかってたね

だけど髪かみを切きるだけで 忘わられるような こい 恋こいじゃないだろう

3年ねんめ目のジンスなど 怖こわくはないけど いつでも 君きみを

ずっと近ちかくに感かんじていたいから 防波堤ぼうはていに打うち寄よせる波なみの飛沫しぶき あ 浴あびれば

であ 出で会あった日ひの二ふたり人が Replay して 是じれはぐれた時間じかんの隙間すきまなど きっとすぐ埋うまるよ

ためらいのない想おもいが 甦よみがえる しおかせ ためいき そら はこ 潮風しおかせが溜息ためいきを空そらに運はこぶ

波音なみおとはくちづけの吐息といき 消けして 誰だれより愛いとしい君くんよ いつの日ひもその胸むねに

離はなれていても か 変かわらぬ想おもいを 二ふたり人で駆かけ抜ぬけた季きせつ も どんばめんな場面ばめんも

ふ 振り返かえれば ほら 微笑ほほえみ溢あふれてる 時ときは流ながれても Don't change your heart,

and keep loving you.

CROSS ROAD

lookin' for love ^{いまた なら まち なか くち} 今 建ち 並ぶ 街 の 中 で 口 ず さ む ticket to ride ^{くん} あ きれ る くら い 君 へ の メ ロ デ ィ

ー

^{とお きおく なか きみ すがたさが もど わす いと ほほえ} 遠 い 記 憶 の 中 に だ け 君 の 姿 探 し て も も う 戻 ら な い だ も 忘 れ な い 愛 し い 微 笑 み

^{まふゆ あざ ゆ す さ きせつ お わす じかん} 真 冬 の ひ ま わ り の よ う に 鮮 や か に 揺 れ て る 過 ぎ 去 っ た 季 節 に 置 き 忘 れ た 時 間 を

^{いちど だれ むね おく ひ まよ なか} も う 一 度 つ か ま え た い 誰 も が 胸 の 奥 に 秘 め た 迷 い の 中 で

^{て だ みち い} 手 に し た ぬ く も り を 各 各 に 抱 き し め て 新 た な る 道 を 行 く

^{ゆうわく いろど いちど こ いま きみ ゆる く まいにち} 誘 惑 に 彩 ら れ た 一 度 だ け の 誤 ち を 今 も 君 は 許 せ ぬ ま ま 暮 ら す 毎 日

^{つめ かぜ ふ た ど} 冷 た い 風 に 吹 か れ て た た ず む マ テ リ ア ル ワ ー ル ド 立 ち 止 ま る cross road さ ま よ う

winding road ^{きず あい とお おも こ} 傷 つ け ず に は 愛 せ な い 遠 く 想 い 焦 が れ て は り さ け そ う な 夜 も

^{て う と ま かな かがや みらい} こ の 手 に 受 け 止 め る つ か の 間 の 悲 し み は や が て 輝 く 未 来 へ と

^{だ あ たび ににんあゆ ひび こた さが くず おと} 抱 き 合 う 度 に い つ も 二 人 歩 ん だ 日 々 の 答 え を 探 し て き た け ど 崩 れ て く 音 も た て ず に

^{は ゆめ だれ むね おく ひ まよ なか} 果 た せ ぬ ま ま の 夢 誰 も が 胸 の 奥 に 秘 め た 迷 い の 中 で

^{て だ みち い} 手 に し た ぬ く も り を 各 各 に 抱 き し め て 新 た な る 道 を 行 く

^{とお おも こ て う と ま かな} 遠 く 想 い 焦 が れ て は り さ け そ う な 夜 も こ の 手 に 受 け 止 め る つ か の 間 の 悲 し み は

^{かがや みらい つづ} や が て 輝 く 未 来 へ と 続 く

innocent world

たそがれ まち せ だ あ ころ むね かすめる かる ことば とき ひと きず
黄昏の街を背に抱き合えたあの頃が 胸をかすめる 軽はずみな言葉が 時に人を傷

つけたそして きみ い まど はんしゃ する あわ じぶん いと ころ
つけたそして君は居ないよ窓に反射する 哀れな自分が 愛しくもある この頃では

Ah ぼく ぼく ままで ゆずれぬ 夢 を 抱えて どこまでも ある つづ い
Ah 僕は僕のままでゆずれぬ夢を抱えてどこまでも歩き続けて行くよ いいだろう？

mr.myself いつの日も この 胸に 流れてる メロディー

かる やかに ゆる やかに ころ つた ひ さかみち のぼ まえ
軽やかに 緩やかに 心を伝うよ陽のあたる坂道を昇る その前に

また 何処かで 会える といいいな イノセントワールド 近頃 じゃ 夕食 の 話題でさえ 仕事に

おせん 汚染されていて さまざま かくど 物事 を 見ていたら 自分を 見失った

い く 入り組んでいる 関係 の 中で いつも 帳尻 合わせるけど Ah きみ きみ しず
入り組んでいる 関係の中で いつも 帳尻 合わせるけど Ah 君は君のままに 静かな

暮らしの 中で 時には 風 に 身を 任せるのも いいじゃない

oh miss yourself ものう 物憂げな ろくがつ あめ
oh miss yourself 物憂げな 6月の雨に うたれて

あい み 愛に満ちた きせつ おも うた うよ し ま わす えがお み
愛に満ちた 季節を想って歌うよ、知らぬ間に忘れてた 笑顔など見せて

にじ かなた はな 虹の彼方へ 放つ の さ ゆ おも か つづ まち かたすみ ゆめ はへん う
虹の彼方へ放つ の さ 揺れる 想いを 変わり 続ける 街の片隅で 夢の破片が 生まれ
てくる

いま Oh 今にもそして 僕は この ままで 微かな 光 を 胸に

あした すす い 明日も 進んで 行く つもり だよ いいだろう？

mr.myself いつの日も この 胸に 流れてる メロディー

せつ 切なくて やさ しくて ころ いた ひ さかみち のぼ まえ
切なくて 優しく 心が痛いよ 陽のあたる坂道を昇る その前に

また 何処かで 会える といいいな その時は 笑って 虹の彼方へ 放つ の さ イノセントワ
ールド

は 果て しくなく つづ く イノセントワールド

Tomorrow never knows

とどまる^{こと}事を知らない^{じかん}時間の中で ^{なか}いくつもの^{うつ}移りゆく^{まちなみ}街並を眺めていた

幼な^{よう}過ぎて^す消えた^き帰らぬ^{かえ}夢の^{ゆめ}面影を ^{おもかげ}すれ違^{ちが}う^{しょうねん}少年に^{かさ}重ねたりして

無邪気^{むじゃき}に^{ひと}人を裏切れる^{うらぎ}程 ^{ほど}何^{なに}もかもを欲しがっていた

わ^あかり合えた^{とも}友の愛した^{あい}女^{おんな}でさえも ^{つぐな}償^{こと}う事さえ出来ずに^{でき}今日も^{きょう}傷^{いた}みを抱^{いだ}き

夢中^{むちゅう}で^か駆け抜ける^ぬけれども ^{あした}まだ明日は^み見えず^{しょうり}勝利も^{はいぼく}敗北も^{ない}ないまま^{こどく}孤独なレースは

つづ^{つづ}続いてく ^{ひと}人は^{かな}悲しい^{わす}ぐらい^い忘れてゆく^い生きもの

あい^{よるこ}愛される^{喜び}喜^{さび}びも ^{かこ}寂しい^{いま}過去も ^{まえ}今より^{すす}前に^{ため}進む^{ため}爲には

あらそ^さ争^{とお}いを避けて^と通れない ^{ふう}そんな^{せかい}風にして^{きょう}世界は^{まわ}今日も^{つづ}回り^{つづ}続けている

は^{やみ}果てしない^む闇の向こうに oh oh

て^の手を^{だれ}伸ばそう^{ため}誰かの^い爲に ^い生きて^いみても

oh oh Tomorrow never knows ^{こころ}心^{ぼく}のまま^{ぼく}僕は^はゆく^{のさ}のさ ^{だれ}誰^しも^{こと}知る^{あした}事のない^{あした}明日へ

やさ^いしさ^いだけじゃ^い生きられない ^{わか}別れを^{えら}選んだ^{ひと}人もいる

ふた^{ぼく}たび^{であ}僕らは^{なか}出会う^{たび}だろう ^{なが}この^{なが}長い^{たび}旅路の^{どこ}どこかで

は^{やみ}果てしない^む闇の向こうに oh oh ^て手を^の伸ばそう

い^{こと}癒える^{いた}事^ひない^つ傷^つみなら ^ひいつ^つそ^つ引き^つ連れて

すこ^{ゆめ}少し^{えが}ぐらい ^{えが}は^{えが}みだした^{えが}って^{えが}いい^{えが}さ oh oh ^{えが}夢^{えが}を描^{えが}こう

だれ^{ため}誰^いかの^い爲に^い生きて^いみた^いって oh oh Tomorrow never knows

こころ^{ぼく}心^{ぼく}のまま^{ぼく}僕は^はゆく^{のさ}のさ ^{だれ}誰^しも^{こと}知る^{あした}事のない^{あした}明日へ

everybody goes

ふくざつ こ しゃかい そしき なか
複雑に混絡がった社会だ 組織の中で ガンバレ サラリーマン

ちしき きょうよう めいし ぶき
知識と 教養 と名刺を武器に あなたが支える 明日の日本 そして you

ばんめし しゃない ひとり
晩飯も社内 で一人 インスタントフード食べてんだ ガンバリ屋さん 報われないけど

じょうきょう ねん かのじょ
上京して3年 彼女にすりゃ chance 地道なダイエットの甲斐もあって カメラ

のまえ なや
の前で悩ましげなポーズ そして ベッドじゃ 社長の上に股がって oh you

それでも ゆめみ
それでも夢見てるムービースター 世間知らずの お人好しさん 相愛わらず 信じてる

everybody goes everybody fights ちつじょ げんだい
秩序のない現代に ドロップキック everybody knows

everybody wants でも No No No No みな や
皆 病んでる あい ひとりむすめ ため
愛する 一人娘 の爲に

りょう おも こと
良かれと思う事はやってきた “教育 ママ”と 近所に呼ばれても

けっこう かていえんまん
結構 家庭 円満な この18年間 でも you むすめ がっこう
娘は学校 フケて デートクラブで、

いえ かえ
家に帰りゃ また おりこうさん 可憐な少女 演じてる

everybody goes everybody fights しゅうちん
羞恥心のない じゅうだい すいへい
十代に水平 チョップ

everybody knows everybody wants そして Yes Yes Yes Yes ひっし い
必死で 生きてる

Ah しごと でき れんちゅう
仕事の出来ない 連中は こう言う 「あいつは変わった 自惚屋さん」

こんなにガンバってるのに everybody goes everybody fights

たいくつ
退屈なヒットチャートに ドロップキック everybody knows everybody wants

あか みらい なに
明るい未来って何だっけ? everybody goes everybody fights

ちつじょ げんだい すいへい
秩序のない現代に 水平 チョップ everybody knows everybody wants でも No No No

No みな や
皆 病んでる ひっし い
必死で生きてる

きせき
奇跡の地球

あつ こどう なみだ と かな とも こえ なに うれ
熱い鼓動で 涙 が止まらない 悲しい友の声は何を憂う

ありのままの すがた み 見つめたい ゆめ きぼう じだい す
ありのままの 姿 を見つめたい 夢や希望にすぎる時代は過ぎた

Wow つめ かせ
冷たい風がたなびく Flag

あい な さか くだ じだい か うんめい
愛という名の坂を下って 時代を駆ける 運命 は Black

かこ めぐ
過去を巡らす メリー・ゴー・ラウンド I'm listening to the radio

All by myself か 変わりゆく まち あした むじょう せかい
変わりゆく 街は明日なき 無情の世界

Surrounded by the stereo, No sound is felt こわ
壊れゆく No, no, no, Brother

きせき ちきゅう ふ かせ だれ な かがみ なか ひとみ われ うれ
奇跡の地球 振り返れば誰かが泣いている 鏡の中の瞳が我を憂い

こい ひ ま き こどもたち うた なに いの
恋する日を待たずに消えてゆく 子供達の歌は何を祈る Wow

ひとびと む あわ う つみ せお ぜつぼうわら ひにく
人々の群れは隣れな Dance 生まれながらに罪を背負って 絶望 笑う皮肉な Chance

やみ かな
闇を奏でるロックンロールバンド The pictures in the video Without a name

たそがれ くうかん うつ いじょう みらい
黄昏が空間に映した 異常な未来 A temporary cameo, It's all the same

つい さばく たび なみだ
終わらない No, no, no, no, sister 砂漠の旅 Wow 涙の Blues

Wow なげ なみだ
Wow 嘆きの News Wow 涙の Blues

Wow せいめい
Wow 生命の Truth I'm listening to the radio

All by myself か 変わりゆく まち あした むじょう せかい
変わりゆく 街は明日なき 無情の世界

Surrounded by the stereo, No sound is felt

こわ
壊れゆく No, no, no, no, Brother

きせき ちきゅう
奇跡の地球

【es】

Ah ^{なが}長いレールの^{うえ}上を^{あゆ}歩む^{たびじ}旅路だ ^{かぜ}風に^ふ吹かれ バランスとりながら

Ah “^{こた}答え”なんてどこにも^{みあ}見当たらないけど それでいいさ ^{なが}流れるまま^{すす}進もう

てにしたものを ^{うしな}失う^{こわ}怖さに ^{しば}縛られるぐらいなら ^{くんしょう}勲章 などいらぬ

なに ^お何が起こっても ^{へん}変じゃない そんな^{じだい}時代さ^{かくご}覚悟はできてる

よろこびに^ふ触れたくて明日へ ^{ぼく}僕を^{はし}走らせる「es」

Ah ^{じぶん}自分の^{よわ}弱さをまだ^{みと}認められずに ^{こい}恋に^{きず}すがり ^{おも}傷つけるたび^{おも}思う

「^{あい}愛とはつまり^{げんそう}幻想なんだよ」と ^い言い^き切っちゃまった^{ほう}方がラクになれるかもなんてね

^{あま}甘えや^{しつと}嫉妬や^{かか}ズルさを^{だれ}抱えながら^い誰もが^い生きてる

それでも^{ひと}人が^す好きだよそして ^{あい}あなたを^{あい}愛してる Oh ^{なん}なんて^{ヒューマン}ヒューマン

^{はだか}裸になつてさ ^{きみ}君と^む向き^あ合っていたい ^{えいかん}栄冠も^{せいこう}成功も^{ちい}地位も^{めいよ}名誉も

たいしてさ ^{いみ}意味ないじゃん ^{いま}今ここに^{じぶん}いる^{だれ}自分を^{しん}きつと^{だれ}誰もが^{しん}信じてたいのさ

^す過ぎた^{ひび}日々^{わか}に^つ別れ^{きみ}告げて^{ある}君は^だ歩き^だ出す

なに ^お何が起こきても ^{へん}変じゃないそんな^{じだい}時代さ^{かくご}覚悟はできてる

よろこびに^ふ触れたくて明日へ ^{ぼく}僕を^{はし}走らせてくれ

^{ぼく}僕の中^{なか}にある「es」

シーソーゲーム

あいそ きみ わら たい かんじん もの なに きづ
愛想なしの君が笑った そんな単純な事で 遂に肝心な物が何かって気付く

う あ はなし じゅんじょう ささ やつ おとな しつと
打ち明け話にあった純情を捧げたっていう奴に 大人げなく嫉妬したりなんかして

ねえ とうしんだい あいじょう いど せけん くら わだいたい
ねえ 等身大の愛情で挑んでるのに 世間は暗い話題

こい い きみ あいまい
恋なんて言わばエゴとエゴのシーソーゲーム いつだって君は曖味なりアクションさ

ゆうじん ひょうか じゅんばん ま
友人の評価はイマイチでも She So Cute 順番を待ってたんじゃつらい

ゆうかん こい うた れつとうかん さかて きみ
勇敢な恋の歌 劣等感を逆手にとってわがままばかりの君が

かく も ぼせいほんのう すご へんせいき といき
隠し持った母性本能は凄い ねえ 変声期みたいな吐息でイカせて

やじゅう か なんへん こい つら あじ
野獣と化して Ah Ah 何遍も恋の辛さを味わったって

ふしぎ ひと こい お うんめい こうりよ
不思議なくらい人はまた恋に落ちてゆく 運命のイタズラってやつも考慮して

しょうじゅん しぼ いの ねむ
照準を絞ってステップアップしたい そう祈って眠るだけ

じだい なが われ ちしお
アダムとイブの時代から 流れくる我らの血潮

あい しんぴ み まよ こ こい
愛の神秘に魅せられて 迷い込む恋のラビリンス

シーソーゲーム せかいじゅう だれ シーソーゲーム ごう ふか せいめいたい
シーソーゲーム 世界中の誰もが シーソーゲーム 業の深い生命体

シーソーゲーム あやま く かえ じんせい シーソーゲーム
シーソーゲーム 過ちを繰り返す人生ゲーム シーソーゲーム

こい い ず の きみ
恋なんて言わばエゴとエゴのシーソーゲーム 図に乗って君はまたノーリアクションさ

なんへん こい にが あじ ぶきみ ぼく いまこい お
何遍も恋の苦しさを味わったって 不気味なくらい僕は今恋に落ちてゆく

あいそ つ とき のぞ どお
愛想が尽きるような時ほど She So Cute お望み通り Up Side Down

ゆうかん せんし あい
勇敢な戦士みたいに愛したいな

な
名もなき詩

ちよつとぐらいの^{よご}汚^{ぶつ}れ物ならば ^{のこ}残^{ぜんぶた}さずに全部食べてやる

Oh darlin ^{きみ}君は誰 ^{しんじつ}真実^{にぎ}を握りしめる

^{きみ}君が僕^{ぼく}を疑^{うたが}っているのなら ^{のど}この喉^きを切ってくれてやる

Oh darlin ^{ぼく}僕はノータリン ^{たいせつ}大切^{もの}な物をあげる

^{いらだ}苛立つような街^{まちな}並みに立^たったって ^{かんじょう}感情^もさえもリアルに持てなくなりそうだけど

こんな不調^{ふちようわ}な生活^{せいかつ} (くらし)の^{なか}中で ^{じょうちよふあんてい}たまに情緒^も不安定になるだろう？

でも darlin ^{とも}共に悩^{なや}んだり ^{しょうがい}生涯^{きみ}を君^{ささ}に捧ぐ

あるがままの^{こころ}心^いで生きられぬ弱^{よわ}さを ^{だれ}誰かのせい^すにして過ごしている

知らぬ間^しに築^まいていた自分^{きず}らしさの^{じぶん}檻^{おり}の^{なか}中で ^{なか}もがいているなら

^{ぼく}僕だってそうなんだ ^{わか}どれほど^あ分^あり合^{どうし}える同志でも

^{こどく}孤独^{よる}な夜はやってくるんだよ Oh darlin

このわだかまり ^けきっと消^けせはしないだろう

いろんな事^{こと}を踏^ふみ台^{だい}にしてきたけど

^{しつ}失^{しつ}くしちゃいけない^{もの}物がや^みつと見^みつかった^き気がする

^{きみ}君の仕^{しぐさ}草^{こっけい}が滑稽^{やさ}なほど ^{きも}優しい^{きも}気持ちになれるんだよ

Oh darlin ^{ゆめものがたり} 夢物語 ^{あ たび き} 逢う度に聞かせてくれ

^{あい} 愛は ^{うば} きっと ^{あた} 奪うでも与えるでもなくて

^き 気が ^つ 付けば ^{もの} そこにある ^{まち} 物 街の ^{かぜ} 風に ^ふ 吹かれて ^{うた} 唄いながら

^{みょう} 妙な ^す プライドは ^す 捨ててしまえばいい

そこからは ^{ぜつぼう} じまるさ ^{しつぼう} 絶望、失望 (Down)

^{なに} 何を ^{くす} ぶってんだ

^{あい} 愛、^{じゆう} 自由、^{きぼう} 希望、^{ゆめ} 夢 (^{ゆうき} 勇氣) ^{あしもと} 足元 ^{ころ} を ^{ごらん} ごらん ^{よき} よき ^と と ^{ころ} 転がってるさ

^な 成り ^ゆ 行き ^{まかせ} まかせ ^{こい} の ^{こい} 恋 ^{におち} におち ^{とき} 時には ^{だれ} 誰 ^か か ^{きず} を ^{きず} 傷つけたとしても

^{たび} その ^{ころ} 度 ^{こころ} 心 ^{いた} いた ^め め ^{よう} る ^{じだい} 様な時代じゃない

^{だれ} 誰 ^か か ^{おも} を ^{おも} 想 ^い や ^り り ^あ だ ^だ だ ^だ になり

^{じぶん} 自分の ^{むね} 胸 ^{につ} につ ^き き ^さ さ ^さ ざる ^{だけ} だけ ^ど ど

あるが ^ま ま ^の の ^{こころ} 心 ^い で ^{ねが} 生きようと願うから

^{ひと} 人は ^{また} また ^{きず} 傷 ^つ つ ^い いて ^{ゆく} ゆく ^し 知ら ^ぬ ぬ ^ま 間に ^{きず} 築 ^い いて ^{いた} いた ^{じぶん} 自分 ^ら ら ^し し ^さ さ ^の の ^お お ^り 檻 ^{なか} の ^{なか} 中で

^も も ^が が ^い いて ^{いる} いる ^{なら} なら ^{だれ} 誰 ^だ だ ^っ っ ^て て ^{そう} そう ^{ぼく} 僕 ^だ だ ^っ っ ^て て ^{そう} そう ^{なん} なんだ ^{あい} 愛情 ^{じょう} っ ^て て ^{ゆう} ゆう ^か 形 ^の の ^な ない ^{もの} もの

^{つた} 伝えるのは ^{いつも} いつも ^{こん} 困難 ^{なん} だね ^だ だ ^か から ^{darlin} darlin ^{この} この ^な 「 ^な 名 ^も も ^な な ^き き ^し し ^を を

いつ ^ま ま ^{でも} でも ^{きみ} 君 ^に に ^さ さ ^さ ぐ

花

ため息色した 通い慣れた道 人混みの中へ 吸い込まれてく

消えてった小さな夢をなんとなく 数えて 同年代の友人達が 家族を築いてく

人生観は様々 そう誰もが知ってる 悲しみをまた優しさに変えながら 生きてく

ま 負けないように 枯れないように 笑って咲く花になろう

ふと自分に 迷うときは 風を集めて空に放つよ今

恋愛観や感情論で 愛は語れない

この想いが消えぬように そっと祈るだけ 甘えぬように 寄り添うように 孤独を分け合うように

等身大の自分だって きっと愛せるから

最大限の夢描くよ たとえ無謀だと他人が笑ってもいいや

やがてすべてが散り行く運命であっても わかってるんだよ 多少リスクを背負っても

手にしたい 愛・愛

ま 負けないように 枯れないように 笑って咲く花になろう

ふと自分に 迷うときは 風を集めて空に放つよ

ラララ…

心の中に 永遠なる花を咲かそう

マシンガンをつつ^{はな}放せ

あのニュースキャスターが人類^{じんるい}を代弁^{だいべん}して喋^{しゃべ}る

「また核^{かく}実験^{じっけん}をするなんて一体^{いつたい} どういうつもり？」

愛^{あい}にしゃぶりついたんさい

愛^{あい}にすぎりついたんさい

やがて来る^{きた}“死^しの存在^{そんざい}”に目^めを背^{そむ}け過^すごすけど

残念^{ざんねん}ですが僕^{ぼく}が生^いきている事^{こと}に意^い味^みはない

愛^{あい}せよ目^めの前^{まえ}の不^ふ条^{じょう}理^りを

憎^{にく}めよ都^{つごう}合^{ごう}のい^いい道^{どう}徳^{とく}を

そして僕^{ぼく}に才^{さい}能^{のう}をくれ

見^みえない敵^{てき}にマシンガンをつつ^{はな}放^{はな}せ Sister and Brother

正^{せい}義^ぎも悪^{あく}もないこの時^じ代^{だい}を^{こう}行^{しん}進^{しん}して^{へい}い^しく^し兵^{へい}士^しです

さつじんおに 殺^{せい}人^{じや} 鬼^{ぼん}も 聖^{じん}者^も 凡^{きやう}人^{ぞん}も 共^{きやう}存^{ぞん}して^くし^かな^いい^んで^すね

さわ 触^{さわ}らなく^たつて^かみ^たた^た神^{かみ}は崇^たつち^{ちやう}ちやう

すく 救^{すく}いの^う唄^たは^き聞^きこ^えち^やこ^ない^さ

さん^{さん}こ^{こう}う^{しよ}も 参^も考^い書^どを持^いつ^つて^い挑^いん^{しやう}だ^なん^ぞじ^とゃ 一^い生^{しやう} 謎^とは^と解^とけ^ぬぬ

り^りやう^{しき} お^{おも}も 良^{ぜん}識^{にん}を^つ重^みん^じて^る 善^{ぜん}人^{にん}が^もは^や罪^つだ^よ

愛^{あい}せよ目^めの前^{まえ}の疫^{やく}病^{びやう}を

憎^{にく}めよ無^む能^{のう}なる組^そ織^{しき}を

そして僕^{ぼく}にコンドームをくれ

僕^{ぼく}は昇^{のぼ}りまた落ち^おてゆく 愛^{あい}に似た金^{かね}を握^{にぎ}って

どうせ逆^{さか}らえぬ人^{ひと}を殴^{なぐ}った 天使^{てんし}の様な素振^{よう そぶ}りで

毒蜘蛛^{どくくも}も犬^{いぬ}も乳飲^{ちの}み子^こも共存^{きょうぞん}すべきだよと^いって

いつわ 偽^{いつわ}らざる人^{ひと}がいるはずないじゃん

この現実^{げんじつ}に目^めを向^むけなさい

愛^{あい}せよ 単調^{たんちょう}な生活^{せいかつ}を

かがみ うつ 鏡^{かがみ}に映^{うつ}っている人物^{じんぶつ}を

にく う 憎^{にく}めよ生まれ^うてきた悲劇^{ひげき}を

か な 飼^かい慣^ならされ^{ほんのう}ちまった本能^{ほんのう}を

そして事^{こと}の真相^{しんそう}をえぐれ

み 見え^みない敵^{てき}にマシンガン^{はな}をぶつ放^{はな}せ Sister and Brother

てん つば は 天^{てん}に唾^{つば}を吐^はきかけるような行き場^いのない怒^いりです

しゅうきょう かがく UFO も 信^{しん}じれるから悲惨^{ひさん}で

から 絡^{から}まりあつて本心^{ほんしん} 偽^{いつわ}って

めくるめくの every day

ぼく のぼ お 僕^{ぼく}は昇^{のぼ}りまた落ち^おてゆく

なに 何^{なに}だってまかり通^{とお}る世界^{せかい}へ

Everything(It's you)

せけんし しょうねんじだい じぶん じん
世間知らずだった 少年 時代から 自分だけを信じてきたけど

こころ ひと ささ なか なん い げんざい ぼく
心 ある人の支えの中で 何とか生きてる 現在の僕で

よわね たにん いた み み
弱音さらしたり グチをこぼしたり 他人の痛みを 見て見ないふりをして

しあわ たいせつ こと わか いま
幸 せすぎて大切な事が 解りづらくなった 今だから

うた ことば み じかん お とほう く
歌 う言葉さえも見つからぬまま 時間に追われ途方に暮れる

あい ひと きみ おな くる に おも いた
愛すべき人よ 君も同じように 苦しみに似た 想いを抱いてるの

STAY なに ぎせい まも
何を犠牲にしても 守るべきものがあるとして

ぼく いまきみ おも ゆめお じん たびじ は
僕にとって今君が それにあたると思 うんだよ 夢 追い人は旅路の果てで

いつたいなに て うそ むじゆん りょうて かか
一体 何を手にするんだろ 嘘や 矛盾を 両手に抱え

「それも人だよ」と さと たい ひと きみ あ
「それも人だよ」と 悟れるの? 愛すべき人よ 君に会いたい

たと こい STAY
例えばこれが 恋とは違くても

ぼく お まよ ふる にもつ す きみ あたら あ すす
僕が落ちぶれたら 迷わず 古い荷物を捨て 君は 新 しいドアを開けて進めばいいんだよ

STAY なに ぎせい て
何を犠牲にしても 手にしたいものがあるとして

ぼく おも きみ す
それを僕と 思うのなら もう君の好きなようにして

じぶん ぎせい
自分を犠牲にしても いつでも

まも ひと
守るべきものは ただ一つ

きみ
君なんだよ

いつでも きみ
いつでも 君なんだよ

ニシエヒガシエ

また ^{きみ なか じょうしき ゆ}君の中の常識が揺らいでる ^{し 知らなきやよ}知らなきや良かったって ^{おも こと}思う事ばかり

そして ^ないつしか慣れるんだ ^{あた まえ}当り前のものとして ^{う い}受け入れるんだ

^{かた いっぽう てんし}片一方は天使 ^{いっぽう あくま}もう一方は悪魔で ^{ぶんれつ}分裂しそうなんだ ^{こううつざい}抗鬱剤をちょうだい

^{くら みらい ふせ}暗い未来を防ぐんだ ^{なが めいきゆう}永い迷宮みたいな ^{せいしゆん}青春だ

^{は つ けい}張り付けの刑になったって ^{あした む い}明日に向かって生きてくんだって

ただじゃ ^{ころ}転びやしませんぜって ^{ひじょうじたい}非常事態ってやつも ^{かんげい}歓迎です

ニシエヒガシエ ^{う う ちしき きょうよう}受け売りの知識 教養などほうばり

^{むね}胸やけしそうなら ^{ゆび}この指とまれ ^{じんせい}こんな やっかいな人生だ

おまえが ^{しん みち すす}信じてる道を ^{すす}進むんだ ^{あい こい}愛だ恋だとぬかしたって ^{しよせん ぼくどう}所詮は僕等アニマルなんです

ひと ^{かな せい}人は悲しい性をもって ^{はれつ}破裂しそうな ^{なや かか}悩み抱えて ^{ひっし もう}必死で 猛ダッシュです

^{ゆめ りそう て とど}夢や理想にや ^{て とど}手が届かないが ^{ふまん}不満ならべたって ^{きりがな}いきりがないし

^{きのう ぼく}昨日の僕になんて ^{バイバイ}バイバイ ^{あした にな}明日を担って ^{かぜ}風にまたがって

ニシエヒガシエ

^{は つ けい}張り付けの刑になったって ^{あした む い}明日に向かって生きてくんだって

ただじゃ ^{ころ}転びやしませんぜって ^{ひじょうじたい}非常事態ってやつも ^{かんげい}歓迎です

ニシエヒガシエ

^{ひっし もう}必死で 猛ダッシュです

お
終わりになき旅

いき き か ぬ みち ふ かえ
息を切らしてさ 駆け抜けた道を 振り返りはしないのさ

みらい みす はな ねが
ただ未来だけを見据えながら 放つ願い

いのち けず しょうねつ とも
カナミたいにね 命を削ってさ 情熱を灯しては

ひかり かげ つ すす
また光と影を連れて 進むんだ

おお こえ こえ あい うた
大きな声で 声をからして 愛されたいと歌っているんだよ

「ガキじゃあるまいし」^{じぶん}自分に言い聞かすけど ^{また}また ^{さが}答え探してしまう

と む あたら なに ま
閉ざされたドアの向こうに 新しい何かが待っていて

きつ きつ ぼく うご
きつときつとって 僕を動かしてる

いいことばかりでは無いさ ^むでも ^{つぎ}次の ^{とびら}扉をノックしたい

おお おお じぶん さが お たび
もっと大きなはずの自分を探す 終わりになき旅

だれ はな だれ す さび つの
誰と話しても 誰かと過ごしても 寂しさは募るけど

じぶん ひつよう ひと
どこかに自分を必要とする人がいる

ゆううつ こい むね いた あい な
憂鬱な恋に 胸が痛んで 愛されたいと泣いていたんだろう

しんぱい とき むじょう ほど すべ あら なが
心配ないぜ 時は無情な程に 全てを洗い流してくれる

むずか かんが だ けっきょくすべ いや
難しく考え出すと 結局全てが嫌になって

そつとそつと ^に逃げ出したくなるけど

たか たか かべ ほう のぼ とき きも
高ければ高い壁の方が登った時気持ちいいもんな

げんかい みと
まだ限界なんて認めちゃいないさ

じだい こんらん つづ だいしょう さが
時代は混乱し続け その代償を探す

ひと あ よう かた
人はつじつまを合わす様に型にはまってく

だれ まね きみ きみ
誰の真似もすんな 君は君でいい

い ため
生きる為のレシピなんてない ないさ

いき き か め みち ふ かえ
息を切らしてさ 駆け抜けた道を振り返りはしないのさ

みらい ゆめ の
ただ未来へと夢を乗せて

と む あたら なに ま
閉ざされたドアの向こうに 新しい何かが待っていて

きつ きつ とき とき 君を動かしてる

いいことばかりでは無いさ でも次の扉をノックしよう

すば じぶん さが
もっと素晴らしいはずの自分を探して

むね かか こ まよ ちから か
胸に抱え込んだ迷いが プラスの力に変わるように

いまび ぼく うご
いつも今日だって僕らは動いてる

いや こと つぎ とびら
嫌な事ばかりではないさ さあ次の扉をノックしよう

おお じぶん さが お たび
もっと大きなはずの自分を探す 終わりなき旅

ひかり さ ほう
光の射す方へ

くも す よう こうそく うえ もくてきち じゅうたい つづ
蜘蛛の巣の様な高速の上 目的地へ5km 渋滞は続いている

さいきん
最近 エアコンがいかれてきてる ポンコツに座って 心拍数が増えた

しゃかいじん おもに せお おも し
社会人になって 重荷を背負って 思い知らされてらあ

ははおや ぐち よう い なつやす しょうがっこうじだい かえ
母親がいつか愚痴る様に言った 「夏休みのある小学校時代に帰りたい」

ゆうしょく さそ おんな
夕食に誘った女の

えがお げひん よ まわ
笑顔が下品で 酔いばかり回った

みぶ てぶ おおげさ
身振り手振りが大袈裟で

とうようじん かお せいようじん
東洋人の顔して 西洋人のふりしてる

ストッキングを取って すっぽんぽんにしちゃえば 同じもんがついてんだ

めんどくさ おく
面倒臭くなって 送るのもよして

ひと じょうねつ ふ まわ
独りきり 情熱を振り回す バッティングセンター

ぼく ゆめみ さまよ
僕らは夢見たあげく彷徨って

からぶ ほねお
空振りしては骨折って リハビリしてんだ wow wow

いつの日か ひ きみ とど
いつの日か 君に届くならいいな

こころ っ
心に付けたプロペラ

じくう こ ひかり さ ほう
時空を超えて 光の射す方へ

でんわ き
「電話してから来てちょうだい」って

な いまわ あ かぎ
慣れた言い回しで 合い鍵をくれたんだ

こわ けっきょく
マスコミが 怖いから 結局は

ちよきんばこ なか
貯金箱の中にそいつをしまった

だれ しんよう なに ふんとう さきある
誰を信用して 何に奮闘して この先歩けばいい？

しょうはい
デキレースでもって 勝敗がついたって

はくしゅ おく そんざい
拍手を送るべき ウィナーは存在しない

ぼく ゆめみ さまよ
僕らは夢見るあまり彷徨って

だいなばら ただよ
大海原で漂って さぶいぼたてんだ wow wow

ぼく あい ほ
もっとこの僕を愛して欲しいんだ

つきよ うた むし
月夜に歌う虫けら

はね ひら ひかり さ ほう
羽を開いて 光の射す方へ

ち てん ひろ あつ
散らかっている点を拾い集めて

まっす せん むす
真直ぐな線で結ぶ

やみ き うみ およ わた
闇を裂いて海を泳ぎ渡って

かぜ だいち は
風となり大地を這う

かぎ えいえん さが
限りあるまたとない永遠を探して

さいたん きより か ぬ ひかり さ ほう
最短距離で駆け抜けるよ 光の射す方へ

I'LL BE

きが付きや^{いさ}勇み足^{あし} そんな日には^ひ 深呼吸^{しんこきゅう} をしてみるんだ Tシャツの^{なか}中を泳ぐ^{およ}風と^{かぜ}

とも^{うた}共に歌いながら^{うた} 乾きを癒^{かわ}せない^{いや}砂漠^{さばく}の^{よう}様に^な 何^{なに}だって^の飲み込んで^こしまえる

そんな^{ぼくぜん}漠然とした^{ぼくぜん}イメージだけが^{きょう} 今日も僕^{ぼく}を支えて^{ささ}んだ^{まち} 街がジオラマ^{まち}みたくみえる

ビルの^{さいじょうかい}最上階^{さいじょうかい} 形^{かたち}を変えながら^か飛ぶ^と雲^{くも}が見える^みかい？

きょう^{あした}今日はゾウ^{あした} 明日はライオン^{ぐあい}てな^{ぐあい}具合に^{こころ} 心^{こころ}はいつだって^と捕らえ^とようがなくて

son^{じゆう}でもって自由^{じゆう}だ^い 生きて^いいる^{あかし}証^{あかし}を^{じだい} 時代^{じだい}に打ち^う付けろ^つ

ひん^{たましい}じゃく^{たましい}貧弱^{たましい}な^{わる}魂^{たましい}で^{わる} 悪^{わる}あがき^{わる}しながら^{なんど} 何度^{なんど}へました^{なんど}っていい^{きしかいせい}さ^{きしかいせい} 起死回生^{きしかいせい}で^{まいにち} 毎日^{まいにち}

がレボリューション^{じんせい} 人生^{じんせい}はフリー^{じんせい}スタイル^{じんせい} 孤独^{こどく}でも^{こどく} 忍耐^{にんたい}

わら^{ひと}笑いたがる^{ひと}人^{ひと}には^{ひと}キス^{ひと}を^{ひと} そしていつだって^{ひと} I say yes.

I'll be there

ピーナッツ^かをひとつ^か 噛み^か砕^{くだ}きながら^か の^こ飲み^こ込んで^こしまった^{おも}想^{おも}いは

まよ^{けつえき}なか^{けつえき}真夜中^{けつえき} 血液^{けつえき}に溶^とけて^と から^{からだちゆう}だちゆう^{からだちゆう} 体^{からだちゆう}中^{からだちゆう}を^{からだちゆう}ノック^{からだちゆう}した

いつも^{こころ} 心^{こころ}にして^{こころ}た^{こころ}アイ^{こころ}マスク^{こころ}を^{こころ}外^{こころ}して^{こころ}やれば^{こころ}いい^{こころ}

ふあ^{まよ}ん^{まよ}不安^{まよ}や迷^{まよ}いと^{まよ}無^{まよ}二^{まよ}の^{まよ}親^{まよ}友^{まよ}にな^{まよ}れば^{まよ}いい^{まよ}

たび^{あした}だ^{あした}旅^{あした}立^{あした}とう^{あした} 明日^{あした}は^{あした}無^{あした}い^{あした}ぞ^{あした}つて^{あした}な^{あした}具^{あした}合^{あした}に^{あした}

むね^{きざ} 胸^{きざ}に刻^{きざ}みながら^{きざ} 一^{いちほ}歩^{いちほ}ずつ^{いちほ}進^{すす}んで^{すす}

いつ^{むちゆう}だって^{むちゆう} 夢^{むちゆう}中^{むちゆう}だ

ふがいな じぶん じゅうこう つ つ
腑甲斐無い自分に 銃口 を突き付けろ

あ さわ な みち えら
当たり障り無い 道を選ぶくらいなら

ぜんぷほう だ
全部放り出して コンプレックスさえもいわばモチベーション

じんせい
人生はいつも Q&A だ

えいえん つづ ぜんもんどう
永遠に続いてく 禅問答

そしていつの日か 僕も dead

I'll be back

か ひき せかい ぼく え
駆け引きの世界で 僕が得たものを

ダスタシユートに投げ込むよ

はくちず ひろ あした ま
白地図を広げて 明日を待っていたい

めいつぱい じょそう と
目一杯の助走をつけて あのボーダーラインを飛ぶんだ

かざむ みかた ねこぜ き
風向きを味方につけて 猫背を気にしながら

い 生きている 証 を 時代 に打ち付けろ

ひんじゃく たましい わる
貧弱な魂で 悪あがきしながら

なんど きしかいせい まいにち
何度へましたっていいさ 起死回生で 毎日 がレボリューション

じんせい ことく にんたい
人生はフリースタイル 孤独でも 忍耐

わら ひと
笑いたがる人にはキスを

そしていつだって I say yes.

I'll be there

口笛

たよ な ふた なら ふぞろ かけ きたかぜ ゆ の
頼り無く二つ並んだ不揃いの影が 北風に揺れながら延びてゆく

おうとつ ふく きみ おも むね かお だ
凹凸のまま膨らんだ君への想いは この胸のほころびから顔を出した

くちぶえ とお えいえん いの よう とお ひび ことば たし
口笛を遠く 永遠に祈る様に遠く 響かせるよ 言葉より確かなものに ほら

とど き そうな き がしてんだ さあ て つな ぼく げんざい とぎ よう
届きそうな気がしてんだ さあ 手を繋いで 僕らの現在が途切れない様に

かお その しんたい すべ ぼく い かえ ゆめ つ かえ あぜみち
その香り その身体 その全てで僕は生き返る 夢を摘むんで帰る 畦道

た ど 立ち止まったまま そしてどんな場面も二人なら笑えますように

むぞうさ かばん つ てしな さま ぼく わら
無造作にさげた鞆にタネが詰まっていて 手品の様 ひねた僕を笑わせるよ

かたち しだい すがた け きみ ぬく け
形あるものは次第に姿を消すけれど 君がくれた この温もりは消せないさ

すどお すわ みわた まち けしき
いつもは素通りしてたベンチに座り 見渡せば よどんだ街の景色さえ ごらん

いと み あめあ とお そら にじ か
愛しさ満ちてる ああ 雨上がりの遠くの空に虹が架かったなら

とまど ふあん かんたん ふ と かわ かせ くちぶえ
戸惑いや 不安など 簡単に吹き飛ばせそうなのに 乾いた風に口笛は

す わた せかいじゅう やさ つつ こ
澄み渡ってゆく まるで世界中を優しく包み込むように

こども ころ むちゅう さが ほら いま め まえ て ひろ
子供の頃に 夢中で探してたものが ほら 今 目の前で手を広げている

こわ 恐がらないで ふ だ て つな ぼく げんざい とぎ よう
踏み出しておいで さあ 手を繋いで 僕らの現在が途切れない様に

かお その しんたい すべ ぼく い かえ ゆめ つ かえ あぜみち た ど
その香りその身体 その全てで僕は生き返る 夢を摘むんで帰る 畦道 立ち止まったまま

そしてどんな場面も二人で笑いながら

やさ ひび くちぶえ
優しく響くあの口笛のように

NOT FOUND

ぼく 僕はつい 見えもしないものに頼って逃げる

きみ 君はすぐ 形で示してほしいとごねる 矛盾しあった幾つもの事が 正しさを

しゅちよう 主張しているよ 愛するって奥が深いんだなあ

ああ 何処まで行けば 解りあえるのだろうか？ 歌や詩になれない この感情と苦悩

きみ 君に触れていたい 痛みすら 伴い 歯痒くとも 切なくとも 微笑を 微笑を

あい 愛という素敵な嘘で騙してほしい自分だって思ってた人格が また違う顔を見せるよ

ねえ それって君のせいかなあ あと どのくらいすれば忘れられんのだろう？

かこ 過去の自分に向けた この後悔と憎悪 君に触れていたい 優しい胸の上で

あの覚束無い子守唄をもう一度 もう一度 昨日探し当てた場所に 今日ジャンプし

てみるけど なぜがNOT FOUND 今日はNOT FOUND

ジェットコースターみたいに浮き沈み

ああ何処まで行けば 辿り着けるのだろうか？

め 目の前に積まれた この絶望と希望

きみ 君に触れていたい 痛みすら 伴い

はがゆ 歯痒くとも 切なくとも 微笑を 微笑を

もう一度 微笑を

やさ うた
優しい歌

だれ すぐ て きみ さ だ
誰かが救いの手を 君に差し出している だけど いま きつ
今はそれに気付けずにいるんだろう

しらけムードの僕等は ぼくとう むね なか どうくつ
胸の中の洞窟に す まもの たいじ
住みつく魔物と対峙していけるかな

いちふ き はかな ねが
一吹きで消えそうな 儚い願い い の こ は
言いかけて飲み込んで 恥ずかしくなる

たましい うた
魂の歌 くすぶってた て かく うら しの
照れ隠しの裏に忍ばせた かくしんはん こえ
確信犯の声

でぐち な じもんじとう なんどく かえ
出口の無い自問自答 何度繰り返しても やっぱり ぼく ぼく
やっぱり僕は僕でしかないなら

どちらに ころ
転んだとしても それはやはり ぼく
僕だろう このスニーカーのヒモを むす
結んだなら さあ行こう

かんたん ひれふ
簡単に平伏した あの日の ちか
誓い おも だ はがゆ おも さけ
思い出して歯痒くて 思わず叫ぶ

こうかい うた あま
後悔の歌 甘えていた かがみ なか おとこ いま
鏡の中の男に今

ふくしゅう ちか
復讐を誓う

ぐんしゅう なか た そら み
群衆の中に立って 空を見れば

たいせつ もの きづ くる
大切な物に気付いて 狂おしくなる

やさ うた わす だれ ため
優しい歌 忘れていた 誰かの為に

ちい ひ
小さな火をくべるよな

あい よろこ み うた
愛する喜びに 満ちあふれた歌

youthful days

にわか^{あめ}雨^{とお}が通り過ぎてった午後^{ごご}に 水溜まり^{みずた}は空^{そら}を映し出^{うつ}している

二つの車輪^{ふた}で 僕ら^{しゃりん}それに飛び込^{ぼく}んだ 羽^とのように広^こがって 水しぶき^{はね}があがって

君^{きみ}は笑^{わら}う 悪戯^{いたずら}に ニヤニヤと 僕^{ぼく}も笑^{わら}う 声^{こえ}を上げ ゲラゲラと 歪^いんだ景色^{けしき}に取り囲^とまれても

君^{きみ}を抱^{いだ}いたら 不安^{ふあん}は 姿^{すがた}を消^けすんだ 胸^{むね}の鐘^{かね}の音^{おと}を鳴^ならしてよ 壊^{こわ}れるほどの抱擁^{ほうよう}とキスで

あらわに 心^{こころ}をさらしてよ ずっと二人^{ふたり}でいられたらいい「サポテンが 赤^{あか}い花^{はな}を付^つけたよ」と言^いって

急^{いそ}いでおいで」って僕^{ぼく}に催促^{さいそく}をする 何^{なん}回^{かい}も繰^くり返^{かえ}し 僕^{ぼく}ら乾杯^{かんぱい}をしたんだ だけ^{あさ}ど朝^{あさ}になっ

花^{はな}はしおれてしまっ 君^{きみ}の指^{ゆび} 花^{はな}びらを撫^なでてたろう 僕^{ぼく}は思^{おも}う その仕草^{しぐさ} セクシーだと

表通^{おもてどお}りには花^{はな}もないくせに トゲ^{おお}が多いから油断^{ゆだん}していると刺^ささるや 胸^{むね}の鐘^{かね}の音^{おと}を鳴^ならしてよ

切^{せつ}ないほどの抱擁^{ほうよう}とキスで乾^{かわ}いた 心^{こころ}を濡^ぬらしてよ ただ二人^{ふたり}でいられたらいい 生臭^{なまぐさ}くて柔^{やわ}ら

かい温^{ぬく}もりを抱^だきしめる時^{とき}(I got back youthful days)くすぐったい様な乱暴^{ようらんぼう}に君^{きみ}の本能^{ほんのう}が応^{おう}じてる

時^{とき}(苦^{くる}しさにも似^にた 感情^{かんじょう}に もう名^な前^{まえ}なんてなくていいんだよ

日常^{にちじょう}が押し殺^おしてきた 剥^むき出しの自^じ分^{ぶん}を感^{かん}じる

繋^{つな}いだ手^てを放^{はな}さないでよ

腐敗^{ふはい}のムードを かわして明日^{あした}を奪^{うば}うんだ

胸^{むね}の鐘^{かね}の音^{おと}を鳴^ならしてよ 壊^{こわ}れるほどの抱擁^{ほうよう}とキスで

あらわに 心^{こころ}をさらしてよ ずっと二人^{ふたり}でいられたらいい

いつも二人^{ふたり}でいられたらいい

きみ す
君が好き

もしもまだ ねが ^{ひと}かな ^{くそう}ひろ
願いが一つ叶うとしたら… そんな空想を広げ

いちにちちゆう ^{すご} ^{つき} ^{にご} ^{とうきよう} ^{よる}
一日中 ぼんやり過せば 月も濁る 東京の夜だ

そしてひねり出した ^だ ^{こた} ^{きみ} ^す
答えは 君が好き

ぼく ^{いい} ^{いじょう} ^{いみ}
僕が生きるうえでこれ以上の意味はなくなっただけいい

よる ^{ふち} ^{わき} ^{じはんき} ^{ふた} ^{かん} ^か
夜の淵 アパートの脇 ぐたびれた自販機で二つ 缶コーヒーを買って

ぼく ^て ^{きみ} ^{なみだぬぐ} ^{すてき}
僕の手が君の涙 拭えろとしたら それは素敵だけど

きみ ^{ぼく} ^に ^{だれ} ^ふ ^こ
君もまた僕に似たような 誰にも踏み込まれたくない

りょういき ^{かく} ^も ^{きみ} ^す
領域を隠し持っているんだらう 君が好き

この ^{ひび} ^{ひそ} ^{ぬく} ^{だせい} ^{にお}
響きに 潜んでる温い惰性の匂いがしても

く ^{かえ} ^く ^{かえ} ^に ^き ^そ ^{おも} ^こ
繰り返し 繰り返し 煮え切らないメロディに添って 思いを焦がして

ほどきよう ^{うへ} ^{みな} ^{にご} ^{つき} ^う
歩道橋の上には 見慣れてしまった 濁った月が浮かんでいて

よご ^{ぼく} ^{むな} ^{なに} ^{うった}
汚れていってしまう 僕らにそっと ああ 空しく何かを訴えている

きみ ^す ^{ぼく} ^{いい} ^{いじょう} ^{いみ}
君が好き 僕が生きるうえでこれ以上の意味はなくなっただけいい

よる ^{ふち} ^{きみ} ^ま
夜の淵 君を待ち

い ^ば ^{おも} ^{よぞら} ^う
行き場のない 想いがまた夜空に浮かんで

きみ ^す ^{きみ} ^す
君が好き 君が好き

に ^き ^そ ^{おも} ^こ
煮え切らないメロディに添って 思いを焦がして

Any

うわべ な まわ きゅう いやげ ぼく
上辺ばかりを撫で回されて 急にすべてに嫌気がさした僕は

ぼく なか ひそ くらやみ わり だ
僕の中に潜んだ暗闇を 無理やりほじくり出してもがいてたようだ

しんじつ うそ うそ しんじつ
真実からは嘘を 嘘からは真実を

むちゅう さが いま ぼく ばしょ さが ちが
夢中で探してきたけど 今 僕のいる場所が 探してたのと違って

まちが ひと
間違いじゃない きっと答えは一つじゃない

なんど て くわ よご じがぞう
何度も手を加えた 汚れた自画像に ほら

また 12 色 の 心 で す 好きな 背景 を 描きたして行く

いろんなことを犠牲にして 巻き添いにして

えつ ひた はし じぶん じだい
悦に浸って走った自分を時代のせいにしたんだ

「もっといいことはないか？」って言いながら

たくじょう くうろん ふ まわ
「卓上」の空論を振り回してばっか

そして僕は知ってしまった 小手先でやりくりしたって

なにひと か いま ぼく ばしょ のぞ ちが
何一つ変えられはしない 今 僕のいる場所が 望んだものと違って

わる 悪くはない きっと答えは一つじゃない 「愛してる」と君が言う 口先 だけだとしても

たまらなく うれ 嬉しくなるからそれもまた僕にとって 真実 交差点 信号機 排気ガスの匂い

クラクション 壁の落書き 破られたポスター 今 僕のいる場所が 探してたのと違って

まちが 間違いじゃない いつも 答えは一つじゃない 何度も手を加えた 汚れた自画像に ほら

また 12 色 の 心 で す 好きな 背景 を 描きたして行く

また 描きたして行く そのすべて 真実

HERO

たと だれ ひとり いのち ひ か せかい すく
例えば 誰か一人の 命 と 引き換えに世界を 救えるとして

ぼく だれ なの で ま おとこ
僕は 誰かが名乗り出るのを待っているだけの 男 だ

あい ひと
愛すべきたくさんの人たちが

ぼく おくびょうもの か
僕を 臆病者 に変えてしまったんだ

ちい ころ みぶ てぶ
小さい頃に身振り手振りを

まね あこが
真似てみせた 憧 れになろうだなんて

だい きも
大それた気持ちはない

でもヒーローになりたい

ただ一人 きみ
君にとっての つまずいたり

ころ
転んだりするようなら

そつと手を差し伸べるよ

だめ えいが も あ
駄目な映画を盛り上げるために

かんたん いのち す
簡単に 命 が捨てられていく

ちが ぼく み
違う 僕らが見ていたいのは

きぼう み ひかり
希望に満ちた 光 だ

ぼく て にぎ すこ ちい て
僕の手を握る少し小さな手

すつと胸の 淀みを溶かしていくんだ

じんせい ふか あじ
人生 をフルコースで深く 味わうための

いく だれ ようい
幾つものスパイスが 誰 もに用意されていて

とき ^{にが}
時には苦かったり

しぶ ^{おも}
渋く思うこともあるだろう

そして最後のデザート ^{わら} ^た
を笑って食べる

きみ ^{がわ} ^{ぼく} ^い
君の側に僕は居たい

さんこく ^す ^{じかん} ^{なか}
残酷に過ぎる時間の中で

きつと ^{じゅうぶん} ^{ぼく} ^{おとな} ^{かな}
きつと十分に僕も大人になったんだ悲しくはない

せつ
切なさもない

ただこうして繰り返 ^{かえ} ^{かえ}
されてきたことがそうこうして繰り返していくことが

うれ ^{いと}
嬉しい 愛しい

ずっとヒーローでありたいただ ^{ひとり}
一人

きみ ^{なぜ}
君にとってのちつとも謎めてないし

いまさら ^{ひみつ}
今更もう秘密はないでも

ヒーローになりたいただ ^{ひとり}
一人

きみ
君にとってのつまずいたり

ころ ^て ^さ ^の
転んだりするようならそつと手を差し伸べるよ

てのひら
掌

(てのひら)に刻^{きざ}まれた歪^{いびつ}(いびつ)な曲線^{きよくせん}

なん
何らかの^{いみ}意味^もを持って^う生まれてきた^{あかし}証

ぼく
僕らなら 求め^{もと}合う^あ寂しい^{さび}動物^{どうぶつ}

かた
肩^よを寄せるようにして 愛^{あい}を歌^{うた}っている

いだ
抱いたはずが突^つき飛^とばして

つつ
包むはずが切^きり刻^{きざ}んで

な
撫^なでるつもりが引^ひつ搔^かいて

また
愛^{あい} 求め^{もと}める

わか
解^あり合えたふりしたって

ぼく
僕らは違^{ちが}った個^こ体^{たい}で

だけどひとつになりたくて

くらやみ
暗闇^{くらやみ}で もがいて もがいている

ステッカーにして貼^はられた本^{ほん}物^{もの}の印^{しるし}

だけど そう^{しゅちよう}主張^{しゅちよう}している方^{ほう}がニセモノ^{ニセモノ}に見える^み

ぼく
僕らなら こんな^{ふう}風^{ふう}な袋^{ふくろ}小路^{こうじ}に

いま
今^{いま}も迷^{まよ}い込^こんだまま ぬ^ぬけ出^だせずにいる

ゆめみ はかな
夢見てるから 儚くて

さが み
探すから見つからなくて

ほ しゅ はい
欲しがるから手に入んなくて

とほう く
途方に暮れる

まちが
どこで間違ったかなんて

かんが ひま
考えてる暇もなくて

こた ふあん
でも答えがなきゃ不安で

きみ きみ ぼく ぼく そんなあたり前のこと
君は君で 僕は僕

なに かんたん ぼく
何でこんなにも簡単に 僕ら

みうしな
見失ってしまえるんだろう？

ALL FOR ONE FOR ALL

BUT I AM ONE

ALL FOR ONE FOR ALL

BUT YOU ARE ONE

ひとつにならなくていいよ

みと あ
認め合うことができればさ

もちろん^な投げやりじゃなくて

みと あ
認め合うことができるから

ひとつにならなくていいよ

かち かん りねん しゅうきょう
価値観も 理念も 宗教もさ

ひとつにならなくていいよ

みと あ
認め合うことができるから

それですば
素晴らしい

キスしながらつば は
唾を吐いて

な
舐めるつもりがか
噛みついて

き
着せたつもりがひ き
裂いて

また あい もと
愛 求める

ひとつにならなくていいよ

みと あ
認め合えばそれでいいよ

それだけがぼく まえ
僕らの前の

くらやみ やさ ち
暗闇を 優しく 散らして

ひかり ふ あた
光を 降らして 与えてくれる

</BLO

てんちよう
天頂 バス

そろそろ時間だ いそ 急いで かね つ 鞆 に詰めよう

すみ すみ すみ 未来を書きためたネタ 帳 A.B.C

ここの 連中 と 慰 め合っちまえば

む 向こう 側の 奴が 笑って たって 気づきもせず Game Over

のぞ 望んでいれば いつまでも 成長 期

ずっとチャレンジャーで いてえ 訳 じゃねえんだ

ベルトを 奪いに行くぞ てんごく い 天国 行き の バス で 行こうよ

ゆ 揺れるぞ ち 地に 足 を 着 ける おのれ ちよつかん か 己 の 直感 と 交 わ した 約 束 を

は 果たすまで きつと 僕 に しゅうてん 終点 など ねえぞお

・・・で 何 だ っ け ? 「 明 日 こ そ き つ と 」 つ て

たわごと 戯言 ぬかして じぶん か 自分 を 変 えて け れ る エ ピ ソ ード を た だ 待 っ て る で く ぼう 木偶 の 坊

そうしてれば 時間 だけ 無 駄 に 過 ぎ る よ も う す ぐ そ ば

ま 待 っ て ろ ブ ル ー バ ード い ま つ か 今 捕 ま え に 行 っ ぞ

てんごく い 天国 行き の バス で 行 っ ぞ ゆ 揺 れ る ぞ ち 地に 足 を 着 ける

おのれ かんかく か 己 の 感 覚 と 交 わ した 約 束 を は 果たすまで 降 り は し な い ぜ

どんな 暴 風 雨 が 襲 っ て も ぜんりょく しつそう か ぬ 全 力 疾 走 で 駆 け 抜 け る

ぼく ざっそう よ 僕 ら は 雑 草 よ だ も 逆 の 発 想 を この 胸 に 秘 め て い る よ

このバディに 秘 め て い る よ

タガタメ

トンネルを抜けると つぎ 次のトンネルの入り口で

は果てしない闇も えいえん ひかり も ないって ちかごろ おも

だから 「自分のせいと思わない」

とか言っていないでやってみな てんごくい 天国 行きのバスで行こうよ

さあ乗っかって きみ もおいでよ どんな ぼうふうう おそ 暴風雨が襲っても

ぜんりょくしつそう か ぬ 全力 疾走 で駆け抜ける ぼく ざっそう 僕は 雑草 よ

でも ぎゃく はっそう を この むね ひ 胸に秘めて

てんごく つづ かつそうろ ぜんりょくしつそう か のぼ 天国 へと続く 滑走路 全力 疾走 で駆け昇ろう

108 の ぼんのう と そこし ぼんのう 底知れぬ 本能 を

この むね ひ に秘めているよこのパディに秘めているよ

ディカプリオの しゅつせさく 出世 作なら さつき ぼく ろくが 僕が録画しておいたから

もう 少し はなし をしよう ねむ 眠 ってしまうにはまだ はや 早いだろう

この ほし み を見ているのは きみ ぼく なんと 君と僕と あと 何人 いるかな

ある ひと な は泣いてるだろう ある ひと はキスでもしてるんだらう

こども ひがいしゃ かがいしゃ 子供らを被害者に 加害者にもせずに

この まち く で暮らすため まず なに をすべきだろう？

でももしも ひがいしゃ かがいしゃ 被害者に 加害者になったとき

でき 出来ることと言えは

なみだ なが まぶた は 涙 を流し 瞼 を腫らし

いの
祈るほかにないのか？（ただただ抱き合^{だ あ}って肩叩^{かたたた}き抱き合^{だ あ}って）（手を取^{て と}って抱き合^{だ あ}って）

ひだり ひと みぎ ひと
左の人 右の人 ふとした場所できつと繋^{つな}がってるから

かたいつぼう さば
片一方を裁けないよな 僕らは連鎖^{ぼく れんさ}する生き物だよ

この世界^{せかい}に潜^{ひそ}む 怒^{いか}りや悲^{かな}しみに あと何^{なん}度^ど出^で会^あうだろう それを許^{ゆる}せるかな？

あした
明日 もし晴^はれたら広^{ひろ}い公^{こう}園^{えん} へ行^いこう そしてブラブラ^{ある}歩^あこう

て
手をつないで 犬^{いぬ}も連^つれて 何^{なに}も考^{かん}え^がないで行^いこう

たたか 戦^{たたか}って たたか 戦^{たたか}って （誰^{だれ}がた^ため 戦^{たたか}って） （戦^{たたか}って 誰^{だれ} 勝^かった？）

だれ 誰^{だれ}がた^ためだ？ だれ 誰^{だれ}がた^ためだ？） （誰^{だれ}がた^ため 戦^{たたか}った？）

こども ひがいしや かがいしや
子供らを被^ひ害^{がい}者に 加^か害^{がい}者にもせ^ずに

この街^{まち}で暮^くらすため まず何^{なに}をすべ^ききだ^らう？

でももしも被^ひ害^{がい}者に 加^か害^{がい}者にな^ったとき

かろうじて出^で来^きることは

あい^か相^あ変^へわ^らず 性^{しょう}懲^こりもな^く

あい^い愛^{あい}すこと以^い外^{がい}にない

（ただただ抱^{だ あ}き合^あって） （肩叩^{かたたた}き抱^{だ あ}き合^あって）（手を取^{て と}って抱^{だ あ}き合^あって）

（ただ抱^{だ あ}き合^あってい^いこう）

（戦^{たたか}って たたか 戦^{たたか}って）（誰^{だれ}がた^ため 戦^{たたか}って）

（戦^{たたか}って だれ 誰^{だれ} 勝^かった？） （誰^{だれ}がた^ためだ？ 誰^{だれ}がた^ためだ？（誰^{だれ}がた^ため 戦^{たたか}った？）

HERO

たと だれ ひとり いのち と ひ か せかい すく
例えば 誰か一人の 命 と 引き換えに世界を 救えるとして

ぼく だれ なの で ま おとこ
僕は 誰かが名乗り出るのを待っているだけの 男 だ

あい ひとり ぼく おくびょうもの か
愛すべきたくさんの人たちが 僕を 臆病者 に変えてしまったんだ

ちい ころ みぶ てぶ まね あこが
小さい頃に身振り手振りを 真似てみせた 憧れになろうだなんて

だい きも
大それた気持ちはない でもヒーローになりたい

ただ ひとり きみ ころ
ただ一人 君にとっての つまずいたり 転んだりするようなら

て さ の だめ えいが も あ
そっと手を差し伸べるよ 駄目な映画を盛り上げるために

かんたん いのち す ちが ぼく み
簡単に 命 が捨てられていく 違う 僕らが見ていたいのは

きぼう み ひかり ぼく て にぎ すこ ちい て
希望に満ちた 光 だ 僕の手を握る少し小さな手

すつと むね よど と じんせい ふか あじ
すつと胸の 淀みを溶かしていくんだ 人生 をフルコースで深く 味わうための

いく だれ ようい とき にか
幾つものスパイスが 誰にも用意されていて 時には 苦かったり

しぶ おも さいご わら た
渋く 思うこともあるだろう そして最後のデザートを 笑って食べる

きみ がわ ぼく い さんこく す じかん なか
君の側に僕は居たい 残酷 に過ぎる時間の中で

きつと じゅうぶん ぼく おとな かな せつ
きつと 十分に僕も大人になったんだ 悲しくはない 切なさもない

ただこうして くりかえ されてきたことが そうこうして くりかえ していくことが

うれしい いと ずっとヒーローでありたい ただ ひとり きみ
嬉しい 愛しい ずっとヒーローでありたい ただ一人 君にとっての

ちつとも なぞ いまさら ひみつ
ちつとも 謎めてないし 今更 もう秘密はない でもヒーローになりたい

ただ ひとり きみ ころ
ただ一人 君にとっての つまずいたり 転んだりするようなら

て さ の
そっと手を差し伸べるよ

きみ こといがい なに かんが
君の事以外は 何も 考 えられない

まよなか す すぎても ねむ 寝れないから いまよる 今夜は このまま ほし み 星を見つめて

きみ き ときはなし すこ しん
君から聞いた お伽 話 少し信じてみようかな

きみ こといがい なに かんが
君の事以外は 何も 考 えられない いつも そばにいてよ いつまでも そばにいるよ

いくつになっても かぜ ふ 吹かれて いったい この先 どうなるのだろう

ぼく とほう く とき
僕が途方に 暮れてる時

きみ ことば すく
君の言葉で 救われる

きみ こといがい なに かんが
君の事以外は 何も 考 えられない

いつも そばにいてよ いつまでも そばにいるよ

こうして二人で いられる時は

ふしぎ 不思議だね いちにち 一日が すぐに過ぎてく

きみ いねむ 居眠り する 間に

あたら うた う 新 しい歌が 生まれる

きみ こといがい なに かんが
君の事以外は 何も 考 えられない

いつも そばにいてよ いつまでも そばにいるよ

きみ こといがい なに かんが
君の事以外は 何も 考 えられない

いつも そばにいてよ いつまでも そばにいるよ

my confidence song

マシンガンみたいに僕を責めて

愛しき人は去れど

あどけない日の面影に

すがれば傷つくだけ

いたずらな時の流れが

また僕を試してるなら

さあ どこまでも流れてゆくよ

everywhere I'll go

頼りなく 平和な日々 (Ah 頼りない この国は)

埋もれ僕らは もろく

愚かな自由を振りかざして (Ah ゆがんでく秩序は)

罰則 (ペナルティ) がなきや正義

永遠なる欲望の果てに

誰もが土に戻るなら

失くすものは何もないはずさ

everywhere I'll go

さあ どこまでも流れてゆくよ

everywhere I'll go

everywhere I'll go

フラジャイル

まわ まわ 回れ回れメリーゴーランド どそく ひと ころを えぐれ

な わら じんるいきょうだい しそう うか うらはら えがお
泣いて笑って人類 兄弟 死相の浮ぶ裏腹な笑顔で

どうなってるんだろう？ここ さいきん のニュース お茶の間も揺れる こんとん たるムード

ぼうかん してんのも らく じだい につぼんぜんど お よ ぼうい
傍観してんのも楽じゃない時代さ 日本 全土に押し寄せる暴威

どいつもこいつも せいぎ しゅちよう してんだな メディアは かず より じじつ を さあ 追いかけろ

「ねえ あい なに の？」って かのじよ き いて 「さあ あい なに だろ」って ぼく かえ して

かんが えてみても こた えはないし に 似たもの とうし で 一度寝ましょうか

いつかはあんたも おれ 灰になっちゃうんだよ むじゅん も 理不尽も まとめて さあ 受けとめろ

きょうそ きょうし も なんだか しゃれ になんないじゃない じぶん てあし で ピンチを さあ き ぬ 切り抜ける

さあ き ぬ 切り抜ける まわ まわ 回れ回れメリーゴーランド どそく ぼく ころを えぐれ

の うた じんるいきょうだい えたい し 得体の知れぬあやふやな世界で

さいきん じゃめつきり いさぎよ くなって コンプレックスさえ ぶき に してるんです

なに にも あれ 人間 関係 は つらいや むり し 無理とは知れどドラえもんが欲しいな

ロックで あい かぞく やしな を 養 ってるんだよ いちよう こわ 胃腸を壊しても じょうず うた あ 上手に歌い上げろ

またしても う 生まれた こきょう ふ かえ 返 ってるんだろ げんじつとうひ ゆめみ と お 飛び降りろ

だきよう ひきよう ばあい 場合によっちゃ ゆうこう ゆうが りそう 有効 だろ 優雅な理想はこのさい もう き す 切り捨てろ

こっか せいど も なんだか あてに なんない じゃない じぶん てあし で ピンチを さあ の こ 乗り越えろ

の こ
さあ 乗り越えろ

また会えるかな

また会えるかな また会えるかな ほら僕は君が気になりだした

また会えるよね また会えるよね 社交辞令であっても真に受けたいな

僕の大胆不敵な恋愛観は 君にとってもきつとプラスになんだ

お互いあれこれ事情があるんだもん そりゃつべこべゆう奴だっていると思おうけど

また会えたなら 次会う時は 愛聴盤や愛読書なんか持参で

ほんの一杯の つもりで飲んで 青春時代みたいにして 夢並べて 夢並べて

Hey Hey Hey 曖昧 模糊とした 表現 なんて

金輪際 とつばらって 君と二人愛を語り めくるめくの世界へ

職場にて疲れきった 体を 僕がそばにいて抱きしめたいな

いつも 優柔不断 じゃまずいだろう やる時はやる”ってな奴になってやろうじゃない

また会えたなら 次会う時は 君が悩み持っていたりすりゃいいな

まも 守りたくとも 君が助けを

必要 としてないんじゃない意味ないから

また会えるよね また会えるよね

社交辞令であっても 真に受けたいな 真に受けたいな

Hey Hey Hey

Love is Blindness

シーツにくるまって夜の闇を泳ぐ

みっしつ す ねったいぎよ わたしたち
密室に住む 熱帯魚 それが 私 達です

つみぶか ひみつ むね
罪深き秘密をこの胸にしまって

はかば も い
墓場まで持って行けるかな

Love is Blindness Love is Blindness

きみいがい ほ
君以外は欲しくない

いま す じぶん
今まで過ごしてきたどんな自分よりも

きみ い げんざい おも
君と生きる 現在 がいとしく 思えるんです

たと じんどう そむ こうい
例えば 人道に背く行爲というなら

むし あい ちか
虫ケラとなって愛を誓う

Love is Blindness Love is Blindness

せいじゃ
聖者でなんかいられない

つみぶか ひみつ むね
罪深き秘密をこの胸にしまって

はかば も い
墓場まで持って行けるかな

Love is Blindness Love is Blindness

きみいがい ほ
君以外は欲しくない

Love is Blindness Love is Blindness

旅人

あんちよく じゆんすい むね う わ ぼく わいせつ
安直 だけど 純粹 さが 胸を打つのです 分かってながら僕らは 猥褻

じょうほう かた かんりやくか ぶんめい りき ぼく どこ はこ
情報 過多で 簡略 化だぜ 文明 の 利器は 僕らを どうして 何処へ 運んでく

だれ しゅうだん きゅうどんた こどく おも け
誰 だって しんどい 集団 で 牛丼 食べて 孤独な 想いを 消してんだ

すこ しんぼう ぼう あせ わす さ にんじょうみ さが
ほらもう 少しの 辛抱 あわてん 坊よ 焦るな 忘れ 去られた 人情味 を 探して

さまよ ぼく あい ま たびびと てんじょう み
彷徨っている 僕ら 愛に 舞う 旅人 うつむかないで 天上 を 見よ

ころ さき つえ
転ばぬ 先の 杖 なんて いらぬ

しんばい きょう かみだの あいじょう ひょうげん じゅうにんという
でも 心配 そんなで 今日 神頼み 愛情 の 表現 なんてのは 十人十色 です

ぼく かま さき い はだか だ あ
僕に 構わず 先に行 行って くんさい 裸 で 抱き合 合

りんじん しょうらい ふあん おも み
隣人と 将来 などを 不安な 想いで 見つめ めんだ

なや つ せつ こい み な
悩みは 尽き ないや 切 ないが ぐれるな 恋に 身を 投げる ロミオ

びだん じだい ぼく たびびと
美談 にならない 時代だ よって 僕も また 旅人

いわけ じっこう せいとうか こた さが
言い 訳 せずに 実行 せよ 正当化 せず 答え を 探 探そう

ありがとう こんな 僕に 付き合 合ってくれて どうせ 駄目 なら やって みよう

かぞ き ぜつぼう あじ ゆめ お たびびと
数え 切れぬ 絶望 を 味わ 味った 夢 を 追 追う 旅人

じんせい
この 人生 を まっとう せよ

だれ ず の
誰 の もの でもない と 図に 乗 乗って しくじ じって

きょう かみだの
そんなで 今日 神頼み

デルモ

とうきょう かん おこな き じゅんぶうみつる ほ だいごうはん
東京 -パリ間を行ったり来たりして 順風 満 帆の20代 後半だね

せだいこうたい なみお の こ う
バブリーな世代 交代の波 押し退けて クライアントに媚び売ったりなんかして

じこ かんり すいみん ふそく はな よう し き
いつも自己管理 ダイエット 睡眠 不足 華やかな様であって 死んだ気になりやっただ

い ひとめ お あつか
デルモって言ったら「えっ！」ってみんなが 一目置いて 扱って

ねん まえ かん よ
4,5年も前なら そんな感じに ちょっと酔いしれたけど

さび い
寂しいって言ったら ぜいたくかな いかぶられて いつだって

こころゆる ひと ふ む いちにん じぶん だんせい かん くせつ
心 許せる人はなく 振り向けば一人きり 自分の 男性 観が屈折しているのに

せだい わら まいばん むめいじだい とも
マザコンだらけの世代を笑ってみたり 毎晩 オサカンな無名時代の友と

ちようきよりでんわ かのじょ い ことき ごかい
長距離電話 すぐでもって彼女 が云うには 「こんな事聞いて誤解しないでよ

しば けっこう きも あいだ おも
縛られるのって 結構 気持ちいいかもしれないな」あのね この 間 ふと思ったの

しあわ なに けっこん こい おんな
” 幸 せ ” ってつまり何なのよ 結婚 であつたり 恋が 女の

すべ こころ あ あな なに う
全てじゃないにしても 心 にポツカリ空いたまんまの 穴を何が埋めてくれるの

うれ かな とき なみだ はは やさ おもかげ お うた
嬉しいよな 悲しいよな 時には 涙 モデル 母の 優しき 面影を 追いかけて 唄う ふるさとの

こもりうた い
子守唄デルモって言ったら「あっ！」ってみんなが

げ み
ものめずらし気に見ちゃって

だい ころ かん
10代の頃は そんな感じを

ゆめみ
ひたすら 夢見たけど

くる 苦し^いって言^いったら 大^{おお}げさかな

かいかぶられて いつだ^{って}

こころ^あ 心^{ひと} 開^きける人^つはなく 気^{いちにん}が付けば一人きり

この^{あいだ} 間^{おも} また思^{おも}ったの

” 幸^{しあわ} せ^な ” っ^なってつ^なまり何^{なに}なのよ

こども^{つく} 子供^{つく} 作^{つく}っちゃえ^{つく}ば^{つく}って^{つく}みんな^{つく}が

かる 軽^いい^いノ^いリ^いで^い言^いう^いけど

わたし 私^{わたし} にと^{わたし}つて^{わたし}は^{わたし} 深^{しんこく}刻^{しんこく}な^{しんこく}の

み 満^みた^みさ^みれ^みな^みく^みて^み いつ^みだ^みっ^みて

うれ 嬉^{かな}しい^{かな}よ^{かな}な 悲^{かな}しい^{かな}よ^{かな}な

ちよ^{なみだ}っ^{なみだ}ぴ^{なみだ}り^{なみだ} 涙^{なみだ} モ^{なみだ}デ^{なみだ}ル^{なみだ}

まだ^{わか}まだ^{わか} 若^{わか}い^{わか}の^{わか} (デ^{わか}ル^{わか}モ^{わか})

かが^{かがや}や^{かがや} 輝^{かがや} いて^{かがや}たい^{かがや}の^{かがや} (デ^{かがや}ル^{かがや}モ^{かがや})

わたし 私^{わたし} が^{わたし} 世^{せかい}界^{せかい}の^{せかい} (デ^{せかい}ル^{せかい}モ^{せかい})

すい^{すい}え^{すい}いた^{すい}いか^{すい}い^{すい} 水^{すい}泳^{すい} 大^{まさお}会^{まさお} の^{まさお}お^{まさお}り^{まさお}も^{まさお} 政^{まさお}夫^{まさお}

ひと こと
独り言

いつも^{わら}笑っていたいんだけど

とき^{ゆる}時がそれを許しはしないだろう

いつだって^{きみ い}君と居たいんだけど

とき^{ゆる}時がそれを許しはしないだろう

きみ^{ふまん いた}君が不満を抱いているものを

すこ^{かん}少しぐらいは感じとっているんだよ

だきよう^あ妥協し合えばいいんだろうけど

ぼく^{ゆる}僕がそれを許しはしないだろう

Ah ^{いちちようまえ}一丁前に ^{こと}スケールのでかい事を

い^い言ったりして 言ったりして

だれ^{よ こえ}誰かの呼ぶ声ができるけど

いま^{こた}今は答えなくたっていいだろう？

ひと こと^{うた}
独り言のような唄だよ

きみ^き君にだけに聞こえりゃいいんだよ ^{すこ まえ}もう少し前へ ^{いちほまえ}あと一歩前へ

おいでよ ^{こと}おいでよな事を ^い言ったりして ^い言ったりして

Heavenly kiss

せんしゅう つづ みよう ちが どんかん おれ
先週 から 続いてる 妙 にすれ違ってる 鈍感 な俺 にだってわかるさ

オープンテラスのテーブル しょくじちゆう かいわ
食事 中 の会話もはずんでない こんがらがった知恵の輪 誰 のせい

でもありやしない このまま錆びついていっちゃうのかなあ

でも こんな時だって常に君は綺麗だ ぶきみ きれい 無気味なくらい 油断した際に I'll get heavenly kiss

それでみな上手いくはずなんだ なのについ 虚勢をはってつい

うらはら たいど あや であ ひ ふたり
裏腹の態度 危ういムード 出合いの日の二人のような

やさ むじゃき すなお うら たと
優しさ 無邪気さ 素直さが恨めしい 例えるならなんだろう？

しんごうき おれ いまなんしよく
信号機ならどうだろう？ 俺らって今何色なんだろう？ Blue Red Yellow

かんが こう ほど おれ ごうまん きみ たいまん
考 えりや考える程 ぞっとしてしまう 俺が傲慢になったか？ 君が怠慢になったか？

そんな事もうどうだっていいや こた きみ うしな
答えはただひとつ 君を失いたくはない ただそれだけ

だれ いと だれ にく きも し きみ あ いらい すべ
誰より愛しく 誰より憎い こんな気持ちは知らなかった けれど YOU 君に会って以来 全てが

すこ か もうめ み てさぐ げき
少しずつ 変わっちゃってんだ 盲目ゆえに 見えるものもある 手探りのドタバタ劇 そういつだって

I lost in you もう一杯ビール飲むか 赤くなったっていいじゃないたまにや理性をすてんのもいいぞ

ば かわ は きみ あい おれ ことば こ
化けの皮を剥いだ君を愛せるのはそう俺ぐらいなもんさ Shall we heavenly kiss 言葉を超えて Kiss

ふ お ながす やさ げんそう ただよ
腑に落ちなくなつていいじゃないか 長過ぎず 優しくすぎぬ Kiss ちよつと幻想に漂って

であ ひ ににんいじょう つよ
出合いの日の二人 以上に強い

おも きら いっしゆん よみがえ
想いが 煌めきが この一瞬で 甦る

Heavenly Kiss

ねん なつ おきなわ
1999年、夏、沖縄

ぼく はじ おきなわ とき なん ものがな おも
僕が初めて沖縄にいった時 何となく物悲しく思えたのは

にっぽん しゆくず かこ
それがまるで日本の縮図であるかのように アメリカに囲まれていたからです

ねん なつ おきなわ からだ あつ
とはいえ94年、夏の沖縄はTシャツが体にへばりつくような暑さで

ゆううつ ぜんぶよる うみ ぬ す てきとう に さんはつ こい
憂鬱なことは全部夜の海に脱ぎ捨てて 適当に二、三発の恋もしました

ミンミン ミンミンと せみ な が鳴っていたのは かんき うた かなげ
ミンミン ミンミンと蝉が鳴いていたのは 歓喜の歌かそれとも嘆きのブルースか

し せみ こえ に な わら うた かな ぼく すす
もはや知るすべはないがあつた蝉の声に似たような泣き笑いの歌を奏で僕らは進む

まち ある ひと であ くち かず
いろんな街を歩き いろんな人に出会い 口にしたさようならは数しれず

いまおも だいたん おも だれ あい さけ あじ おぼ
そして今想うことは 大胆にも想うことは ああ もっともっと誰かを愛したい 酒の味を覚え

はじ の ある
初めてからは いろんなモノを飲み歩きもしました

せかいいち さけ み ひっし はたら のち さけ
そして世界のお酒を見つけました それは必死で働いた後の酒です

せんご にっぽん ささ もの しょうたい なん す み ころ
戦後の日本を支えた物の正体が 何となく透けて見えるこの頃は

へいわ じゆう なに こっか かぞく なに え かんが
平和とは自由とは何か 国家とは家族とは何か 柄にもなく考へてたりもしています

う ばしょ はな ゆめ とお ぼく たど つ
生まれた場所を離れ 夢からも遠くそれで ああ僕はどこへ辿り着くのだろう

きょう でんしゃ ゆ しゃそう うつ かお
今日も電車で揺られ 車窓に映る顔は

そうほんのちよっとくたびれているけれど

かみ われとう すく たま かがく か
神は我等を救い賜うのでしょうか それとも科学がそれに代わるのでしょうか

えいえん おも やぼ ぜんとう ねが
永遠でありたいと思うのは野暮でしょうか 全能でありたいと願うのエゴでしょうか

とき なが はや さんじゆう ぼく なに のこ い
時の流れは速く もう三十なのだけれど ああ僕に何が残せると言うのだろう

か
変わっていったモノと ^{いま} かわらぬモノが

ああ ^よ 良くも ^{わる} 悪くもいっぱいあるけれど

そして 99年 ^{ねんなつ} 夏の ^{おきなわ} 沖縄で ^と 取りあえず ^{ぼく} 僕らの ^{たび} 旅も ^お また終わり

^{あい} 愛する ^{ひと} 人たちと ^{あい} 愛してくれた ^{ひと} 人たちと ^{せかいいち} 世界一の ^{さけ} 酒を ^の 飲み ^か 交わしたのです

^{さいご} 最後の ^{きょく} 曲が ^お 終わり ^{おと} 音が ^や なり ^{とき} 止んだ時 ^{ぼく} ああ僕は ^{なに} そこで ^{おも} 何を ^{おも} 思ったのだろう

^{えら} 選んだ ^{みち} 路とは ^{とき} いえ ^{けわ} 時に ^{けわ} 陰しくもあり

^{さい} 些細な ^{こと} 事で ^{ぼく} 僕らは ^な 泣き ^{わら} 笑う

いろんな ^{まち} 街を ^{ある} 歩き ^{ひと} いろんな ^{であ} 人に出会う ^{であ} これから ^{であ} だって ^{であ} それは ^{であ} そう ^{であ} なんだけど

そして ^{いまおも} 今 ^{おも} 想う ^{ひと} ことは ^{おも} たった ^{おも} 一つ ^{おも} 想う ^{おも} ことは

ああ ^{まち} いつか ^{うた} また ^{うた} この ^{うた} 街で ^{うた} 歌 ^{うた} いたい

ああ ^{まち} きっと ^{うた} また ^{うた} あの ^{うた} 街 ^{うた} でも ^{うた} 歌 ^{うた} いたい

ああ ^{きみ} そして ^{うた} 君 ^{うた} に ^{うた} この ^{うた} 歌 ^{うた} を ^{うた} 聞 ^{うた} かせたい

さよなら2001^{ねん}年

まいつきき 毎月 決まった日 振り込まれてくるサラリーのように

へいわ 平和はもう 僕等の前に 当たり前 存在はしてくれないけど

おな ねえ 同い 過ち 僕等は繰り返す

けつきよくだれ 結局 誰も 解けない 宿題

ねえ かみさま 神様

あなたは 何人 いて 一体 誰が 本物 なの？

ぼく 僕にだけ こそ 教えてよ

もし 優しさが 意味を無くして

あらゆる 人が 武器を取るなら

ねえ かみさま 神様

ぼく 僕を 握り潰して そっと 火を付けてくれないかなあ

けむり 煙 になって 願いを 空へと 届けるから

ぼく等 僕等の 前にもう 少しでも 楽しい 未来が 降るように

あなたの 前にもう 少しでも 無邪気な 笑顔が 降るように

きょう 今日よりも 現在よりも

きみ 君は 拳を 強く 握って

だけど 誰にも 振り下ろせはしない

ねえ かみさま 神様

ぼくとう か
僕等に課せられてる そんな使命しめいがあるとしたら

しんか
進化しんかむこと？ それとも総すべてを終わおらすこと？

ぼくとう まえ すこ
僕等の前まえにもう少すこしだけ まともな世界せかいが降ふるように

あなたの前まえにもう少すこしだけ 嬉うれしい知しらせが降ふるように

きょう げんざい
今日きょうよりも 現在げんざいよりも

まいつきき ひ ふ こ きゅうりょう
毎月決まいつききまった日ひ 振ふり込まこまれてくるお給きゅうりょう料りょうのように

へいわ ぼくとう まえ あ まえ ぞんざい
平和へいわはもう僕等ぼくとうの前まえに 当あたり前まえに 存ぞんざい在ざいはしてはしてくれくれないけど

まいつきき ひ ふ こ
毎月決まいつききまった日ひ 振ふり込まこまれてくるサらラりーのりょうに

へいわ ぼくとう まえ あ まえ ぞんざい
平和へいわはもう僕等ぼくとうの前まえに 当あたり前まえに 存ぞんざい在ざいはしてはしてくれくれないけど

ことし
今年ことしことはきつとあなたに

たくさんたくさんのくいいことさがありますんように

あなたの前まえに 優やさしい声こえが響ひびくように

ことし
今年ことしこそはきつとあなたに

たくさんたくさんのくいいことさがありますんように

ことし せかい
今年ことしこそはきつと世界せかいに

たくさんたくさんのくいいことさがありますんように

さよなら 2001年ねん

I'm Sorry

あれは^{ちまよ}血迷^{ぼく}ってた^{おも}僕^すの^す思い^す過^すご^すし^すて^すした

は^{ちわり}わり^いい^い八^い割^い位^いは^いあ^いな^いた^いの^い言^いっ^いた^い通^いり^いで^いし^いた

いま^ひしが^ひた^ひ人^ひづ^ひて^ひで^ひご^ひよう^ひす^ひし^ひ御^ひ様^ひ子^ひを^ひ知^ひり^ひま^ひし^ひた

お^わ詫^わび^わし^わま^わす^わこ^わこ^わろ^わ心^わか^わら

だい^えす^え大^え好^えき^えだ^えっ^えた^えあ^えの^え笑^え顔^えを^えも^えう^え一^え度^え

だい^こき^こら^こ大^こ嫌^こい^こな^こん^こて^こな^こじ^こん^こない^こで^こ今^こ後^こと^こも

ひと^ちく^ちぎ^ち一^ち区^ち切^ちり^ちつ^ちい^ちた^ちら^ちち^ちゅう^ちか^ち中^ち華^ちで^ちも^ちお^ちご^ちる^ちか^ちら

あ^めふ^め雨^め降^めっ^めて^め地^め固^めま^める^めと^めそ^めの^めこ^めと^めわ^めざ^め通^めり^め

あ^かる^か歩^かき^かま^かし^かょう^かか^かた^かな^から^か肩^か並^かべ^かて^かま^かた^かま^かざ^かわ^かど^かお^か通^かり^か

い^ひた^ひし^ひか^ひた^ひな^ひい^ひな^ひど^ひと^ひひ^ひら^ひな^ひお^ひき^ひ開^ひき^ひ直^ひる^ひ気^ひな^ひど^ひな^ひい

お^わ詫^わび^わし^わま^わす^わこ^わこ^わろ^わ心^わか^わら^わじん^わせい^わ人^わ生^わだ^わっ^わて^わあ^わな^わた^わが^わい^わな^わく^わち^わゃ^わ味^わ気^わな^わい^わ

いま^のご^のろ^の今^の頃^のに^のな^のっ^のて^のき^のづ^の気^の付^のい^のた^の訳^ので^のは^の決^のし^のて^のな^のい^のもし^のも^の望^のむ^のの^のな^のら

ど^げざ^げ土^げ下^げ座^げで^げも^げな^げん^げで^げも^げす^げる^げか^げら^げす^げる^げか^げら^げわ^げら^げゆ^げる^げ笑^げっ^げて^げ許^げし^げて

あれは^{ちまよ}血迷^{ぼく}ってた^{おも}僕^すの^す思い^す過^すご^すし^すて^すした^す九^{きゅう}割^{わり}近^{ちか}く^はあ^いな^いた^いの^い言^いっ^いた^い通^いり^いで^いし^いた

だい^えす^え大^え好^えき^えだ^えっ^えた^えあ^えの^え絵^えが^えを^えも^えう^え一^え度^え大^{だい}嫌^きい^らな^らん^らて^らな^らじ^らん^らない^らで^ら今^{こん}後^ごと^ごも

じん^{せい}せい^{せい}人^{せい}生^{せい}だ^{せい}っ^{せい}て^{せい}あ^{せい}な^{せい}た^{せい}が^{せい}い^{せい}な^{せい}く^{せい}ち^{せい}ゃ^{せい}味^{せい}気^{せい}な^{せい}い^{せい}今^{いま}頃^ごに^ごな^ごっ^ごて^ごき^きづ^き気^き付^きい^きた^き訳^{わけ}で^{わけ}は^{わけ}決^けし^けて^けな^けい

もし^のも^の望^のむ^のの^のな^のら^の土^ど下^げ座^ざで^ざも^ざな^ざん^ざで^ざも^ざす^ざる^ざか^ざら^ざす^ざる^ざか^ざら

わ^らら^らゆ^らる^ら笑^らっ^らて^ら許^らし^らて

I'm sorry . . .

とど
届いてくれるといいな

きみ わ ぼく いまかな
君の分かんないところで 僕も今 奏でてるよ

そだ しお しんめ おんぷ
育たないで萎れてた新芽みたいな音符(おもい)を

ふた かさ な
二つ重ねて鳴らすハーモニー

く かえ ぼく
「ありがとう」と「ごめんね」を繰り返して僕ら

ひとこい つみき の
人恋しさを積木みたいに乘せてゆく

じかん いと おも
ありふれた時間が愛しく思えたら

あい しわざ ちい わら
それは”愛の仕業”と 小さく笑った

きみ み しぐさ ぼく む
君が見せる仕草 僕に向けられてるサイン

なに みお
もう 何ひとつ見落とさない

かんが
そんなことを考えている

むとんじやく ことば よご あ
たまに無頓着な言葉で汚し合って

たが みじゆく いやけ
互いの未熟さに嫌気がさす

はだか あま たいおん ふ
でもいつかは 裸になり甘い体温に触れて

やさ み あ
優しさを見せつけ合う

に ちが おな におい
似てるけどどこか違う だけど同じ匂い

しんたい ころ あい
身体でも心でもなく愛している

Sign

わ^ず 僅 かだ^あって明^{こころ}かりが心^{とも}に灯^{とも}るなら

たい^{せつ} 大切 にしな^きゃ と僕^{ぼく}らは誓^{ちか}った

めぐ^り逢^あった すべて^あのものから送^{おく}られるサイン

もう ^{なに}何^{みのが}ひとつ見^み逃^{のが}さない

そう^くやって暮^くらしてゆ^こう

み^{どり}ど^う 緑^{こも} 道^びの木^{きみ}漏^きれ日^ゆが君^ゆにあた^あって揺^ゆれる

じ^{かん} 時^{うつく}間^し(と^しき)の美^{うつく}しさ^{さんこく}と残^し酷^くさを知^しる

の^こ 残^{じかん}された時^{ぼく}間^{ぼく}が僕^{ぼく}らにはあ^あるから

たい^{せつ} 大切 にしな^きゃ と小^{ちい}さく^{わら}笑^{わら}った

き^み 君^みが見^{しぐさ}せる仕^{ぼく}草^{つよ} 僕^{つよ}を強^{つよ}くさ^{つよ}せるサイン

もう ^{なに}何^{みお}ひとつ見^み落^おとさない

そう^くやって暮^くらしてゆ^こう

そんな^{かんが}ことを考^{かんが}え^{かんが}ている

もうそう
想 満月

よる こうえん
夜の公園で タバコをふかし

であ がしら きみ こい
出会い 頭の 君に恋する

となり
隣のベンチに きみ すわ
君が座って

かぜ ふ すてき かお
風が吹くたび 素敵な香り

そと まんげつ ふんべつ やみ ふさ
外は満月 分別 なんてのは 闇に塞がせて

きみ こころ けが
君の心のすべての穢れを

おし
教えて

きみ か おおがたいぬ おれ ほ
君が飼ってる 大型犬が 俺に吠えてる

なに
何もしていないのに

ちよう き めかく ちい はな
朝が来たなら 目隠しをして 小さく話そう

きみ にくたい みだ
君の肉体のすべての乱れを

おし
教えて

おとこ ほう きみ か
男の方へ 君は駆けてく

かれし
彼氏なのかな？ただの友かな？

な し きみ
名も知らぬ君

こんな風^{ふう}にひどく蒸^むし暑い^{あつ}日^ひ

エビバデ・クラブ・ユアー・ハンズ

きっと素敵^{すてき}な事^{こと}も沢山^{たくさん}あるでしょう

でも こんな風^{ふう}にひどく蒸^むし暑い^{あつ}日^ひは

おも^{おも}だ^だ
思い出^{おぼえ}してしまうんだ

その日^ひ 記録^{きろく}的な猛暑^{もうしょ}が僕^{ぼく}らを襲^{おそ}ってきて

えいがかん^{えいがかん} に こ^こ ひわい^{ひわい} えいがみ^{えいがみ}
映画館^{えいがかん} に逃げ込んで卑猥^{ひわい}な映画^{えいが}見た

へや^{へや} つ^つ ぼく^{ぼく} は ガラス^{がらす} 窓^{まど} 閉^しめ切^きって

エアコンのない君^{きみ}の部屋^{へや}で ただ^{ただ} 夢中^{むちゆう} になっ

なが^{なが} だ^だ
流^{なが}れ出したモノでシーツ^{しーつ}が濡^ぬれてしまっ

きみ^{きみ} は ゴミ^{ごみ}でも捨^すてるように洗濯^{せんたく}機^きに入^いれた

わす^{わす} す^す
忘^{わす}れて過^{すご}してんだ そんな光景^{こうけい}は

いま^{いま} にようぼう^{にようぼう} こ^こ
今^{いま}じゃ女房^{にようぼう} も子^こもある

でもこんな風^{ふう}にひどく蒸^むし暑い^{あつ}日^ひは

おも^{おも}だ^だ
思い出^{おぼえ}してしまうんだ

キャスターは 温暖^{おんだんか}化^かの深刻^{しんこく}さ 訴^{うた}える

いじょう^{いじょう}
「異常^{いじょう}ですね」っておばちゃんも広場^{ひろば}で話^{はな}してる

じんるい ゆ すえ かんが ふあん
人類の行く末 考 えると不安で

みずびた ちきゅうぎ ゆめ なか う
水浸しの地球儀が夢の中でプカプカ浮いていた

わす ころけい
忘れたふりしてんだ あんな光景は

こわ
そんなに怖がってもいらんない

ふう む あつ ひ
でもこんな風にひどく蒸し暑い日は

おも だ
思い出してしまうんだ

エビバデ・クラブ・ユアー・ハンズ

すてき こと たくさん
きっと素敵な事も沢山あるでしょう

ふう む あつ ひ
でも こんな風にひどく蒸し暑い日は

おも だ
思い出してしまうんだ

エビバデ・クラブ・ユアー・ハンズ

すてき こと たくさん
きっと素敵な事も沢山あるでしょう

ふう む あつ ひ
でも こんな風にひどく蒸し暑い日は

おも だ
思い出してしまうんだ

エビバデ・クラブ・ユアー・ハンズ

ゆうらくちょう いまよる あそ
有楽町で今夜ホステスさんと遊ぶよ

ふう む あつ ひ
でも こんな風にひどく蒸し暑い日は

おも だ
思い出してしまうんだ

おも だ おも だ
思い出したくないが 思い出してしまうんだ

HAPPY BIRTHDAY

たんじょうび ひ きみ
誕生 日の日に君が

ぼく
僕にくれたプレゼント

だいす まほろし
大好きなアイツらの 幻 のレコードさ

ありがとう お返しに

ぼく た
僕らの出すレコードには

うた い きょく でんぱ きみ あい
この歌を入れてラジオ 局 から電波で君 への愛のメッセージ

HAPPY BIRTHDAY

HAPPY BIRTHDAY

HAPPY BIRTHDAY YOU&ME

HAPPY BIRTHDAY

HAPPY BIRTHDAY

HAPPY BIRTHDAY YOU&ME

DJはこの僕さ

いろんなワガママが通る

ひ すべ きょく きみ だいす
この日ばかりは 全ての 曲 が 君の大好きなナンバー

いま ゆめ はなし ほんとう
今は夢の 話 でもいつか 本当にするから

わら ま うた き
笑わずに待っててね この歌が聞こえるのを

HAPPY BIRTHDAY

HAPPY BIRTHDAY

HAPPY BIRTHDAY YOU&ME

HAPPY BIRTHDAY

HAPPY BIRTHDAY

HAPPY BIRTHDAY YOU&ME

Heavenly kiss

せんしゅう つづ みょう ちが どんかん おれ
先週 から 続 いてる 妙 に すれ 違 ってる 鈍 感 な 俺 に だ っ て わ かる さ

オープンテラスのテーブル しょくじちゆう かいわ
食 事 中 の 会 話 も は ず ん で な い こ ん が ら が っ た 知 恵 の 輪 誰 の せ い
でも あり や し な い

この ま ま 錆 び つ い て い っ ち ゃ う の か な あ

でも こ ん な 時 だ っ て 常 に 君 は 綺 麗 だ ぶ き み きれ い 油 断 し た 隙 に I'll get heavenly kiss

それ で み な 上 手 く い く は ず な ん だ な の に つ い 虚 勢 を は っ て つ い

うらはら たいど あや
裏 腹 の 態 度 危 う い ム ー ド 出 会 い の 日 の 二 人 の よ う な

やさ むじゃき すなお うら たと
優 し さ 無 邪 気 さ 素 直 さ が 恨 め し い 例 え る な ら な ん だ ろ う ?

しんごうき おれ いまなんしよく
信 号 機 な ら ど う だ ろ う ? 俺 ら っ て 今 何 色 な ん だ ろ う ?

Blue Red Yellow かんが こう ほど
考 え り や 考 え る 程 ぞ っ と し て し ま う

おれ ごうまん きみ たいまん
俺 が 傲 慢 に な っ た か ? 君 が 怠 慢 に な っ た か ?

そんな 事 も う ど う だ っ て い い や

こた
答 え は た だ ひ と つ 君 を 失 い た く は な い た だ そ れ だ け

だれ いと だれ にく
誰 よ り 愛 し く 誰 よ り 憎 い

こんな 気 持 ち は 知 ら な か っ た

けれど YOU きみ あ いらい
君 に 会 っ て 以 来

すべ すこ か
全 て が 少 し ず つ 変 わ っ ち ゃ っ て ん だ

もうめ 見え みる
盲目ゆえに 見えるものもある

てさぐ げき
手探りのドタバタ劇 そういつだって I lost in you

いっばい の
もう一杯 ビール飲むか？

あか
赤くなっただっていいじゃない

りせい
たまにや理性をすてんのもいいぞ

ば かわ は きみ あい おれ
化けの皮を剥いだ 君を愛せるのは そう俺ぐらいなもんさ

ことば こ
Shall we heavenly kiss 言葉を超えて Kiss

ふ お
腑に落ちなくなっただっていいじゃないか

ながす やさ
長過ぎず 優しすぎぬ Kiss

げんそう ただよ
ちょっと幻想に 漂って

であ ひ ににんじょう つよ
出合いの日の二人 以上に強い

おも きら いっしゆん よみがえ
想いが 煌めきが この一瞬で 甦る

Heavenly Kiss

ひとり言

いつも笑っていたいんだけども 時ときがそれを許ゆるしはしないだろう

いつだって君きみと居いたいんだけども

時ときがそれを許ゆるしはしないだろう 君きみが不満ふまんを抱いだいているものを

すこ 少すこしぐらいは感かんじとっているんだよ

だきよう あ 妥協だきようし合あえばいいんだろうけど

ぼく 僕ぼくがそれを許ゆるしはしないだろう

Ah 一丁いちちようまえ前に スケールのでかい事ことを

言いったりして 言いったりして 誰だれかの呼よぶ声こえがするけど

いま こた 今いまは答こたえなくたっていいだろう？ 独ひとり言ごとのような唄うただよ

きみ 君きみにだけに聞きこえりゃいいんだよもう少し前すこ まえへ あと一歩いちほまえ前まえへ

おいでよ おいでよ てな事ことを 言いったりして 言いったりして

デルモ

とうきょう かん おこな き じゅんぷうみつる ほ だいこうはん
東京-パリ間を 行ったり来たりして 順風 満 帆の 20代 後半だね

バブリーな^{せだいこうたい}世代交代の^{なみお}波押し退けて クライアントに^こ媚び^う売ったりなんかして

いつも自己^{じこ}管理^{かんり} ダイエット ^{すいみん}睡眠^{ふそく}不足 ^{はな}華^{よう}やかな^し様^きであって ^し死^きんだ^き気^きになりやっつてんだ

デルモって^い言^いったら「えっ！」ってみんなが ^{ひとめ}一目^お置いて ^{あつか}扱^あって

4,5年^{ねん}も^{まえ}前^{かん}なら ^{かん}そんな^よ感じ^よに ^よちょっと^よ酔^よい^よし^よれた^よけど

^{さび}寂^いしい^いって^い言^いったら ^いぜ^いいた^いく^いかな ^いか^いか^いぶ^いら^いれて ^いいつ^いだ^いって

こころゆる ^{ひと}ひと ^ふふ ^むむ ^{いちにん}いちにん ^{じぶん}じぶん ^{だんせい}だんせい ^{かん}かん ^{くっせつ}くっせつ
心 許せる人はなく 振り向けば一人きり 自分の 男性 観が 屈折しているのに

マザコンだらけの^{せだい}世代^{わら}を^{まいばん}笑^{むめい}って^{じだい}み^{とも}たり 毎^{とも}晩^{とも} オ^{とも}サ^{とも}カ^{とも}ン^{とも}な^{とも}無^{とも}名^{とも}時^{とも}代^{とも}の^{とも}友^{とも}と

ちようきよりでんわ ^{かのじよ}かのじよ ^いい
長距離電話^いそ^いん^いでも^いって^い 彼^い女^いが^い云^いう^いには

「こんな^{こと}事^き聞^きいて^き誤^ご解^{かい}しない^いで^いよ ^{しば}縛^{けっこう}られる^{きも}の^{きも}って ^{けっこう}結^{きも}構^{きも}気^{きも}持^{きも}ち^{きも}い^{きも}い^{きも}か^{きも}も^{きも}し^{きも}ん^{きも}ない^{きも}な」

あのね この^{あいだ}間^{おも} ふ^{しあわ}と^な思^なった^なの ” 幸^なせ^な”^なって^なつ^なま^なり^な何^ななのよ

けっこん ^{こい}こい ^{おんな}おんな ^{すべ}すべ
結^{すべ}婚^{すべ}であ^{すべ}つ^{すべ}たり ^{すべ}恋^{すべ}が^{すべ}女^{すべ}の^{すべ} ^{すべ}全^{すべ}て^{すべ}じ^{すべ}ゃ^{すべ}ない^{すべ}に^{すべ}し^{すべ}ても

こころ ^ああ ^{あな}あな ^{なに}なに ^うう
心^うに^うポ^うッカ^うリ^う空^ういた^うま^うん^うま^うの ^う穴^うを^う何^うが^う埋^うめ^うて^うく^うれる^うの

うれ ^{かな}かな ^{とき}とき ^{なみだ}なみだ
嬉^{なみだ}しい^{なみだ}よ^{なみだ}な ^{なみだ}悲^{なみだ}しい^{なみだ}よ^{なみだ}な ^{なみだ}時^{なみだ}に^{なみだ}は ^{なみだ}涙^{なみだ} ^{なみだ}モ^{なみだ}デ^{なみだ}ル

はは ^{やさ}やさ ^{おも}おも ^かか ^おお ^{うた}うた ^{こもり}こもり ^{うた}うた
母^{こもり}の^{こもり}優^{こもり}し^{こもり}き^{こもり}面^{こもり}影^{こもり}を ^{こもり}追^{こもり}い^{こもり}か^{こもり}け^{こもり}て^{こもり}唄^{こもり}う ^{こもり}ふ^{こもり}る^{こもり}さ^{こもり}と^{こもり}の^{こもり}子^{こもり}守^{こもり}唄

デルモって言ったら「あっ！」ってみんなが ものめずらし^げ気^みに見ちゃって

10代の頃は そんな^{かん}感じを ひたすら^{ゆめみ}夢見たけど

苦しいって言ったら ^{おお}大げさかな かいかぶられて いつだって

心^あ開ける人はなく ^{ひと}気が付けば ^{いちにん}一人きり

この ^{あいだ}間 ^{おも}また思ったの

” ^{しあわ}幸 ^せ”ってつまり ^{なに}何なのよ

^{こどもつく}子供作っちゃえばってみんなが

^{かる}軽いノリで ^い言うけど

^{わたし}私 ^{しんこく}にとっては ^{しんこく}深刻なの

^み満たされなくて いつだって

^{うれ}嬉しいよな ^{かな}悲しいよな

ちよっぴり ^{なみだ}涙 ^{モデル}モデル

まだまだ ^{わか}若いの(デルモ)

^{かがや}輝 ^{いてたいの}いてたいの (デルモ)

^{わたし}私 ^{せかい}が世界の (デルモ)

^{すいえいたいかい}水泳 ^{まさお}大会 ^ののりも ^{まさお}政夫

旅人

あんちよく　じゆんすい　むね　う　わ　わか　ながら　ぼく　わいせつ
安直　だけど　純粹　さが　胸　を　打つ　のです　分　か　つ　て　な　が　ら　僕　ら　は　猥　褻

じょうほう　かた　かんりやく　か　ぶんめい　りき　ぼく　どこ　はこ
情報　過　多　で　簡　略　化　だ　ぜ　文　明　の　利　器　は　僕　ら　を　ど　う　し　て　何　処　へ　運　ん　で　く

だれ　しゅうだん　ぎゅうどん　た　こどく　おも　け
誰　だ　つ　て　し　ん　ど　い　集　団　で　牛　丼　食　べ　て　孤　独　な　想　い　を　消　し　て　ん　だ

ほら　もう　すこ　しんぼう　ぼう　あせ　わす　さ　にんじょうみ　さが
ほ　ら　も　う　少　し　の　辛　抱　あ　わ　て　ん　坊　よ　焦　る　な　忘　れ　去　ら　れ　た　人　情　味　を　探　し　て

さまよ　ぼく　あい　ま　たびびと
彷徨　つ　て　い　る　僕　ら　つ　て　愛　に　舞　う　旅　人

う　つ　む　か　な　い　で　てんじょう　み
う　つ　む　か　な　い　で　天　上　を　見　よ

ころ　さき　つえ
転　ば　ぬ　先　の　杖　な　ん　て　い　ら　な　い

しんぱい　きょう　かみだの
で　も　心　配　そ　ん　で　今　日　も　ま　た　神　頼　み

あいじょう　ひょうげん　じゅうにん　という
愛　情　の　表　現　な　ん　て　の　は　十　人　十　色　で　す

ぼく　かま　さき　い
僕　に　構　わ　ず　先　に　行　つ　て　く　ん　さ　い

はだか　だ　あ
裸　で　抱　き　合　つ　て

りんじん　しょうらい　ふあん　おも　み
隣　人　と　将　来　な　ど　を　不　安　な　想　い　で　見　つ　め　ん　だ

なや　つ　せつ
悩　み　は　尽　き　な　い　や　切　な　い　が　ぐ　れ　る　な

こい　み　な
恋　に　身　を　投　げ　る　ロ　ミ　オ

びだん　じだい
美　談　に　な　ら　な　い　時　代　だ

ぼく　たびびと
よ　つ　て　僕　も　ま　た　旅　人

いわけ じっこう
言い訳 せずに実行せよ

せいとうか こた さが
正当化せず答えを探そう

ありがとう こんな ^{ぼく}僕に ^あ付き合ってくれて

だめ
どうせ駄目ならやってみよう

かぞ き ぜつぼう あじ ゆめ お たびびと
数え切れぬ 絶望を味わった 夢を追う 旅人

じんせい
この 人生をまっとうせよ

だれ
誰のものでないと ^ず図に乗って ^のしくじって

きょう かみだの
そんで今日もまた 神頼み

Love is Blindness

シーツにくるまって^{よる やみ およ}夜の闇を泳ぐ

みっしつ ^すねったいぎよ ^{わたしたち}それが私達です
密室に住む 熱帯魚

つみぶか ^{ひみつ} ^{むね}罪深き秘密をこの胸にしまって

はかば ^も ^い墓場まで持って行けるかな

Love is Blindness Love is Blindness

きみが ^い ^ほ君以外は欲しくない

いま ^す ^{じぶん}今まで過ごしてきたどんな自分よりも

きみ ^い ^{げんざい} ^{おも}君と生きる現在がいとしく思えるんです

たと ^{じんどう} ^{そむ} ^{こうい}例えば 人道に背く行爲というなら

むし ^{あい} ^{ちか}虫ケラとなって愛を誓う

Love is Blindness Love is Blindness

せいじゃ ^で ^{なんかい} ^{られない}聖者でなんかいられない

つみぶか ^{ひみつ} ^{むね}罪深き秘密をこの胸にしまって

はかば ^も ^い墓場まで持って行けるかな

Love is Blindness Love is Blindness

きみが ^い ^ほ君以外は欲しくない

Love is Blindness Love is Blindness

そらふう かえ
空風の帰り道

からっ 風が吹いたから 少し手をつないで歩こうよ

はな くさき なら ぼく
花や草木に習い僕ら かるく揺れながら

さくやみ なか
昨夜見たテレビの中

やまい こども な
病の子供が泣いていた

だからじゃないがこうしてられること

かんしゃ
感謝をしなくちゃな

きょう ひ お
今日の日が終わる

また らいしゅう あ
また来週に会える

「さよなら」は かな ひび
悲しい響きだけど

くん とならば あい ことば
君とならば愛の言葉

く やんでも なげ
悔やんでも 嘆いてても

じかん す
時間は過ぎてしまうから

はな くさき なら ぼく
花や草木に習い僕ら

だま て ふ
黙って手を振ろう

きょう ひ お
今日の日が終わる

また かなら あ
また必ず会える

「さよなら」は^{かな}悲しい^{ひび}響きだけど

ぼく^いが^{あい}言えば^{ことば}愛の言葉

からっ^{かぜ}風が^ふ吹いたから

ポケットに^て手を入れて^いある^{ある}歩くよ

はな^{くさき}や^{なら}草木に^{ぼく}習い^は僕は

む^{かぜ}向かい^{かぜ}風をうけて

ひとり^{てい}一人で^{てい}バス^{てい}停まで

からっ^{かぜ}風の^{かえ}帰り^{みち}道

ち かん
血の管

かわしも ほう ひか
川下の方で光る

すいめん かん み
水面 ぼんやり見てた

そつと目を閉じてみる

あなたを かん 感じる

いろど ま
彩りを増すばかり

いと ひ おもかげ
愛しい日の面影

もどかしい ほど
程

こころ ふ つも
心に降り積る

やわはだ うえ う
柔肌の上に浮かぶ

ち かん
血の管にくちづけた

あの 夜を よる おも
想いだす

ひと かん
独りを感じる

Pink～^{きみよう ゆめ}奇妙な夢／

むらさきいろ わた ろうか
紫色の渡り廊下で

かお おとこ であ
顔のない男と出会う

ぼく ほう み わら
僕の方を見て笑ってるから

べつ こわ ある
別に怖くはないが歩けない

かべ かいが にちまえ ぼく きおく えが
壁の絵画に2,3日前の僕の記憶が描かれてて

よこ 横にいるのが たぶん きみ
横にいるのが多分君だな

にかい ろうば わずら
二階の老婆は患ってる

よご て ぼく さ だ
汚れた手僕に差し出す

きみ 君はバッグをあけてピンクの

だま わた ほほえ
ガラス玉を渡して微笑む

それはなんだろう？ きつとなんかを

あらわ 表してる いんゆ (メタファー) なんだろう？

ぼく 僕にもおくれよ きみ 君のピンクで染めて

きみよう ゆめ なか
奇妙な夢の中から

ぼく のぞ
僕らを覗いてみると

ほんとう ふたり すこ
本当の二人より少しマシに見せてくれるよ

いま のんど おく ほう
今 咽の奥の方から

おも
思いをえぐり出してみるから

ぼく て ひ よる
僕が手を引く夜においでよ

となり ねむ らたい おんな
隣で眠る裸体の女が

ふきげん ねがえ う
不機嫌そうに寝返りを打つ

それが何故かは分からないけど

たぶん ぼく ふまん いた
多分僕に不満を抱いてる

きょう まんげつ そと ほう
今日は満月 外の方から

さけ ごえ き
叫び声が聞こえてくる

な
泣いてるのかなあ？

よがり ごえ だ な きつと
よがり声だな きつと

は
恥じらいがあった昨日より

さらけだ 出した きょう ほう
さらけ出した今日の方がより

たしょうき 黄ばんで見えたりしてるけど 愛しさは増えるよ

なに
何したって構わないから

きみ す
君の好きなようにしとくれよ

あした ぼく ゆめ こわ
明日も僕の夢を壊してよ

おも^のこ^きのう
思^いを飲^み込^んだ昨^日より

ぶちまけた^きよ^うほ^う
今日^の方^がより

たし^{ょう}く^ろ
多^少は黒^ずん^だりして^るけど ^{いと}愛^しさは^ふ増^えるよ

いま^のん^どお^くほ^う
今^の咽^の奥^の方^から

おも^だ
思^いをえ^ぐり出^して^みる^から

ぼ^くて^ひよ^る
僕^が手^を引^く夜^にお^いで^よ

お^いで^よ

花言葉

コスモスの花言葉に揺れながら

身の程を知らないまま 可能性を漁り 魔が差した僕にさよなら

夏の終わり あの日見せた 僕の知らなかった顔

哀れみと背伸びで告げられた別れ 僕の全て 君に知って欲しかったのに

コスモスの咲く季節に君は去った 種を蒔き散らかして

摘むことは出来ず 頭からつま先まで

後悔しどおし 君がくれた 僕に足りなかったものを

集めて並べて 忘れぬよう願う 君の全て 僕に見せて欲しかったのに

コスモスの花言葉は咲かなかった 「木漏れ日が微笑みを連れてきてくれるから」

そんなきれいな事 慰めも 何を今更 君がくれた 僕に足りなかったものを

集めて並べて 忘れぬよう願う 僕の全て 君に知って欲しかったのに

コスモスの咲く季節に君は去った

さよなら

さよなら

い
言わせてみてえもんだ

あいそ つ 愛想を尽かしてくれても irectional 一向に構わない きみ い えいえん 君の言う「永遠」など

ぼく あ 僕だって当てにしてない じまん くろたい 自慢にしてた黒帯は

とつくにす 捨ててしまった

ぶら さ 下がっただけの そんざい でいたくはない じぶん でき 自分にしか出来ない事

み つ 身に付けようとしているけど か ば 代わり映えしねえなあ

なんかつまんねえなあ

とど そら み 届かぬ空を見ては またしても せきめん いた 赤面の至り

ってい 言われてえよ

よる ひる 夜だけじゃなくて昼も もう どうしようもなく「必要」って

い 言わせてやりてえんだ どつかの てんさい 天才をひがんで

ひにく は 皮肉を吐いてみても

なに 何もなりやしねえよ どうすりゃいいの？

ふる めいしん み りそう かたち 古くからある 迷信に見える理想の形

いま わかし どういつせんじょう たいせつ し 今と昔の同一線上 大切なことなんて きっと知ってるのに

ぼく とおまわ 僕らは 遠回りをしてるんだね なら意味ある 遠回りを

あいそ つ 愛想を尽かしてくれても irectional 一向に構わない

でも どうしようもなく「必要」って

い
言わせてみてえもんだ

ねえ い 言ってみてよ

PADDLE

ほんの束の間 胸の中に巻き起こる風 風 風 「今しかないよな」って 呪文みた

いに繰り返す 日常の下敷きになって 埋もれたモノを取り返すんだ「甘い夢だ」と

誰かがぼざいてたって 虎視眈々(こしたんたん)と 準備をしてきた僕だから きつとうまくや

れる 行こうぜ 新しい記号を探しに フラスコの中 飛び込んで どんな化学変化を起

こすか 軽くゆすってみよう It's OK ゆけ 荒れ狂う海原の上 未来へと

て 手を突き出して もしかしたら今日は何も起こらないかも

でも 明日へとパドリング 時々 誰かが僕の人生を操ってるような気がする

誰に感謝していいのかは分からないけれど 僕は今日も生きている まだ もう少し君

を愛している 良い事があったてこそ笑顔じゃなくて 笑顔でいりゃ

良い事あると思えたら それが良い事の 序章です 新しい希望を見つけよう

フラスコの中 飛び込んで どんな化学変化を起こすか もう一度ゆすってみよう

It's OK ゆけ 高い デカイ 波に乗れ 怯んでる自分蹴飛ばして

もしかしたら明日も何も起こらないかも でも 永遠のパドリング

ひにく あふ せかい ふあん いか かつき みうしな すす ときどき じょうず に
皮肉で溢れた世界 不安と怒りの過渡期 見失わぬように進もう 時々 上手に

息抜きしながら 身をかわしながら 行こうぜ 新しい希望を見つけよう

フラスコの中 飛び込んで どんな化学変化を起こすか

ずっと ゆすっていこう It's OK

ゆけ 荒れ狂う海原の上 未来へと 手を突き出し もしかしたらずっと

何も起こらないかも でも 永遠のパドリングただ ただ 明日へとパドリング

ロード w アイ w ミス w ユー

あの^ひ日からずっと ^き気が付いていたんだ ^{いま}今まで ^{なに}何も ^き聞かずにいたけど

^{とぎ}途切れた ^{じゅわき}受話器 ^{こえ}ごしの ^{こえ}声 ^{さいご}最後の ^{ことば}言葉を ^{さが}探して

さよならだね ^ひ引き止めても ^{きみ}君は ^で出ていく

^だ抱きしめた ^ああの ^{よる}夜は ^{もう}もう ^{にど}二度と ^{もど}戻らない

Lord, I miss you I'm waiting on your love ^{こわ}壊れそうなほど ^{せつ}切ない ^{おも}思い

この ^{むね}胸の ^{Rain} Rain drops ^{まだ}まだ ^ふ降り止まない ^ああの ^{ころ}頃のままの ^{えがお}笑顔が

^{えい}映画のように ^{あふ}溢れてくる ^{なに}何もかもが ^{おも}思い出 ^での中 ^{なか}へ

^き消えた ^{いま}今でも ^だ抱きしめた ^ああの ^{よる}夜に ^{もう}もう ^{にど}二度と ^{もど}戻れない

Lord, I miss you I'm waiting on your love

^{ほほえ}微笑みも ^{やさ}優しさも ^{いろあ}色褪せてにじんでき

I want is you I'm waiting on your love

^だ抱きしめた ^ああの ^{よる}夜は ^{もう}もう ^{にど}二度と ^{もど}戻らない

Lord, I miss you I'm waiting on your love

Mr. Shining Moon

なだ そら ろじょう おちて みず つきはな
泣き出した空は 路上に落ちて 水たまり 月と話してる

きれい すこ こ す
綺麗だね また少しあの子を好きになっていく

ありがとう Mr. Shining Moon

ねむ つく うた ほら
眠らずに作った歌を ほら

はなうた うた し
鼻歌で歌うよ 知らんぷりで

とど きも わら とき きみ
届くかな この気持ち 笑った時の君が

だれ す
誰より好きだよ Woo

くも の たび で
あの雲に乗って 旅に出かけよう

まよなか きみ て
真夜中にそっと 君の手をとって

いま い
今すぐ さらいに行くよ

いちにん きみ あ よる
一人きり 君に逢えない夜は

つきかげ こしか
月影の ソファーに腰掛けて

ゆめみ きみ かお め さ あさ
夢見せて また君の香りで目が覚める朝を

ありがとう Mr. Shining Moon

ぼく き
僕だけにそっと 聞かせてくれた

あか ひみつ はなし
赤くなりそうな 秘密の話

だれ おし
誰にも 教えないから

なだ そら ろじょう と みず つき かたおも
泣き出した空は 路上に溶けて 水たまり 月に片想いしてるよ

いつまでも このままでいたいけど ほら時間だよ

おやすみ Good night またいつか

風

ビルの谷間 ^{たにま} ^{はし} ^ぬ 走り抜けて ^{かぜ} ^{そら} ^ま ^あ 風は空に 舞い上がる

君は何を ^{きみ} ^{なに} ^み 見てきたの ^す ^{とお} ^{からだ} その透き通る 体で ^あ ^さ ^ふ ^ろ ^と ^ひ アスファルトに 引きずられて

重いバックを ^{おも} ^て ^も 手に持って ^{あせ} ^{まる} 汗だくのシャツ 丸めたハンカチ

そんな人 ^{ひと} ^{きみ} ^{かぜ} に君はそよ風を The wind knows how I feel The wind knows how I feel

風は知ってるんだ ^{かぜ} ^し ^{ほんとう} ^{こと} 本当の事 The wind knows how I feel ^{あらの} ^ぬ ^{だいち} ^け 荒野を抜けて 大地を蹴って

僕の心 ^{ぼく} ^{こころ} ^ふ ^ぬ を吹き抜ける ^{とき} ^{つよ} ^{とき} ^{やさ} 時には強く 時に優しく

僕の心 ^{ぼく} ^{こころ} ^ふ ^ぬ を吹き抜ける いつかは僕も ^{ぼく} ^{きみ} 君のような

優しい風 ^{やさ} ^{かぜ} になれるかな

冬 ^{ふゆ} になったら ^か ^は ^た 枯れ葉を食べて

大きな風 ^{おお} ^{かぜ} になれるかな

The wind knows how I feel

The wind knows how I feel

風は知ってるんだ ^{かぜ} ^し ^{ほんとう} ^{こと} 本当の事

The wind knows how I feel

The wind knows how I feel

The wind knows how I feel

風は知ってるんだ ^{かぜ} ^し ^{ほんとう} ^{こと} 本当の事

い き にちようび
ため息の日曜日

Oh my Darin' しろ くも まど なが はる とお あ きみ おも
白い雲を 窓から眺めるたび 遥か遠く 逢えぬ君へ 想いつのる

にちようび たそがれじ かぜ み まか と い
ためいきの日曜日 黄昏時の風に 身を任せて 飛んで行きたいよ

でんわ うま つた い か こいびとたち
電話じゃ上手く 伝えられないから Sunday oh Sunday 行き交う恋人達の

わら ごえ きみ かせ ゆめ なか あ
笑い声に君が重なる I'm dreaming of, see you again 夢の中で逢おう

ひ きみ ねが かな ひ べつべつ ばしょ く ふたり
いつの日かきっと 君の願いが叶う その日まで Oh my Baby, 別々の場所で暮らす二人の

きょり ころ なか か ひ きょう つ あ とき
距離が心のその中まで 変えないように あの日から今日まで 積み上げてた時が

いま くず わる ゆめ いちにちなかみ
今にも崩れてしまいそうな 悪い夢を 一日中見てた

Sunday oh Sunday おも
思ってたよりもずっと

きみ そんざい おお ゆめ なか あ
君の存在(かげ)は大きくなった I'm dreaming of, see you again 夢の中で逢おう

くちぐせ きみ な よ たいくつ
口癖のように 君の名を呼んでも No 退屈なTVショー おしゃべりなラジオ

の ほし ふ なに すべ ぼく くる い
飲みかけのソーダ 星の降るハイウェイ 何もかもが 全て僕を狂わせて行く

I'm so blue The wind knows how I feel

The wind knows how I feel

かせ し ほんとう こと
風は知ってるんだ 本当の事 The wind knows how I feel

The wind knows how I feel

The wind knows how I feel

かせ し ほんとう こと
風は知ってるんだ 本当の事

ともだち
友達 のままで

ハンドルを握って 見た事もない場所まで

できるだけ 頭を 空っぽにして走った

あの 娘の事 思い出さないように

カーラジオつけて 飛ばして 友達のままじゃ いたくないと

きりだした僕を見て もうこのままじゃ いられないと

きみ きゆう な だ
君は 急に泣き出した

そと は
外は晴れてるのに 標識 はぼやけたまま

ワイパーをつけても この 涙 (あめ) は飛ばされない

いつの間にか 立てられていたルールを

こわ 壊したのは君の方なのにふざけてばかりで ほんとう こと
本当の事

かく 隠しては来たけど

し
知ってたはずだろう

ぼく きみ
僕が君をいつもずっと見てた事

ともだち
友達のままじゃ いたくないと

きりだした僕を見て

もうこのままじゃ いられないと

きみ きゆう な だ
君は 急に泣き出した

にじ かなた
虹の彼方へ

Walking on the rainbow

あめあ るじょう かがや
雨上がりの 路上に 輝く

と だ
飛び出した My dream この 胸の Raindrops

め 目をふせても なに か 何も変わらない ゆずれない My soul こそ 凍えそうな あめ う 雨に打たれて

な だ 投げ出してた あの ころ I'm walking on the rainbow かぞ 数えきれない ゆめ あふ 夢が溢れて The

future in my eyes wishes come true ぼく 僕だけの rainbow

ギターケースに あふ 溢れてる メロディー

かな 奏でるよ My soul も 燃えるような にち て 日に照らされて

な だ 投げ出してた あの ころ I'm walking on the rainbow

じっとしてたら ショートしそうだ

The future in my eyes wishes come true めぐ つづ 廻り続ける この せかい に

と のこ 取り残された夜 いくつもの ひとみ 瞳が あてのない よあ さが 夜明けを探して

さまよってる Walking on the rainbow あめあ るじょう かがや
雨上がりの 路上に 輝く

と だ
飛び出した My dream

I'm walking on the rainbow

かぞ 数えきれない ゆめ あふ 夢が溢れて

The future in my eyes

wishes come true

The future in my eyes

wishes come true

All by myself

から^{まわ}廻りの My Life ^{あらし}嵐のように^{ぼく ひ さ}僕を引き裂く

降りしきる^{あめ}雨に おびえてただ ^に逃げまどっていた わかりかけてた ^{こたえ}答はいつも ^{め まえ}目の前でまた

消え果てた ^お追いかけていた ^{きぼう こい}希望も恋も Ah ^{とお}遠ざかる ^{きず}傷つくたびに ^{うしな}失うたびに

と問いかけてるよ Be calm, Be cool ^{ひ かえ}引き返せない Ah ^{かな}悲しみも ^{ぼく ひとみ み}僕の瞳で見つめて

ま^{つづ}待ち続けるさ ^{あらし なか ふね}嵐の中の船のように ^{あめおと}雨音がそっと ^{こころ}この心に ^{やさ}優しく響く

このまま ^{すべ}全ての ^{いた}痛みを ^{あら}洗い ^{なが}流しておくれ ^{ふあん よる}不安な夜は ^{め と}目を閉じるのも ^{こわ}怖いくらい ^{さみ}さみしくなる

ねむ^む眠れないまま ^{くるま}車を走らせ ^{さが}探してる ^と飛び出したいよ ^{ちが}違う世界に

だから^{いま}今こそ Be calm, Be cool ^{あした}明日になれば ^{その}そのからくりも ^{ぼく ひとみ}僕の瞳でとらえる

は^じげそうな ^{よあ}夜明け前の ^{とき}時 ^{いま}今ここへ ^{ときめく}ときめく気持ちは ^{いま}今でも ^{すべ}全ての事を ^て照らしていくけど

み^え見えない ^{とど}届かない時は ^{なに}何もかもが ^い凍てついていく ^だ抱きしめよう ^{あつ}熱い ^{おも}想いを

^だ抱きしめたい ^{いつか}いつか ^{じだい}クールな時代(とき)を ^こ超える

^{だれ}誰のためでも ^{だれ}誰のせいでも

ないから^{いま}今は All by myself

とき ^{なが}流れが ^{ぼく}やがて僕にかたむきかける ^ひ日まで

^{きず}傷つくたびに ^{うしな}失うたびに

と問いかけてるよ Be calm, Be cool

^ひ引き返せない Ah ^{かな}悲しみも ^{ぼく ひとみ み}僕の瞳で見つめる

All by myself

BLUE

ま あ ばしょ む くるま なか きみ す きよく さが
待ち合わせの場所へ 向かう車の中で 君の好きな曲(うた) あわてて探した

さりげなく君を 誘うその言い 訳を いくつも用意して ここまでこぎつけたのに Ah ぼんやり

きみ まど そと み
君は 窓の外 見てる

You're waiting someone

You need his love

いつまで ひきずっているの? かく 隠しきれない その 胸の中

いま だれ ま つづ おこ しかく いま ぼく
今も誰かを 待ち続けてるけど 怒る資格も 今の僕にはないの?

きみ す にち よろこ わか こう かな
君と過ごす日の その 喜びと 別れた後の Ah 悲しみが

ぼく ころと まど なか
また僕の 心を戸惑いの中に そして 今日も BLUE

ともだち きみ じまん えがお じょうず
友達に君を 自慢してみたいけど 笑顔でいつでも 上手にかわされて

Ah ぼく はなし そら
Ah 僕の話も まるで うわの空 You're waiting someone

You need his love いつまで ためらっているの? かく 隠しきれない この 胸の中

いつも遠くで きみ み かんたん あきら
いつも遠くで 君を見ていたから 簡単には 諦められずにいるよ

さみしい夜だけ てるでんわ かな
さみしい夜だけ 電話くれるのも わかってるから Ah 悲しみが

ぼく あたま まわ きょう かく むね なか
また僕の 頭をかき回してく そして 今日も Blue 隠しきれない その 胸の中

いま だれ ま つづ
今も誰かを 待ち続けて

ぼく ころと まど なか
また僕の 心を戸惑いの中に

そして きょう
そして 今日も Blue

それでも いいさ

So I'm waiting for your Heart

グッバイ w]マイ w]グルーミーデイズ

いつの間にか ^まこんなふう ^{よぞら た いきう}に 夜空に溜め息浮かべてる

あの ^{むすめ えがお}娘の笑顔が ^{め と}ふっと 目を閉じるたびに ^{あふ}溢れてる ^お押さえきれず ^{まわ}ダイヤル廻したけど

^{るすばん でんわ なまえ}留守番電話に名前を ^つただ告げるだけ ^ま待ちわびてるんだ ^{ずっと} Night & Day

^{ほんとう きも き}本当の気持ち ^{つき}聞けないまま ^あ月とグラス合わせて

^{いちにん}一人きりの ^{Happy Birthday} あきらめてた ^{こころ}心のポストの ^{なか}中

^{おく とど}遅れて届いた ^{むすめ}あの娘からの ^{Birthday Card} ^{わす}忘れかけてた ^{おも}想いが ^{むね なか}胸の中ではじけてる

tul...We want to be happy

^{はじ}始まりそうな ^{よかん}予感が ^{からだちゆう}体中 ^とがしびれてる ^ともう止められない

I want to be happy, You want to be happy

I want to be happy, You want to be happy ^おこぼれ落ちそうな ^{ほしぞら}星空 ^{ねむ}眠れずにずっと ^{なが}眺めてた

^{つづ}トラブル ^{つづ}続きの ^{6days} ^{わす}忘れられそうなこの ^{Weekend} ^{ゆう}夕べあの ^{むすめ}娘からの ^{Telephone Call}

^{まよなか}真夜中まで ^つ尽きない ^{はなし}話の ^{つづ}続きが ^{きょう}今日の ^{ま あ}待ち合わせ

^{わす}忘れかけてた ^{おも}想いが ^{むね なか}胸の中ではじけてる

tul...We want to be happy

^{はじ}始まりそうな ^{よかん}予感が ^{からだちゆう}体中 ^かを駆けめぐる

もう ^と止められない

I want to be happy, You want to be happy

I want to be happy, You want to be happy

Good-bye my gloomy days

Distance

いつものように ずっと 黙^{だま}ったまま 二人^{ににん}

走り抜ける^{はしぬ} 夜のハイウェイ^{よる} 見慣れた街を^{みな} 背に^{まち} せ

かな^{かな} 哀しみを^{むね} 胸に今夜^{いまよる} 最後の Moonlight driving^{さいご}

あの時^{とき} 君^{きみ} が言った^い 言葉^{ことば} が今^{いま} 嘘^{うそ} になる^{いと} 愛^{きみ} しい君^{えがお} の笑顔^{なみだ} が 涙^{なみだ} で にじむ^{まえ} 前に

さよなら^{かがや} 輝^{かがや} いていた^{おも} 思い出^{おも} だけを^で 心^{こころ} の中^{なか} に 窓^{まど} を打^う つ雨^{あめ} が

やむころには^{ににん} 二人^{ににん} 孤独^{こどく} な自由^{じゆう} と 向^む き合^あ っ 気^き づき 始^{はじ} めてた

はな^{はな} 離^{こころ} れていく 心^{こころ} つないだ^{つないだ} のは いたわり^{いたわり} だけ あの時^{とき} 僕^{ぼく} が話^{はな} した これからの二人^{ふたり} の夢^{ゆめ} っ

かは^ひ こんな日^ひ がくると 互^{たが} いに 解^{わか} ってたのに

それでも そばにいた^{そばにいた} のは 臆^{おくびょう} 病^{びょう} だから? 愛^{あい} していたから?

アクセ^{つよ} ルを強^{つよ} く踏^ふ んで 君^{きみ} の街^{まち} へ 二^{にど} 度^ひ とは引^{かえ} き返^{かえ} せない 記^{きおく} 憶^な の中^{なか} へ

いと^{いと} 愛^{きみ} しい君^{えがお} の笑顔^{なみだ} が 涙^{なみだ} で にじむ^{まえ} 前に さよなら^{かがや} 輝^{かがや} いていた^{おも} 思い出^{おも} に 今^{いま} っ つかは

こんな日^ひ が来^く ると 互^{たが} いに 解^{わか} ってたのに

それでも そばにいた^{そばにいた} のは

おく^{おくびょう} びょう 臆^{おくびょう} 病^{びょう} だから?

それ^{いま} とも今^{いま} でも

あい^{あい} 愛^{あい} しているから?

くるま なか
車の中でかくれてキスをしようで

もうふたりは 子供じゃない だけど いたずらに ただ きず 傷ついてだけ

だ 抱きしめても すりぬ 抜けてゆく きみ の その ころを 閉じ込めていたい

くるま なか
車の中でかくれてキスをしよう だれ 誰にも み 見つからないように

きみ な
君は泣いてるの？ それとも わら 笑ってるの？ ほそ かた ふる 細い肩が震えてる

だれ
誰もいない つき う
月の浮かぶプールに し の 忍びこんで なみ 波をたてる くん

ふる
震えている あお 青ざめた くちびる 唇を ぼく み 僕に見せて わら 笑いころげてる

くるま なか
車の中でかくれてキスをしよう だれ 誰にも み 見つからないように

つか は
疲れ果てたまま ねむ 眠りについた きみ 君を

いつまでも みまも 見守ってる

くるま なか
車の中でかくれてキスをしよう

だれ
誰にも み 見つからないように

きみ な
君は泣いてるの？ それとも わら 笑ってるの？

ほそ かた ふる
細い肩が震えてる

ししゅんき なつ くん こい いま ぼくじょう
思春期の夏 ~君との恋が今も牧場に

ひる よる ま つづ ししゅんき なつ ぼくじょう
昼も夜も待ち続けてた 思春期の夏 あの牧場にある ベンチにいつも腰かけて

じてんしゃ の くさ い きみ なが
自転車に乗って つゆ草をかきわけて行く 君をずっと 眺めていた

う はじ だれ かを す きになつたのに どうしていいのかわか はずに またひく
生まれて初めて誰かを 好きになったのに どうしていいのかわか はずに また陽が暮れる

あした きみ とど きみ かみ ひ て いろ か
明日になればきっと Ah 君のもとに届くように 君の髪が陽に照らされて 色が変わるね

よ いちばん けしき あお そら つづ
それはこの世で 一番 すてきな景色 青い空は どこまでも続いてゆくけれど

みらい み きみ のはら と み
未来だけ 見えずにいた 君は野原に飛びかう トンボを見ていた

どうしていいのかわか はずに またひく あした こい かじつ みの
どうしていいのかわか はずに また陽が暮れる 明日になればきっと Ah 恋の果実 実るように

8ミリフィルムのような おも で
8ミリフィルムのような 思い出のスクリーン

ぼく
モノクロームの僕がいる

きみ こい いま ぼくじょう
君との恋が 今も牧場に

あした こい かじつ みの
明日になればきっと Ah 恋の果実 実るように

ほし
星になれたら

この^{まち}街を出て行く^い事^{こと}に決めたのは いつか^{きみ} 君と

はな^{ゆめ} 話した夢の ^{つづ}続きが ^{いま}今も捨^すて切れないから ^{なんど}何度も ^{みみ}耳をふさいでは

ごまかしてばかりいたよ ^{こんど} だけど ^{ちが}今度はちよつと違^{ちが}うんだ

きのう^{ぼく} 昨日の僕とはこっそり^で出てゆくよ ^ま だけど ^{いぬ}負け犬じゃない

もう キャンセルもできない さようなら ^あ 会えなくなるけど

さみしくなんかはないよ そのうちきつと ^{おお} ^{こえ}大きな声で

わら^ひ ^く 笑える日が来るから ^{うご} ^だ 動き出した ^{ぼく} ^{ゆめ} 僕の夢 ^{たか} ^{やまこ} 高い山越えて

ほし
星になれたらいいな ^{なに} 何かに ^{とき} つまずいた時は

そら^て 空に手をかざしてみよう この^{かぜ} 風は ^{きみ} きっとどこかで君と

つながってるから ^よ 呼んでる ^{こえ} 声がする ^{だけど} だけど ^{かえ} 帰りたくない ^{わら} 笑われるのにも ^な ^{なが} 慣れた長く

じょ^{そう} ^{ほう} 助走をとった方が ^{とお} ^と より遠くに ^き 飛べるって聞いた ^{そのうちきつと} ^{おお} ^{こえ} 大きな声で ^{わら} 笑える

ひ^く 日が来るはず ^{うご} ^だ 動き出した僕の夢 ^{ぼく} ^{ゆめ} ^{ふか} ^{たにこ} 深い谷越えて

にじ
虹になれたらいいな さようなら ^あ 会えなくなるけど

さみしくなんかはないよ

そのうちきつと ^{おお} ^{こえ} 大きな声で

わら^ひ ^く 笑える日が来るから

うご^だ ^{ぼく} ^{ゆめ} 動き出した 僕の夢 ^{たか} ^{やまこ} 高い山越えて

ほし
星になれたらいいな ^{にじ} 虹になれたらいいな

ティーンエイジ w」ドリーム

かさばった部屋へやの荷物にもつを一日中いちにちじゅう かたづけていると

かく隠れてた 想おもい出で達たちが引ひき出だしてから そかおと顔だを出だした tu!...それは今いまも 僕ぼくの宝ほう物もつ

あひの日きの気あざ持よみがえち 鮮こいびとやかに 甦る まるで 恋こいびと人ののように

あむすめの娘の そばでいつも ふざけてばかりいた放ほう課か後ご

みんなうわさの噂のになって 上うま手はく 話はなせなくなった

Friend oh my friend oh my friend おおわわす 置おき忘われたままの teenage dream

もうあときの時は 戻もどらないけど 今いまもこの胸むねに 焼やきついたままかが 忘わすれていった

ほほこり埃をかぶつている 68Guns すりきれて 針はりがはねては

おおな 同どじフレーズを 繰くかえ返かしてるよ tu!... 訳わけもなく 胸むねがいたなる

かまわりする 時ときはまるでメリーゴーランド あひの日きの気あざ持よみがえち 鮮こいびとやかに 甦る少すこしは 大おと人なに

なって いろんなことが 変かわった 愛あいすべき人にいって会あいって

だけど あおもの想でい出は 投なげやりな 僕ぼくをずつと ささえてるから 形かたちをかえてゆく

teenage dream もうあときの時は 戻もどらないから 新あたらいゆめだ 夢を抱だきしめていよう置おきわす 忘れたままの

teenage dream もうあときの時は 戻もどらないけど 今いまもこの胸むねに 焼やきついたまま

コノテデ セカイヲ ウゴカシテ イチニチジュウ ワラッテイタイ ダレモガ ミナ ナミダスルホドノ
トワノ ウタヲ ウタイタイ フルエブルブルトマラナイホドノ アツイキスヲ シテミタイ

ヤスミノヒニワ アノコト ドライブニ イキタイソシテ ダキアツタマママ
ダキアツタマママデ

テンマデ テンマデ イッショニ
ノボリタイ

いつの日にひかふたり二人で

こんげつ 今月になって なんとめ 何回目だろう ねむ 眠むれずにいる よる 夜は

あのひとこえの声 聞ききたいのに 話はなす事ことはない 本当ほんとうの気持きもちが 恥はずかしくて

さわ 騒さわいでき気を引ひくだけ もう一人ひとりの僕ぼくが言う

”こんなはずじゃないだろう” あのひとから 見みれば僕ぼくは

とした 年下とししたの Dearest Friend 誰だれかの言う ダメわけな訳も

うなずけるけれど 気きが付けつば いつも どんときな時も

あのひと 溢あふれてる 心こころの中なかは また曇くもり空ぞら

いつの日にひか 二人ふたりで… あのひとから すれば僕ぼくは

とした 年下とししたの Dearest Friend

いちど 一度いちどだけの 甘あまい Kiss も

わす 忘わすれたふりして

えいが 映えい画がの中なかの恋こいのように

だ 抱だきしめ ねむ 眠む よる 夜を

もう少しすこだけ 夢ゆめに見みていよう

いつの日にひか 二人ふたりで

いつの日にひか 二人ふたりで

</BLO

Another Mind

ひくつ びしょうか まちかど い か ひと なみ
に卑屈な微笑 浮ぶ この街角 行き交う人の波が

かな ふきょうわおん じぶん う くだ
奏でてる不協和音 自分を打ち砕くリアルなものは

いつわ め ふ ことく Teenage おきな にち々
偽りだと目を伏せてた 孤独な Teenage 幼き日々のように

むじゃき あい ひとたち ささ なか おぼ
無邪気なふりをしては 愛すべき人達の 支えの中に溺れてゆく

きず ほど だれ さだ じぶん えん
傷つけずにいられない程 誰かが定めた自分を演じてる Another Mind

なが な つ
流されるのも慣らされて たどり着けばいつも Oh No

なに な だ
何もかも投げ出せば It's just darkside of my heart

かた に
肩の荷もおりそうさ It's just darkside of my heart

わずかなプライドを守る 爲に まも ため だれ ひっし く すな か りそう もじ
誰かが必死で暮らしてる 砂に書いたような“理想”の文字は

じだい なみ ふしぎ まち
時代の波にさらわれてく 不思議なこの街

だれ あい
誰も愛さずにいれるものなら

つみ こい ひ ころろ け
罪な恋に惹かれてゆく この心を消してくれ

だれ さだ じぶん えん
誰かが定めた自分を演じてる Another Mind

みうご ほど かか
身動きもできない程に 抱えたプレッシャーはシユール

なが な つ
流されるのも慣らされて たどり着けばいつも Oh No

ふ む ゆうやみ つつ まちかど
振り向けば夕闇が包む この街角

<

メインストリートに行こう

待ちわびてた 約束の週末 誰にも内緒の Drivin'

車止めて クラクションは 2Times 君を呼び出す合図

仲間達がいう程 君って クールじゃないのがいいね

流れてくるラジオに合わせ 口ずさむよ “BOB MARLEY”

雨上がりの街へ連れ出したい みんな狙ってるのさ 君の事を

My city of joy 週末の天使 星降る街で 君とランデブー

夢みたい この街のノイズ きらめくビル

いつまでも Everyweek Everymonth 高鳴る僕の鼓動 たった一ついいかな

君は月の灯りのように しまい込んだ孤独な心を やさしく照らす Light

二人だけの Dance party 夜明けまで 寄りそったままでいただけさ

きまぐれな Talk いたずらな Smile 人波あふれたスクランブルで Hold me tight

Sexyなポーズ 突然のキッス このままじゃ Everyday Everynight くぎづけの Heart

My city of joy この胸は Sweet 星降る街で 君とランデブー

夢みたい この街のノイズ きらめくビル いつまでも Everyweek Everymonth

高鳴る僕の鼓動 待ちわびてた約束の週末 今夜 5回目の Drivin'

車止めて クラクションは 2Times 君を呼び出す合図

メインストリートに行こうよ!

and I close to you

Baby Baby Baby I wanna kiss you

Lady Lady Lady and I wait for you おも 思 ったような やつ 奴 じゃなかったようだね

まだ 君 を 傷 つける つもり なら 許 さない Baby Baby Baby もう 忘れ ない

かな 悲 しみ の 中 では 何 にも 生 まれない おな 同 じ 事 を 繰 り 返 して る の なら

なに 何 も か も 委 ね て よ この 僕 に 気 付 かぬ ぶり が 上 手 い から

あいつの 裏 切り も 僕 の 想 い も 揉 み 消 す つもり なの ？

なに 何 にも 言 え ず に 別 れ た 夏 を 悔 やん で て も 虚 し い

Baby Baby Baby I wanna kiss you Lady Lady Lady and I close to you

な 泣 き 疲 れ て 眠 っ て いる 君 に く ち づ け た あ の 夜 が 愛 し く て

め 目 を 腫 ら す 君 を 見 る 度 この 胸 が ち ぎ れ そ う だ よ

なぜ 何 故 そ ん な に あいつ じ ゃ な き ゃ ダ メ な の ？ も う 一 度 抱 き し め た なら 離 せ な く な る 程 に

I love you You must be break down でんわ 電 話 の ベ ル が It's just a mad love

な 鳴 る 度 心 の ど こ か で I want to be your man か す れ た 君 の そ の 声 が

クールな ぶり した 僕 を 狂 わ せ せ る Baby Baby Baby I wanna kiss you

Lady Lady Lady and I wait for you おも 思 ったような やつ 奴 じゃなかったようだね

まだ 君 を 傷 つける つもり なら 許 さない Baby Baby Baby もう 忘れ ない

かな 悲 しみ の 中 では 何 にも 生 まれない おな 同 じ 事 を 繰 り 返 して る の なら

なに 何 も か も 委 ね て よ この 僕 に 気 付 かぬ ぶり が 上 手 い から

あいつの 裏 切り も 僕 の 想 い も 揉 み 消 す つもり なの ？

なに 何 にも 言 え ず に 別 れ た 夏 を 悔 やん で て も 虚 し い

Baby Baby Baby I wanna kiss you

Lady Lady Lady and I close to you

なつかねむ きみに
泣き疲れて眠っている君に

くちづけたあの夜が愛しくて

めは きみ みたび
目を腫らす君を見る度

この胸がちぎれそうだよ

なぜ
何故そんなに あいつじゃなきゃダメなの？

もういちどだ はな ほど
もう一度抱きしめたなら離せなくなる程に I love you

You must be break down

でんわ
電話のベルが

It's just a mad love

なたび ころ
鳴る度 心のどこかで

I want to be your man

かすれたきみ そのこえが

クールなふりした僕を狂わせる

Baby Baby Baby もう忘れなよ

かな なか なに う
悲しみの中では何にも生まれない

Baby Baby Baby I wanna kiss you

Lady Lady Lady and I close to you

マーマレード・キッス

きゅう ふ だ あめ ぬ
急 に降り出した雨に濡れ My girl

だれ
誰より Sexy なくらい ぬ かみ あ
濡れた髪かき上げる

ちが ひとひと
すれ違う人々が わら みて
笑えっ見てるけど

と
止められぬ程の My love もっと Hold me tight

ぬ せなか ひ よ
びしょ濡れの背中を そっと引き寄せたなら

I feel so good いつか話してたね はじめの 男 の 事を
はな おとこ こと

しつと つら もと
嫉妬してるのは辛い 求めてる Make love

かさ む ほどろう
ひらく傘の群れは 舗道埋めるジェリービーンズ

ふたり
そして二人は・・・マーマレード・キッス

だ か
そっと抱きしめて くちづけを交わせば

も といき かさ
ふっと漏れる吐息 重なる Heart

もっと Touch me baby う 生まれきた理由が やつと見つかったみたい
りゆう み

きみ であ か
君と出会って もっと Hold me tight くちづけを交わせば

も といき
ふっと漏れる吐息

かさ
重なる Heart

しず
静かにとけてく

</BLO

蜃気楼

いま じゃちよつとした 笑い 話 僕がずっと 捕らわれてた コンプレックス

う 打たれても 痛み すらないのは タフになったのか？ 麻痺したのか？

I will be there it's alright 呪文 唱えるように Everything gonna be alright

ひと 人はいつも ないもの ねだり 崩れ 去って やつと 気付く 幸福

ゆめ 夢は 一歩 踏み はずせば 虚像 さ 今 になって 思い 知ら されてる

I will be there it's alright 手招き してる ボーダーライン

Everything gonna be alright

I will be there it's alright 壊れ かけた 孤独 な 心

Everything gonna be alright

こころ 心 の 何処 かに 今 でも 潜 んでる “気 狂 い ピエロ” が 駆け ずり 回 っ て 追 い 続 け た 夢 が

すな 砂 の よう に 手 の 中 を すり ぬ ける 吹 き すさ ぶ 風 に 尋 ね て み る

この 道 の 行 方 を 今 すべ き 事 は 何 ？

I will be there it's alright ゆが んで る ボーダーライン

Everything gonna be alright

I will be there It's alright 手 探 り の シャー ドー パン チ ン グ

Everything gonna be alright

この 胸 の 中 を 焦 が し て 消 え る 夢 は 蜃 気 楼 I will be there it's alright

手招き してる ボーダーライン

Everything gonna be alright 壊れ かけた 孤独 な 心

Everything gonna be alright

こころ 心 の 何処 かに 今 でも 潜 ん で い る

“狂 っ た 果 実” が

とうぼうしゃ
逃亡者

さいしょ おも だ 最初に思い出すのは こうえん ゆうぐ 公園の夕暮れ まいご 迷子になって泣いたあとの しず ごご 静かな午後

やさしいことば 言葉をかけてくる おとな 大人たちの なか 中で ぼく じんせい 僕は 人生の サイズを かん 感じた

あれこれ かんが 考 えてみても はじ 始まらないわ、と かのじょ さ い 彼女が去って行ったのは もう 2 ねん まえ 年も前

やさしいことば ひとつでもかけようとしたけど だまってるしかないと きづいたんだ

いつまでもいつまでも いっしょ 一緒 だったらうれしいけど

どこまでもどこまでも いちにん 一人きりだ おも とき と思う時がある うすぐら あした む とうぼうしゃ 薄暗い明日に向かう 逃亡者

ところはかわって かの 目 前 で 君が 笑うよ

くったくがないのか なに かんが 何も 考 えてないのか

やさしいくうき 空気がここにホラ なが 流れこんできてる

きみ 君のまんまで みに 認めてしまってる

よろこ 喜びは よろこ 喜びはここに あるから だいじょうぶ 大丈夫 だ

かな 悲しみは そこら ちゆう ころ 中に 転がっている じらい よう 地雷の様に

ふ 踏まないように こう 後をついておいで

いつまでもいつまでも いっしょ 一緒 だったらうれしいけど

どこまでもどこまでも いちにん 一人きりだ おも とき と思う時がある

うすぐら あした む とうぼうしゃ 薄暗い明日に向かう 逃亡者

とうぼうしゃ
逃亡者

</BLO

LOVE

ぐうぜん だね、 こんな風^{ふう}に会う^あ度に^{たび} 君^{きみ}は変わ^かってく

み 見^みなれない そのピアスのせいなのかな？

ちよつとだけキレイだよ 彼^{かれ}になる^き気もなく

せきにん 責任^{せきにん}などさらさらさ でもね 少^{すこ}し胸^{むね}が苦^{くる}しい

なにげなく なんとなく 他^たの誰^{だれ}かに君^{きみ}を染^そめられるのが気^きにかかる

かなりカンの 鋭^{するど}い僕^{ぼく}の彼女^{かのじょ}を 怒^{おこ}らせるのも何^{なに}か違^{ちが}ってる

も 燃^もえるような恋^{こい}じゃなく ときめきでもない

でも いつまでも君^{きみ}だけの特別^{とくべつ}でいたい

ほんとう て 本^{ほん}当^{とう}に手^てにおえないよ 天^{てん}気^き予^よ報^{ほう}より嘘^{うそ}つきで

あおぞら なか うつ ちようし きみ えがお
青^{あお}空^{ぞら}の中^{なか}に映^{うつ}る 調^{ちよう}子^しいい君^{きみ}のあ^えの笑^え顔^{がお}

くち 口^{くち}さえなきや誰^{だれ}もが振^ふり向^むくようなスタイルで

ひと 人^{ひと}をその気^きにするのが上^う手^まい

きがつけば いつの間^まに巻^まき込^こまれてる

いつも君^{きみ}のペース だけど楽^{たの}しくて

むかし やきゅう きた きみ かれし
昔^{むかし} 野^や球^{きゅう}で鍛^{きた}えた君^{きみ}の彼^{かれ}氏^しに

なく 殴^{なく}られるのもなにか違^{ちが}ってる

それでもね 時^{とき}々^{とき}は電^{でん}話^わしておいで

ひるま よなか えんりよ
昼^{ひる}間^までも夜^よ中^{なか}でも 遠^{えん}慮^{りよ}はいらない

かな できごと えがお うば
悲しい出来事に その笑顔を奪われたら

さが い ひ
探しに行こう あの日のように

ふ む ころ すみ きみ
振り向けば 心の隅に君がいて

I want smiling your face いつもそれだけで

な きも そら き
投げやりな気持ちが空に消えてくよ

でも あい ちが
でも“愛してる”とは違ってる

ちっぽけなプライドも えんりょ
ちっぽけなプライドも遠慮もいらない

そくばく
束縛 やヤキモチはちよっぴりあるけど

も こい
燃えるよな恋じゃなく ときめきでもない

でもいいじゃない

それもまた一つの Love . . . Love . . . Love . . .

</BLO

さよならは^{ゆめ なか}夢の中へ

ゆめ つづ 夢の続きのように きみ えがお かす 君の笑顔も霞んでく

こい お 恋に落ちたあの夜から さよならが^{ひそ}潜んでたのに

ふたり 二人はぎりぎりのところで おも 想いをつなぎとめてる か ことば 交わす言葉にさえ

するど しんけい^{とが}が 鋭く神経尖らせて あらし 嵐のような なみだ 涙のあとには

はげ 激しく ころも 心を求める だれ 誰のせいでもなく あい 愛は

その きずぐち 傷口をひろげて ちょう 朝やけのビルの^{かなた}彼方へ

はばたく^{とり}鳥のように この胸の中を^{むね なか くも}曇らす^{まよ}迷いを

おおぞら^か 大空高く飛ばして^ほ欲しい さよならは^{ゆめ なか}夢の中へ

むじゆん 矛盾だらけの My mind じゆう 自由っていう^{こどく}孤独に^ふ吹かれて

ほおづえ^{なが}をついて眺めてる たそがれ ひかり かげ 黄昏の光と影を

Don't say good-bye いつわ 偽りない^{おも}想いは

Please don't cry いま か 今も^か変わらぬ

ふたり 二人でみつけた It's only love

それだけが^{ほく やす}僕に安らぎをくれた くる とき 苦しい時も

それは ただ^{ひと}一つの^{しんじつ}真実

いつしか^{すべ}全てはうつろう^{うんめい}運命だとしても

いま 今ならば きつと^と取り戻せる ^{もど}二人出会った日の^ひ輝きを^{かがや}

さよならは^{ゆめ なか}夢の中へ

Dance Dance Dance

クルクルと地球儀を回して 世界中を旅してる気分

あまりに低い天井を見上げれば 救いようもなく また寝転がる

give me love,give you up,give me one true give me love,give you up,give me one true テレビに映る

ポーカークフェイス 正義をまとって 売名行爲 裏のコネクション 闇のルート

揉み消された真相 君の傷口 そっと舐めると よじれて涙がこぼれた

ビタミン剤が主食の生活で ヘルスマーターにも笑われ

give me love,give you up,give me one true give me love,give you up,give me one true

今日もハイテンション ロックンロールスター 虚像を背負って ツイスト&シャウト

みんなでファッション 舞い上がれ 落ちる定め of ヒットチャート

満たされない夢と欲望の彼方に 残された君と希望の橋を渡ろう

さあ 踊ろう 世界が終わるまで その未来を 僕の手 に委ねたなら

Dance Dance Dance 飽和しそうなほどのインフォメーション

欲望が服を着て歩く グラビアの彼女に恋をして 一目会って 嫌気がした give me

love,give you up,give me one true give me love,give you up,give me one true

今日もディスカッション 深夜のトーク 偽善だらけの love&peace

きわどいコレクション ランジェリーラブ 今夜も一人 lonely play

満たされたマニュアルにそった恋の中 もがいてる 将来 有望な僕らがいるよ

さあ 踊ろう 鼓動が止まっても気にしないよ 君ともっと 汚れてみたい

満たされない夢と欲望の彼方に 残された君と希望の橋を渡ろう

さあ 踊ろう 世界が終わるまで その未来を 僕の手 に委ねたなら

ラヴ コネクション

ワンタッチの^{かんけい}関係ではエクスタシーはない トウマッチな^{あいじょう}愛情に触れてもつらい

Oh ^{みょう}妙に醒めたポーズで^{きょう}今日も Woo ^{そぶ}つれない素振り

“^{だいたん}大胆 ^き気ままに ^{こい}恋はエクササイズよ” なんちゃって ^{ほんとう}本当は ^{きず}傷つくのが ^{こわ}怖い

Oh メロドラマに^{なみだ}涙流して Woo ^{かれん}可憐な君よ

Tell me what do you want Oh what do you think baby ^{ぼく}僕を ^ゆ揺さぶってくれよ

What do you want ^{いつたい}一体 どうして ^ほ欲しいんだ ^{いまよる}今夜も Oh baby baby please yeah

シェイプアップが^{せいこう}成功した Sexy なスタイル ノータッチじゃ no no!! ^{あいそ}愛想がないんじゃない

ない Oh ^{たかびしゃ}高飛車なフリして ^{けっこう}結構 Woo ^{せじ}お世辞に ^{よわ}弱いね

Tell me what do you want Oh what do you think baby

^{きみ}君の ^す好きにしているよ What do you want ^{きめ}お気に召すまま ^{ぼく}僕を ^{ころ}転がしてくれ

Oh what do you want Oh what do you think baby ^{きみ}君を ^{うば}奪い ^さ去ってくんだ

What do you want ^{じゆう}自由にしてあげよう ^{ぼく}僕が Oh baby baby please yeah

Oh what do you want (What I want) ^いなんだかんだ言っただって (What I think)

^お老いてく ^{きみ}君の ^{びぼう}美貌も (What I feel) ^{いい}いだろう ^{わけ}訳ありの ^{かこ}過去も (What I talk, What I kiss)

^{あい}愛してあげよって ^なもんさ (What I touch) What do you want (What I get)

Oh what do you think baby (What I give) ^{ぼく}僕を ^ゆ揺さぶってくれよ (What I guess)

What do you want (What I know) ^{きめ}お気に召すまま ^{ぼく}僕を ^{ころ}転がしてくれ (What I teach, What

I make) What do you want (What I say) Oh what do you think baby (What I mad)

^{きみ}君を ^{うば}奪い ^さ去ってくんだ (What I laugh, What I cry) What do you want (What I need)

^{じゆう}自由にしてあげよう (What I watch) ^{ぼく}僕が Oh baby baby please yeah (What I play)

innocent world

たそがれ まち せに だ あ ころ むね かる ことば とき ひと
黄昏の街を背に 抱き合えたあの頃が 胸をかすめる軽はずみな言葉が 時に人を

きず 傷つけた そして きみ い まで はんしゃ する あわ じぶん いと
傷つけた そして君は居ないよ 窓に反射する 哀れな自分が 愛しくもある この

ころ 頃では Ah ぼく ぼく のままで ゆずれぬ 夢をかか 抱えて どこまでも ある つづ い
頃では Ah 僕は僕のままで ゆずれぬ夢を抱えて どこまでも歩き続けて行くよ

いいだろう？

mr.myself いつの 日も この むね なが
mr.myself いつの日も この胸に流れてる メロディー

かる 軽やかに ゆる 緩やかに こころ つた うよ ひ 陽のあたる さかみち のぼ 昇る まえ
軽やかに 緩やかに 心を伝うよ 陽のあたる坂道を昇る その前に

また どこ 処かで あ 会えるといいな イノセントワールド

ちかごろ 近頃じゃ ゆうしょく 夕食 の わだい 話題でさえ しごと 仕事に おせん 汚染されていて

さまざま 様々な かくど 角度から ものごと 物事を見ていたら じぶん 自分を見失ってた

い く 入り組んでいる かんけい 関係の中で いつも ちょうじり 帳尻 あ 合わせるけど

Ah きみ きみ のままに しず 静かな暮らしの なか 中で ときは 風にかぜ み まか 身を任せるのもいいじゃない

oh miss yourself ものう 物憂げな ろくが つ 6月の あめ 雨に うたれて 愛にあい み 満ちた きせつ 季節を おも 想って うた うよ

し 知らぬ間に ま わす 忘れてた えがお み 笑顔など見せて にじ 虹の かなた 彼方へ はな 放つ のさ ゆ おも 揺れる 想いを

か つづ 変わり続ける まち 街の かたすみ 片隅で ゆめ 夢の はん 破片が う 生まれてくる Oh 今にも しては ぼく 僕はこの

ままで かす ひかり むね 微かな光を胸に あした すす い 明日も進んで行くつもりだよ いいだろう？ mr.myself

いつの 日も この むね なが
いつの日も この胸に流れてるメロディー 切なくて やさ 優しくて こころ いた 心が痛いよ

ひ 陽のあたる さかみち のぼ 坂道を昇る その まえ 前に また どこ 処かで あ 会えるといいな

その ときは 笑って にじ 虹の かなた 彼方へ はな 放つ のさ イノセントワールド

は 果てしなく つづ 続く イノセントワールド

のち晴れ

たんちょう せいかつ く かえ
単調な生活を繰り返すだけ そんな毎日もいいさ

しんゆう やくそく
親友との約束もキャンセルして 部屋でナイターを見よう

むすめ で い
あの娘が出て行ったのは もう3カ月前 薄い思い出だけを ほのかに残して

なみだ ことば
涙もない 言葉もでない あつけない 結末 あれほど燃え上がってた二人が嘘みたい

さいきん
最近じゃ グラマーな娘に滅法弱い 男ってこんなもんさ

しんじん
新人のマリちゃんに言い寄っても まるで手応えが無い

ふけいき う
不景気のあおりを受けて 社内のムードは 緊迫してるから 僕一人が浮いてる

じょうし ぐちい
上司に愚痴言われるうちが「花」だって言うから いつそ可憐に咲き誇ろうかと思おうよ

もうちよつと もうちよつと がんば
もうちよつと もうちよつと 頑張ってみるから ねえもつと ねえもつと

こと
いい事があるかな 今日は雨降りでも いつの日にか

まえ くら やつ い
「お前って暗い奴」そう言われてる 幼少の頃からさ

こまえ
1DK狛江のアパートには 2羽のインコを飼う

じつか かえ まじめ かお できそこ ぼく はおや く かえ
たまに実家に帰れば 真面目な顔して 出来損ないの僕に 母親は繰り返す

い まご いた き
「生きてるうちに孫を抱きたい」それもわかる気がする

むすめさが おも
なるべくいい娘探したいって思っちゃいるけど もうちよつと もうちよつと

ぼく しん
僕を信じてみて こうなつちゃ こうなつちゃ 後戻りできない

イメージはいつでも あめ は ゆうしゅう じんざい かんちが
イメージはいつでも 雨のち晴れ 優秀な人材と勘違いされ

ひ ぼく
あの日の僕はただ

かこく
過酷なしがらみを か 掻き分けては

あたま さ
頭 を下げていた

わか の き ことし
若さで乗り切れるのも 今年ぐらいだね

さき だれ
この先どうなるのかなんて 誰もわからない

ひぐら たの い
その日暮し 楽しく生きりゃいいのかもしれないね

ことおも にち く
そんな事 思いながらも また日 が暮れる

もういいや もういいや

つか は
疲れ果てちまった

い い
そう言って そう言って

き
ここまで来たじゃないか

きょう あめふ ひ
今日は雨降りでも いつの日にか

もうちよつと もうちよつと

がんば
頑張ってみるから

ねえもつと ねえもつと

こと
いい事があるかな

イメージはいつでも

あめ は ひ にじ わた
雨のち晴れ いつの日にか 虹を渡ろう

</BLO

Asia (エイジア)

ASIAN SOUL ^{いま}今ここに生まれ ^{うぶごえ}産声 ^あを上げる

^{ぼく}僕の ^{むね}胸 ^うを ^な打ち鳴らす ASIAN BEAT ^{から}絡 ^あみ ^{まちな}合う街 ^{じゆう}並 ^{くに}みは自由の国 ^みに魅せられ

^{おど}踊 ^{ひとびと}る人々の ^む群 ^{きょう}れで ^{にぎ}今日も ^{きよ}賑 ^{はな}わう清 ^{きみ}らかな花 ^{あこが}のような君 ^{むね}への ^か憧 ^{めぐ}れが胸 ^あを駆け巡る

^{みは}見果 ^{ゆめ}てぬ夢 ^{なか}の中で ^{しず}だけ ^{ふたり}静かに二人 ^{かわ}くちづけ ^あを交す

Oh ^{うつ}移 ^いり行く ^{じだい}時代に ^ひ引き ^き裂 ^あかれないように

ASIAN BLOOD ^{えが}描 ^りいてた理想 ^くの暮らし ^{もろ}は脆く

^{むな}虚 ^{なか}しさの中 ^{あした}ただ明日 ^{ゆめみ}を夢見る ^{きずあと}傷跡 ^{のこ}だけ残 ^れった歴史 ^{なか}の中から ^{なに}何を ^{まな}学んだの

^に煮 ^きえ切 ^{ぼく}らない僕 ^{なに}に ^{ゆず}さえ ^あ何があ ^あっても ^あ譲 ^あれぬものがある

Oh ^{はは}母 ^{あい}なる愛 ^{えいえん}のような永遠 ^{もと}を求 ^ためてる ^{もり}そびえ立つ ^{もり}ビル ^{もり}の森 ^{こどく}孤独 ^{よる}な夜 ^{ひかり}の光 ^あが

^{いくせん}幾 ^{ひとみ}千もの ^て瞳 ^あを照 ^あらして ^{いま}る ASIAN SOUL ^{いま}今ここに生まれ ^{うぶごえ}産声 ^あを上げる

^{ぼく}僕の ^{むね}胸 ^うを ^な打ち鳴らす ASIAN BEAT ^{みらい}未来 ^むへ向 ^{ぼく}かい僕 ^{はし}らは走る

^{とき}時には ^{ぶざま}無 ^{ころ}様に ^{きょう}転 ^{どこ}がりながら ^あ今日 ^あも何 ^あ処 ^あかで ASIAN BEAT

^{ひがし}東 ^{にし}と西 ^{こんとん}は混沌 ^みに満 ^{むじゆん}ち矛盾 ^{なか}の中 ^{ひとびと}で人々 ^{ねむ}は眠る

^ひいつ ^{めぐ}の日 ^くか巡 ^{しゆんかん}り来る ^まその瞬間 ^こを待 ^あち焦 ^あがれ

^{いと}愛 ^{くん}しき君 ^{おも}へと ^つ思い ^あは募 ^ある

ASIAN TRUE

^{すこ}少 ^{きづ}しずつ ^{はじ}気 ^あ付き ^あ始 ^あめているのさ

^{まも}守 ^あるべき ^あものは ^{あい}愛 ^なという ^{ほこ}名の ^あ誇 ^あり

</BLO

シーラカンス

シーラカンス ^{きみ}君はまだ^{ふか}深い^{うみ}海の^{そこ}底で^{しず}静かに^い生きてるの？

シーラカンス ^{きみ}君はまだ^{なないろ}七色に^{ひか}光る^{うみ}海を^{わた}渡る^{ゆめみ}夢見るの？

ある^{ひと}人は^い言う ^{きみ}君は^{ほろ}滅びたのだと ある^{ひと}人は^い言う ^{こんきよ}根拠もなく^い生きてると

とはいえ^{くん}君が ^{げんだい}この^{うずま}現代に^{うみ}渦巻く^{およ}メガや^{うみ}ビットの^{うみ}海を^{およ}泳いでいたとしてもだ

それが^いなんだって^い言うのか ^{なに}何の^{いみ}意味も ^{なに}何の^{かち}価値もないさ

シーラカンス ^{きみ}君はまだ^{ふか}深い^{うみ}海の^{そこ}底で^{しず}静かに^い生きてるの？

シーラカンス ^{きみ}君はまだ^{なないろ}七色に^{ひか}光る^{うみ}海を^{わた}渡る^{ゆめみ}夢見るの？

ある^{ひと}人は^い言う ^{きみ}君は^{ほろ}滅びたのだと ある^{ひと}人は^い言う ^{こんきよ}根拠もなく^い生きてると

どうしたら^{ぼく}僕ら ^{こた}答えを^み見つけ^だ出せるの ^{みらい}どんな^{めざ}未来を^{どこ}目指すも^{ほね}何処に^う骨を^う埋めるも

^{せんたくし}選択肢は^いいくつ^{じゆう}だってある ^い言う^{じゆう}なれば自由

そして^{ぼく}僕は^{かす}微かに^{さのう}左脳の^{かたすみ}片隅で^{きみ}君を^ま待つてる シーラカンス

^{ぼく}僕の^{こころ}心^{なか}の中に ^{きみ}君が^{たし}確かに^す住んでいた^きような^き気さえもする

シーラカンス

ときたま^{ぼく}僕は ^{ぼく}僕の^{あい}愛する^{ひと}人^{なか}の中に^{きみ}君を^{さが}探したりしてる

^{きみ}君^みを見^だつけ^だ出せたりする

手紙

す き 過ぎ去りしあなたへ おも で 思い出のあなたへ かけがえのないものに気づきゆくこの頃です

こと じょうねつ さいな 事に 情熱 をぶつけ 傷つけ 合っ て それさえも 微笑みに 変わります 今ならば

とお なつ こ 遠い夏を越えて あき す 秋を過ぎて あなたの事を想うよ

いま あ 今でも会いたくて さび 寂しすぎて おろ じぶん うら 愚かな自分を恨みもするけど

す き 過ぎ去りしあなたへ おも で 思い出のあなたへ

いま べつ だれ 今じゃ別の誰かの胸に眠るはずだよ

はな はる 花ゆれる春なのに

</BLO

な し
名もなき詩

ちよつとぐらいの^{よご}汚^{ぶつ}れ物ならば ^{のこ}残^{ぜんぶた}さずに全部食べてやる

Oh darlin ^{きみ}君は誰 ^{しんじつ}真実^{にぎ}を握りしめる ^{きみ}君が僕^{ぼく}を疑^{うたが}っているのなら

この^{のど}喉^きを切ってくれてやる Oh darlin ^{ぼく}僕はノータリン

たいせつ ^{もの}大切な物をあげる ^{いらだ}苛立つような^{まちな}街並みに^た立ったって

^{かんじょう}感情 ^もさえもリアルに持てなくなりそうだけどこんな^{ふちょうわ}不調和な^{せいかつ}生活(くらし)の^{なか}中で

たまに^{じょうちよふあんてい}情緒不安定になるだろう? ^{とも}でも darlin ^{なや}共に悩んだり

^{しょうがい}生涯を^{きみ}君に^{ささ}捧ぐ ^{あるが}あるが^{まの}まの^{こころ}心で^い生きられぬ^{よわ}弱さを

^{だれ}誰かの^{せい}せいにして^す過ごしている ^し知らぬ^ま間に^{きず}築いていた^{じぶん}自分らしさの^{おり}檻の^{なか}中で

もがいているなら ^{ぼく}僕だってそうなんだ ^{どれほど}どれほど^{わか}わり合える^あ同志^{どうし}でも

^{こどく}孤独な^{よる}夜は^ややってくるんだよ Oh darlin ^{この}この^{わだかまり}わだかまり

きつと^け消せはしないだろう ^{いろん}いろんな^{こと}事を^ふ踏み^{だい}台にしてきたけど

^{しつ}失くしちゃいけない^{もの}物が^ややっと^み見つかった^き気がする^{きみ}君の^{しぐさ}仕草が^{こっけい}滑稽なほど

^{やさ}優しい^{きも}気持ちになれるんだよ

Oh darlin ^{ゆめ}ゆめものが^{たり}たり ^ああ^{たび}たび ^きき^{逢う}度に聞かせてくれ

^{あい}愛は^{きつと}きつと^{うば}奪うでも^{あた}与えるでもなくて

^き気が^つ付けば^{そこ}そこにある^{もの}物

^{まち}街の^{かぜ}風に^ふ吹かれて^{うた}唄いながら

みょう す
妙なプライドは捨ててしまえばいい

そこからはじまるさ

ぜつぼう しつぼう
絶望、失望 (Down)

なに
何をくすぶってんだ

あい じゆう きぼう ゆめ ゆうき
愛、自由、希望、夢 (勇氣)

あしもと ころ な ゆ こい
足元をごらんよきつと転がってるさ成り行きまかせの恋におち

とき だれ きず
時には誰かを傷つけたとしても

たびこころ よう じだい
その度心いためる様な時代じゃない

だれ おも
誰かを想いやりやあだになり

じぶん むね
自分の胸につきささるだけど

あるがままの ころ い ねが
あるがままの心で生きようと願うから

ひと きず
人はまた傷つていてゆく

し ま きず じぶん おり なか
知らぬ間に築いていた自分らしさの檻の中で

もがいているなら だれ
もがいているなら誰だってそう

ぼく あいじょう かたち
僕だってそうなんだ愛情ってゆう形のないもの

つた こんなん
伝えるのはいつも困難だね

だから darlin この「名もなき詩」を

いつまでも きみ ささ
いつまでも君に捧ぐ

</BLO

ゆりかごのある^{おか}丘から

そうげん^{やさ}には^{かぜ}優しい^ふ風が吹いていて

くさばなたち^{いちにちじゅう}草花^ま達が一日中^{はこ}ワルツを舞ってた

とりたち^{さんびうた}鳥達の^{はこ}賛美歌をミツバチが運んできて

それが^{ぼく}僕らの^{みみもと}耳元で^と飛び^か交ってた

ゆりかごがそこにはいつも置いて有り^お腰掛けた^あ君の^{こしか}揺れる^{きみ}髪を^ゆ撫でる^{かみ}度^なた^{たび}

やわ^{かお}らかな^{ぼく}香りが僕を^{つつ}包み^こ込み^{おも}思^{ぼく}わず僕はその^{かみ}髪にキスをする

いつもここで^ま待ち^あ合わせて^{きみ}君の^{つく}作った^たランチを^た食べてた^たっけ……

でも僕が^{ぼく}戦場^{せんじょう}に行っているその^い間^{かん}君は^{きみ}大人^{おとな}になってしまっていて

あの^{やくそく}約束を^{たよ}頼りに^い生き^の延びて^{もど}戻ったのに^{きみ}君はもう^{ちが}違う^{だれ}誰かの^{うで}腕の中^{なか}

そして僕は^{ぼく}一人^{いちにん}草原^{そうげん}はあの^ひ日の^{やさ}ままの^{やさ}優しさで

くたびれて^{とまど}戸惑う^{ぼく}僕を^{つつ}そと^こ包み^{あらそ}込む^か争いには^{だいじ}勝った^{もの}けど^{しつ}大事な^{しつ}物を失くして

いったい^{ぼく}僕^{なに}は何をしていたのだろうか^{かた} ぼくの^{あたま}肩に^{あたま}頭の^{あたま}の^{あたま}せた

きみ^{しゃしん}君の^お写真^みゆりかごに置いて^{いちど}見て^{くん}一度^{てがみ}だけ^よ君が^{かえ}くれた^{かえ}手紙^よを読み^{かえ}返したら

きつ^{さび}気^ふ付け^ふなかった^ふ寂しさが^ふ降^ふってきて^ふ ごめん^ふねと^ふつぶ^ふやいて^ふも^ふもう^ふどうなる^ふ訳^ふでもなく

せつ^{むね}切^{むね}なさが^{むね}ギョツと^{むね}胸^{むね}をしめ^{むね}つける^{むね} Ah^{むね} 僕が^{むね}戦場^{むね}に行^{むね}ってる^{むね}その^{むね}間^{むね}

きみ^{ちが}君はもう^{だれ}違う^{うで}誰かの^{なか}腕の中^{なか}

そして僕は^{ぼく}一人^{いちにん}

とりこ
虜

ゆうべん しゃべ しゃべ しんちょう きみ みがま
雄弁に喋れば喋るほど 慎重な君はまた身構える

どうなってんだ? わ 分かってくれやしない ほんとう おれ きんようび やつ あ
どうなってんだ? 分かってくれやしない 本当の俺を 金曜日に奴に会ってきたらう?

かんたん わか き だ はあく
簡単に別れ切り出せたの? どうだったんだ 把握したい

さいてい きみ くる よう だ あ のち
最低な君を 狂った様に抱きしめ合った後で

むね おく きし めちやくちや きず きぶん
胸の奥が軋むよ 滅茶苦茶に傷つけてみたい気分

むぼう しょうち そば あい しん
無謀なのは承知だぜ だけど傍にいたい 愛を信じたい

しんゆう き うわさ
親友から聞いた噂によりや

そうとうくせ おんな こと
相当癖のある女 だって事

なんだってんだ!! わ 分かってやしない

さいしん きみ やさ う み たぶん
最新の君を優しさに飢えて見えるのは多分

ひくつ かこ はんどう こどく しょうじょ ひ
卑屈な過去の反動 孤独な少女を引きずってんだらう

ふのう そくばく
不能になるまでずっと束縛されてたい take me to Heaven

give me your love

ね さ
寝ても覚めても

きみ はな
君が離れない

とりこ てんごく のぼ
虜となって天国へと昇ろうか

</BLO

タイムマシーンに乗って

ド派手なメイクをした ロックスターでさえ 月日が経ってみりゃ ジェントルマン

時が苦痛つてのを 洗い流すなら タイムマシーンに乗って 未来にワープしたい

前略 宮沢賢治様 僕はいつでも 理想と現実があべこべです

「雨ニモ負ケズ 風ニモ負ケズ」 優しく強く 無欲な 男

「ソウイウモノ」を目指してたのに 管理下の教室で 教科書を広げ

平均的をこよなく愛し わずかにあるマネーで 誰かの猿真似

それが僕たちの世代です How do you feel?

どうか教えておくれ この世に生まれた気分はどんなだい？

How do you feel? 飽食の土地で

優雅に息する気分はどんなだい？ 人生はアドベンチャー たとえ踏み外しても

結局楽しんだ人が 笑者です 前略 ルイ・アームストロング様

次の世代にも しゃがれた声で歌ってやってくれ

心を込めて「ワンダフルワールド」 恋の名の元に 少女は身を売り

プライドを捨てブランドを纏った マスコミがあおりゃ 若さに媚売る

時代の着せ替え人形です How do you feel?

どうか答えておくれ この地で死にゆく気分はどんなだい？

How do you feel?

安定した暮らしに

おいてくだけの自分ならいらんのだ

しんりやく つみ はいせん きず
侵略の罪を 敗戦の傷を

アツハツハ あざわら
アツハツハ 嘲笑うように

あしな そろ かし かん ほうかい
足並み揃えて 価値観は崩壊してる

オツツツ コリやまるでタイトロップダンシング

きみ こう
君に幸あれ

あした は
きっと明日は晴れ

ほんしん い
本心で言えるならいいですね

How do you feel?

おし
どうか教えておくれ

よ う きぶん
この世に生まれた気分はどんなだい？

How do you feel?

みず なが
どうか水に流してくれ

おろ
愚かなるこのシンガーのぼやきを

How do you feel?

おし
どうか教えておくれ

ち し きぶん
この地で死にゆく気分はどんなだい？

</BLO

Brandnew my lover

きみょう ゆめみ きぶん むね いた
奇妙な 夢見るような気分で胸に抱かれて

むじゅうりょく おまえの うちゅう へとひきずりこんでおくれ
無重力 おまえの 宇宙 へと引きずり込んでおくれ

ぶれい くち き かた し こむすめ こどく よる ため い にえ おれ
無礼な 口の利き方も知らない小娘 孤独な 夜の爲の生け贄がこの俺

Kiss me....(おぼれるものが藁にもすがるように) Kiss me....(うしずしみしながら人は愛をむさぼる)

Kiss me....(ナルシズムと じぎやく はさま さまよ) Kiss me....(さんこく か なら
ナルシズムと 自虐の狭間で彷徨う) Kiss me....(残酷に飼い慣らし

かいらく どれい Brandnew my lover モザイクの 身体
快楽の奴隷にして Brandnew my lover モザイクの 身体

そんざいじたい いみ ふかし Brandnew my lover Fuck する 豚だ
存在 自体がもうすでに意味 深 Brandnew my lover Fuck する 豚だ

はじめようよ あいよく A.B.C よど ゲスな世間の裏側を旅して
始めようよ 愛欲の A.B.C 淀んだ ゲスな世間の裏側を旅して

かれい ひみつ てほど Kill me....(ちながたびいこときづ
華麗な その秘密の手解きでやられたい Kill me....(血を流す度に生きてる事に気付き)

Kill me...(だま あ しんじつ たど つ) Kill me...(こよあいげんそういま
Kill me...(騙し合いながら 真実 へと辿り着く) Kill me...(古き良き愛の幻想 など今はない)

Kill me....みすうそ やさ ころ Brandnew my lover ぶさいく めんだ
Kill me....見え透いた嘘 もいい 優しく殺してくれ Brandnew my lover 不細工な面だ

くさり しば びいしき Brandnew my lover は じやまだ
鎖で縛られた美意識 Brandnew my lover 恥じらいは邪魔だ

ますい Ecstasy Brandnew my lover
麻醉かけられたような Ecstasy Brandnew my lover

モザイクの 身体 今夜もしなやかに Up side down
モザイクの 身体 今夜もしなやかに Up side down

Brandnew my lover もう壊れそうだ 愛してるなんて言わないでくれ
Brandnew my lover もう壊れそうだ 愛してるなんて言わないでくれ

Brandnew my lover あがいても無駄だ 麻醉かけられたような Ecstasy
Brandnew my lover あがいても無駄だ 麻醉かけられたような Ecstasy

Brandnew my lover Fuck する 豚だ 果てしない 愛欲の A.B.C
Brandnew my lover Fuck する 豚だ 果てしない 愛欲の A.B.C

そして X.Y.Z All I want is you

かさ した きみ
傘の下の君

かぎ りそう ちか よう み この ぶんめい にっしんげつぽ
限りなく理想に近い様に見える この文明は日進月歩

しの けず きぎょう さき きそ いっぱんしみん へいぼん たいしゅう
凌ぎを削って企業は先を競う 一般市民よ 平凡な大衆よ

さあ コマーシャルに酔って踊ってくれ.....

あつぱれヒットパレード うわつぱりのオンパレード いれい うた おく
あつぱれヒットパレード うわつぱりのオンパレード 慰霊の歌を贈ろう

しほんしゆぎ ころろ きよえい わ ひほん
資本主義にのっとり 心をほっぽり 虚栄の我が日本です

すうじしだい うご こよ じだい しょうきよ
数字次第でスポンサーは動き 古き良き時代を消去

じだいさくご とらじろう うた
時代錯誤だって寅次郎は謳う

じんせい やつ なん あいじょう やつ なん
人生って奴が何たるかを 愛情って奴が何たるかを

とお ちか こえ たび みえ き
遠からず近からず 声からず旅がらす 見栄を切ってちょうだい

ほほえ うら ち あせ なが せいめい いぶきかん
微笑みのその裏で 血と汗を流すから 生命の息吹感じるんだ

あい て はい じどうはんばいき くつせつ よくぼう あふ まち
愛さえも手に入る自動販売機さ 屈折した欲望が溢れる街

とことんやってくれ ぼくのこ でないとこんな歌 明日も作んだろう

ゆめ きぼう
夢も希望もありゃしないさ あつぱれヒットパレード うわつぱりのオンパレード

うれ うた う がっぱり もう し 死ぬまで生きても えいこう なんて言えない

しほんしゆぎ ころろ きよえい わ ひほん
資本主義にのっとり 心をほっぽり 虚栄の我が日本です

た ま いが あ ぼくとう ごじゅつぽひやつぽ
絶え間なく 唾み合ってみても 僕等は五十歩百歩

しあわ しめ どうひょう ひ て うば と つ
幸せ示す道標はない いつの日にか その手で奪い取れに告ぐ

ALIVE

この ^{かんじょう}感情 ^{なに}は何 ^{むしょう}無性 ^{はらだ}に腹立 ^{つんだよ}つんだよ ^{じぶん}自分を ^お押し ^{ころ}殺したはずなのに

^{ばか}馬鹿 ^{しごと}げた仕事 ^おを終え ^{かんじょうせん}環状 ^{いえじ}線で ^{たど}家路 ^{くるま}を辿る ^{なか}車 ^{なか}の中で

^{ぜんぶ}全部 ^{おりたい}おりたい ^{ねころ}寝転んで ^{たい}たい

そうぼ ^{きょう}やきながら ^い今日 ^すが行き過ぎる

て ^{よご}手を ^{うば}汚さず ^う奪 ^{うんだよ}うんだよ ^{きず}傷 ^{なぐ}つけずに ^殴んだよ

それが ^いうまく ^{ひけつ}生きる ^{ひけつ}秘訣 ^{じんるい}で ^み人類 ^{にく}は ^{みにく}醜 ^{くても}くても ^{じんせい}人生 ^{はかな}は ^{はかな}儂 ^{くても}くても

^{あい}愛 ^あし合 ^{むだ}える ^{むだ}駄 ^{なん}なん ^{おとなげ}じゃない ^{おとなげ}大人 ^しし ^し知 ^つつ ^{ちやいな}ちやいな ^{ながら}ながら

さあ ^い行 ^{とき}こう ^ま時 ^まを待 ^{つかい}つの ^{つかい}かい ^{むだ}無 ^{むだ}駄 ^{なん}なん ^{おとなげ}じゃない ^{おとなげ}大人 ^{おとなげ}人気 ^{ない}ない

^し知 ^つつ ^{ちやいな}ちやいな ^{ながら}ながら ^{さあ}さあ ^い行 ^{こう}こう ^{ゆめ}夢 ^はは ^{なくとも}なくとも ^{きぼう}希望 ^はは ^{なくとも}なくとも

^め目 ^{まえ}の ^{はる}遙 ^{みち}かな ^道道を ^やや ^{どこ}が ^{どこ}て ^{どこ}何 ^{ひかり}処 ^さかで ^{ひかり}光 ^はは ^さ射 ^ひす ^ひだ ^{たましい}ら ^もう ^もそ ^もの ^も日 ^もまで ^魂魂 ^はは ^燃燃 ^ええ

^{ちか}誓 ^{いは}は ^{やぶ}破 ^るる ^{もの}もの ^{ほう}法 ^{とは}とは ^{おか}犯 ^すす ^{もの}もの ^{それ}それ ^{すら}すら ^{しんじつ}ひとつ ^{しんじつ}の ^{しんじつ}真 ^実実 ^でで

^{まよ}迷 ^{いや}いや ^{なや}悩 ^みみ ^{など}など ^{いっしょうき}一 ^{おも}生 ^{おも}消 ^ええ ^ぬぬ ^{もの}もの ^{と思}と思 ^{えた}えた ^{なら}なら

ボクらは ^{こわ}スー ^{むね}パー ^はマン ^{こわ}怖 ^いい ^{もの}もの ^{なん}なんて ^{ない}ない ^{むね}胸 ^はを ^は張 ^つつ ^てて ^{たい}たい

そして ^{きみ}君 ^とと ^{さあ}さあ ^い行 ^{こう}こう ^{いみ}意 ^み味 ^はは ^{なくとも}なくとも ^ふ歩 ^{おそ}は ^{おそ}は ^遅遅 ^{くとも}くとも

^{のこ}残 ^{された}された ^{とき}た ^{かな}かな ^{とき}時 ^をを ^やや ^{あらの}が ^{あらの}て ^{はな}荒 ^さ野 ^にに ^{はな}花 ^はは ^さ咲 ^くく ^だだ ^らら ^うう ^ああ ^こら ^こゆる ^こ国 ^こ境 ^{せん}線 ^をを ^ここ ^こ越 ^こ越 ^ええ ^てて

さあ ^い行 ^ここ ^{いは}は ^{なくとも}なくとも ^{すく}救 ^{いは}は ^{なくとも}なくとも ^あ荒 ^れれ ^あは ^は ^け果 ^{みち}て ^たた ^{みち}険 ^{しい}しい ^道道を ^{いつ}いつ ^かか ^ポポ ^ッッ ^カカ ^リリ

^{こた}答 ^ええ ^がが ^出出 ^るる ^{かも}かも ^{その}その ^ひ日 ^{たましい}まで ^魂魂 ^はは ^燃燃 ^ええ ^{ゆめ}夢 ^はは ^{なくとも}なくとも ^{きぼう}希望 ^はは ^{なくとも}なくとも

^め目 ^{まえ}の ^{はる}遙 ^{みち}かな ^道道を ^やや ^{あらの}が ^{あらの}て ^{はな}荒 ^さ野 ^にに ^{はな}花 ^はは ^さ咲 ^くく ^だだ ^らら ^うう

あ ^こら ^こゆる ^こ国 ^こ境 ^{せん}線 ^をを ^ここ ^こ越 ^こ越 ^ええ ^うう

ボレロ

まるで病^{やまい} もう神も仏もない^{かみ ふつ}

まぎ紛れもなく^{まぎ} これが恋^{こい}って言う^いもんです

こころ心^{こころ} なんてもん^{じつたい}の実^し体^{たい}は 知らんけど

からたじゅう^{からたじゅう} 身体中^{きみ} が君^{きみ}を 求^{もと}めてんだよ

『君^{くん}しかいない^{きみ} 君^{きみ}こそ未来^{みらい}』

ことば^{ことば} 言葉^{みな}は皆^{くうきよ} 空^{ちゆう}虚^ま 宙^まに舞^まうんです

なや^{なや} 悩^{せかいぜんたい}める世界^{いちだいじ} 全体^もの一大^も事^も

むかんしん^{むかんしん} 無^{おも}関^{おも}心^{おも}でいられ^{おも}ちやう^{おも} この想^{おも}いを

し^し知^しって ねえ 知^しって

いつだ^{ねんじゅうむきゆう}って 年^{ねんじゅうむきゆう}中^{むきゆう} 無^{きみ}休^{あい}で 君^{きみ}を愛^{あい}してゆく

しちてんは^{しちてんは}つとう^{じんせい} 七^{わら}転^と八^と倒^との人生^とも 笑^とい飛^とばしてゆく

かんじょう^{かんじょう} 感^だ情^だをむき出^だしにして

あさ^{あさ} 朝^{ばん}から晩^{はだか}まで 裸^{はだか}のまんまで 暮^くらしたい

こんど^{こんど} 今^{ほんもの}度^{ほんもの}こそ本^{きみ}物^いなん^いだ^いって 君^{きみ}が言^いうの^いなら

しょうべん^{しょうべん}にお^{じゅうだい} 小^{こい}便^{こい} 臭^{わら}い十^と代^との恋^とを 笑^とい飛^とばしてくれ

ほんのう^{ほんのう} 本^{じゆう}能^{じゆう}のまんま自^{じゆう}由^{じゆう}にして

よる^{よる} 夜^{はだか}のベラン^{はだか}ダ^{はだか}で 裸^{はだか}のまんまで 暮^くらしたい

ひるむ^{こと}事^{こと}の^{こと}ない^{こと} 想^{おも}いは明^{あした}日^{あした}へと 続^{つづ}いてく

ひかり さ ほう
光の射す方へ

くも す よう こうそく うえ もくてきち じゅうたい つづ
蜘蛛の巣のような高速の上 目的地へ5km 渋滞は続いている

さいきん
最近 エアコンがいかれてきてる ポンコツに座って 心拍数が増えた

しゃかいじん おもに せお おも し ははおや ぐち よう い
社会人になって 重荷を背負って 思い知らされてらあ 母親がいつか愚痴る様に言った

なつやす しょうがっこうじだい かえ ゆうしょく さそ おんな
「夏休みのある 小学校時代に帰りたい」 夕食に誘った女の

えがお げひん よ まわ みぶ てぶ おおげさ
笑顔が下品で 酔いばかり回った 身振り手振りが大袈裟で

とうようじん かお せいようじん と
東洋人の顔して 西洋人のふりしてる ストッキングを取って すっぽんぽんにしちゃえば

おな めんどうくさ おく ひと じょうねつ ふ まわ
同じもんがついてんだ 面倒臭くなって 送るのもよして 独りきり 情熱を振り回す

バッティングセンター ぼく ゆめみ さまよ からぶ ほねお
僕は夢見たあげく彷徨って 空振りしては骨折って リハビリしてんだ

wow wow いつの日か きみ とど ころ つ じくう こ ひかり さ ほう
wow wow いつの日か 君に届くならいいな 心に付けたプロペラ 時空を超えて 光の射す方

へ でんわ き な いまわ あ かぎ こわ
へ 「電話してから来てちょうだい」って 慣れた言い回しで 合い鍵をくれたんだ マスコミが怖い

から けっきょく ちよきんばこ なか だれ しんよう なに ふんとう
から 結局は 貯金箱の中にそいつをしまった 誰を信用して 何に奮闘して

この先 歩きがいい? デキレースでもって 勝敗がついたって 拍手を送るべき ウィナーは

存在しない ぼく ゆめみ さまよ だいうなばら ただよ
存在しない 僕は夢見るあまり彷徨って 大海原で漂って さぶいぼたてんだ wow wow

もっとこの僕を愛して欲しいんだ つきよ うた むし はね ひら ひかり さ ほう ち
もっとこの僕を愛して欲しいんだ 月夜に歌う虫けら 羽を開いて 光の射す方へ散らかってる

てん ひろ あつ まっす せん むす やみ さ うみ およ わた かぜ だいち は
点を拾い集めて 真直ぐな線で結ぶ 闇を裂いて海を泳ぎ渡って 風となり大地を這う

かぎ さいたんきより か め ひかり さ ほう
限りあるまたとない 永遠を探して 最短距離で駆け抜けるよ 光の射す方へ

Prism

ころ ^{とき} 転んだ時だけ ^{きづ} 気付く ^{こど} 混泥土の ^{かた} 固さ

うしな ^{さび} 失って寂しくって ^{うた} 歌う ^ひ あの日の Love song

おも ^{きみ} 思いしらしてよ ^{いだい} 君の偉大さを

じぶん ^{うそ} 自分に嘘をつくのが ^{うま} だんだん上手くなってゆく

なが ^い 流 ^{じだい} れ行く時代に ^{ぼく} しがみつ僕を

わら ^と 笑い飛ばしてよ ^{せけん} 世間や ^{しゃかい} 社会が ^{みにく} どんなに醜くても

いつだって ^{きみ} 君にだけ ^{しんじつ} 真実を ^{はな} 話せたのに

もど ^{なに} 戻っておいでよ ^{かお} 何も無い顔してさ ^{かめん} 仮面を着けた ^つ 姿 ^{すがた} が ^{さま} だんだん様になってゆく

かざ ^{ことば} 飾りたてた ^は 言葉を吐いては ^{わら} 笑うよ ^{みずか} 自ら どうしてなんだろう

なに ^{ゆううつ} 何もかもが ^{じぶん} 憂鬱 ^{うそ} 自分に嘘をつくのが ^{うま} だんだん上手くなってゆく

なが ^い 流 ^{じだい} れ行く時代に ^{ぼく} しがみつ僕を ^{わら} 笑って

かめん ^つ 仮面を着けた ^{すがた} 姿 ^{さま} が ^{さま} だんだん様になってゆく

きょう ^{ひとり} 今日 ^た も一人 ^{ぼく} 立ちすくむ僕を

もう一度 ^{いちど} 支えてよ ^{ささ}

そば ^い 傍に居て ^{わら} 笑ってみてよ

</BLO

ニシエヒガシエ

また ^{きみ なか じょうしき ゆ}君の中の常識が揺らいでる ^{し 知らなきやよ}知らなきや良かったって ^{おも こと}思う事ばかり

そして ^ないつしか慣れるんだ ^{あた まえ}当り前のものとして ^{う い}受け入れるんだ

^{かた いっぽう てんし}片一方は天使 ^{いっぽう あくま}もう一方は悪魔で ^{ぶんれつ}分裂しそうなんだ ^{こううつざい}抗鬱剤をちょうだい

^{くら みらい ふせ}暗い未来を防ぐんだ ^{なが めいきゆう}永い迷宮 ^{みたいな}みたいな ^{せいしゆん}青春だ

^{は つ けい}張り付けの刑になつたって ^{あした む い}明日に向かって生きてくんだって

ただじゃ ^{ころ}転びやしませんぜって ^{ひじょうじたい}非常事態ってやつも ^{かんげい}歓迎です

ニシエヒガシエ ^{う う ちしき きょうよう}受け売りの知識 教養 などほうぱり

^{むね}胸やけしそうなら ^{ゆび}この指とまれ ^{じんせい}こんな やっかいな人生だ

おまえが ^{しん みち すす}信じてる道を ^{すす}進むんだ ^{あい こい}愛だ恋だとぬかしたって ^{しょせん ぼくどう}所詮は僕等アニマルなんです

ひと ^{かな せい}人は悲しい性をもって ^{はれつ なや かか}破裂しそうな悩み抱えて

^{ひっし もう}必死で ^{もう}猛ダッシュです ^{ゆめ りそう}夢や理想にや ^{て とど}手が届かないが

^{ふまん}不満ならべたって ^{きろう ぼく}きりが無いし 昨日の僕になんて ^{バイバイ}バイバイ

^{あした にな かぜ}明日を担って 風にまたがって

ニシエヒガシエ ^{は つ けい}張り付けの刑になつたって ^{あした む い}明日に向かって生きてくんだって

ただじゃ ^{ころ}転びやしませんぜって ^{ひじょうじたい}非常事態ってやつも ^{かんげい}歓迎です

ニシエヒガシエ

^{ひっし もう}必死で ^{もう}猛ダッシュです

</BLO

Simple

マイナス思考で悩みまくった結果 この命さえも無意味だと思っただけ

「考え過ぎね」って君が笑うと もう10代の様な無邪気さがふっと戻った

10年先も 20年先も 君と生きれたらいいな 悲しみを連れ 遠回りもしたんだけど

探してたものは こんなシンプルなものだったんだ 喧嘩した時には 欠点でもあんだけど

自分に 正直で遠慮の無いとこにひかれんのさ 互いに背負った傷をいつしか

ちょっとはにかんで 交換し合えたらいいな 寂しい曲も 哀しい曲も 君と奏でればいいや

失ったものを さりげなく憂いながら 微かな戸惑いを そっと吐き出しながら

ざあざあ振りの雨を 全身で受けながら 凜々と茂るあの草木の様に

強く 強く 10年先も 20年先も ずっと傍に居て欲しいんだ

悲しみを連れ 遠回りもしたんだけど

探してたものは こんなシンプルなものだったんだ

君となら 何だって信じれる様な気がしてんだ

探してたものは こんなシンプルなものだったんだ

</BLO

ラララ

ちっぽけな縁起かついで ^{えんぎ} 右足 ^{みぎあし} から家 ^{いえ} を出る

電車 ^{でんしゃ} はいつもの街 ^{まち} へ 疲 ^{つか} れた身体 ^{しんたい} を運 ^{はこ} ぶ 昨日 ^{きのう} と違 ^{ちが} う世界 ^{せかい} あったっていいのに

僕 ^{ぼく} も欲 ^ほ しいのに 簡単 ^{かんたん} そうに見 ^み えてややこしく

困難 ^{こんなん} そうに思 ^{おも} えてたやすい そんな La La La そんな La La La

探 ^{さが} してる 探 ^{さが} してる "葡萄酒 ^{ぶどうさけ} が 体 ^{からだ} にいいぞ" と並 ^{なら} ぶ 週刊 ^{しゅうかん} 誌 ^{みだ} の見 ^み 出し

長 ^{なが} 生きはしたくもないけど なにげに酒 ^{さかや} 屋 ^{のぞ} を覗 ^{のぞ} く いろん ^{じょうほう} な情 ^い 報 ^か が行 ^い き交 ^あ う

要 ^い りもしないのに て だ て だ 参 ^{さんこうしょ} 考 ^た 書 ^だ よりも正 ^{ただ} しく

マンガ本 ^{ほん} より楽 ^{たの} しい そんな La La La そんな La La La

探 ^{さが} してる 探 ^{さが} して chorus) ラララ...ニュースは 連 ^{れんじつ} 日 ^{がけ} のように 崖 ^{がけ} つぶちの時代 ^{じだい} を写 ^{うつ} す

悲 ^{かな} しみ 怒 ^{いか} り 憎 ^{にく} しみ 無 ^{むぞうさ} 造 ^き 作 ^か に切 ^い り替 ^{あした} えて行 ^い く 明日 ^{あした} を生 ^い きる子 ^{こども} 供 ^{なに} に 何 ^{なに} をあ ^あ たえ ^え りや ^い い?

僕 ^{ぼく} に出 ^{でき} 来る ^{たいようけい} だ ^は ろう ^{みちか} か? 太 ^は 陽 ^{みちか} 系 ^{みちか} より果 ^は てし ^{みちか} なく ^{みちか} コンビニ ^{みちか} より身 ^{みちか} 近 ^{みちか} な

そんな La La La そんな La La La 探 ^{さが} してる 探 ^{さが} してる 無 ^な くては ^な らぬ ^な もの ^な など

あ ^{みあ} ん ^{みあ} ま ^{みあ} り ^{みあ} 見 ^{みあ} 当 ^{みあ} た ^{みあ} ら ^{みあ} ない ^{みあ} けど ^{みあ} あ ^{みあ} い ^{みあ} する ^{みあ} 人 ^{みあ} も ^{みあ} 同 ^{みあ} じ ^{みあ} よ ^{みあ} う ^{みあ} に ^{みあ} 今 ^{きょう} 日 ^{げんき} も ^く 元 ^{きょう} 気 ^{げんき} で ^く 暮 ^く ら ^く して ^く る

一 ^{ひとり} 人 ^{ひとり} じ ^{ひとり} ゃ ^{ひとり} ない ^{ひとり} 喜 ^{よろこ} び ^{よろこ} な ^{よろこ} に ^{よろこ} は ^{よろこ} なく ^{よろこ} と ^{よろこ} も ^{よろこ} そ ^{よろこ} れ ^{よろこ} で ^{よろこ} 良 ^よ し ^よ と ^よ し ^よ う ^よ か 簡 ^{かんたん} 単 ^み そう ^み に ^み 見 ^み えて ^み や ^み や ^み こ ^み し ^み く

困 ^{こんなん} 難 ^{おも} そう ^{たやす} に ^{たやす} 思 ^{たやす} えて ^{たやす} 容 ^{たやす} 易 ^{たやす} い ^{たやす} そんな La La La そんな La La La

探 ^{さが} してる 探 ^{さが} してる あ ^{あか} 赤 ^{ゆうひ} い ^も 夕 ^{しず} 日 ^{しず} が ^{しず} 燃 ^{なが} えて ^{よる} 沈 ^こ ん ^{のぼ} で ^{のぼ} 長 ^{なが} い ^{よる} 夜 ^こ を ^{のぼ} 越 ^{のぼ} えて ^{のぼ} 昇 ^{のぼ} る

今 ^{きょう} 日 ^{あした} も ^{あした} La ^{あした} La ^{あした} La ^{あした} 明 ^{あした} 日 ^{あした} も ^{あした} La ^{あした} La ^{あした} La ^{あした} 探 ^{さが} して ^{さが} く ^{さが} 探 ^{さが} して ^{さが} く

Image

どれくらい目をつぶっていたろう？

きみ おも う
君を思い浮かべながら

えがお すべ ほく らくえん
その笑顔が その全てが 僕だけの楽園

たの い い ふく く
楽しく生きて行くImageを 膨らまして暮らそうよ

さあ め うつ すべ だ
さあ 目に写る 全てのことを 抱きしめながら

しず うみ ゆ かぜ
静かにうねる海 カーテンを揺らす風

どこ つづ あおぞら こども わら ごえ
何処までも続く青空 子供の笑い声

きみ て ぬく し さいせい く かえ いのち
君の手のぬもり 死と再生を繰り返す命

あい たいせつ
愛 大切なものは いつだって

め まえ ころ けと
目の前に転がってる ふんずけないように 蹴飛ばさないように

ある い ゆ うご ころ はざま
歩いて行けるなら 揺れ動く心の狭間で

ひとすじ ひかり て じだい いそ あし
一筋の光に 手をかざすけど 時代(とき)はいつでも急ぎ足で

い い こと いみ あらそ あ こと か
生きて行くことの意味は 争い合う事に いつかすり変わって

と こ だい うえ ほくとう いやおうな せなか お お
飛び込み台の上 僕等は 否応無く 背中を押され落ちてくんだ

おぼ たましい みず いきた だ すいめん
溺れそうな魂 水しぶきをあげて 息絶え絶え 水面をかく

けれど たの い ふく く
けれど 楽しく生きてゆくImageを 膨らまして暮らそうよ

この目に写る 全てのことを 抱きしめながら

CENTER OF UNIVERSE

いま ぼく と せかい すば
今 僕を取りまいてる 世界はこれでいて素晴らしい

プラス しこう うらめ で うた うた きば
プラス思考が裏目に出ちゃったら 歌でも唄って気晴らし

バブル き お かぜ どこ ひ ひ しわ かず ふ
バブル期の追い風は何処へやら 日に日に皺の数が増えても

なや すえ で こた てん ただ
悩んだ末に出た答えなら 15点だとしても正しい

どんな ふこう よろこ ひろ あ わら く さいのう だれ も
どんな不幸からでも 喜びを拾い上げ 笑って暮らす才能を誰もが持つてるイライラし

す あい ほじゅう きみ む こい ほのお
て過ごしてんなら愛を補充 君へと向かう恋の炎が燃ゆる

あた ち い すべ ぼく と かたしだい
当たり散らしは言わずもがなのタブー 総てはそう 僕の捕らえ方次第だ

だれ よそう てんかい いっき かそく
誰かが予想しとくべきだった展開 ほら一気に加速してゆく

ステレオタイプ ただ ぼく あたら もの の こ
ステレオタイプ ただ僕ら 新しい物に飲み込まれてゆく

いっさいがつさいす さ はだか じぶん いど
一切合切 捨て去ったらどうだい？ 裸の自分で挑んでく

ヒューマンライフ より よ く 暮らし そこにはきつとあるような気もする

みな うれい むね なが こどく は やす さが
皆 憂いを胸に永い孤独の果てに 安らぎのパーキングエリアを捜してる

クタクタなつて 是し のち あい ほじゅう きみ む こい ほのお
クタクタなつて走った後も愛を補充 君へと向かう恋の炎が燃ゆる

となり いえ
隣 の家のレトリバーにも 「ハイ ボンジュール！」

せかい ばらいろ すべ と かたしだい
ああ世界は薔薇色 総ては捕らえ方次第だ

ここはそう CENTER OF UNIVERSE

じゆうきょうそう しほんしゆぎしゃかい かね い
自由 競争こそ資本主義社会 いつだって金がものを言う

ブランド しこう がくれきしゃかい りこんもんだい げいのうかい
ブランド志向 学歴社会 離婚問題 芸能界

でも ^{ほんとう} 本当 ^{かち} に価値ある物とは ^{もの} 一体 ^{いったいなん} 何だ？

^{こっか} 国家 ^{しゅうきょう} 宗教 ^{じゆう} 自由 ^{あい} それとも 愛

^{いちにちちゆうなや} 一日中 悩んだよ ^{けつきよく} でも 結局 ^{りくつ} それって理屈じゃない

イライラして ^す 過ごしてんなら ^{あい} 愛を ^{ほじゅう} 補充 ^{きみ} 君へ ^む と向かう ^{こい} 恋の ^{ほのお} 炎が燃ゆる

^む 向かいの家の ^{いえ} 柴犬 ^{しばけん} にも 「ハイ ボンジュール！」

^{せかい} ああ 世界は ^{ばらいろ} 薔薇色 ^{ここはそう} ここはそう ^{CENTER OF UNIVERSE} CENTER OF UNIVERSE

^{ぼく} 僕こそが ^{ちゆうしん} 中心 ^{です} です ^{せかい} ああ 世界は ^{すば} 素晴らしい

NOT FOUND

ぼく 僕はつい 見えもしないものに頼って逃げる

きみ 君はすぐ 形で示してほしいとごねる 矛盾しあつた幾つもの事が 正しさを

しゅちよう 主張しているよ 愛するって奥が深いんだなあ ああ 何処まで行けば解りあえるの

だろう? 歌や詩になれない この感情と苦悩 君に触れていたい 痛みすら 伴い

はがゆ 歯痒くとも せつ 切なくとも びしょう 微笑を びしょう 微笑を あい 愛という すてき うそ だま 素敵な嘘で騙してほしい

じぶん 自分だって おも 思ってた じんかく 人格が また 違う 顔を 見せるよ ねえ それって 君のせいかなあ

あと どのくらいすれば 忘れられんのだろう? 過去の自分に向けた この後悔と憎悪

きみ 君に触れていたい やさ 優しい 胸の上で

あの 覚束ない 子守唄を もう一度 もう一度

きのうさが 昨日 探し当てた場所に 今日 日もジャンプしてみるけど

なぜが NOT FOUND 今日 日は NOT FOUND

ジェットコースターみたいに 浮き沈み

ああ 何処まで行けば 辿り着けるのだろう?

め 目の前に 積まれた この 絶望と希望

きみ 君に触れていたい 痛みすら 伴い

はがゆ 歯痒くとも せつ 切なくとも びしょう 微笑を びしょう 微笑を

もう一度 微笑を

Surrender

Coffee ぐらいで火傷したのが 動揺してる 証拠 なんだけど

さよならを 君が 急に云うからさ

笑い飛ばす事ができたなら どんなかグレートな奴と

おも 思われるだろう？ でも 僕は違う

もう土壇場 されど もうひと押し けれど I Surrender

ぶあつ せきらんうん むね なか た 分厚い 積乱雲 が 胸の中に立ちこめる

あいじょう 愛情 なんて どうセイリュージョンだと

わけ かしら 顔で暮らした日々は 君が白痴に思えもしたけど

もうこてんぱん ただのお人好し もはや I Surrender

だい 大キライなフュージョンで 泣けそうな自分が嫌 イヤ

くらやみ て 暗闇を照らしてよ あの頃のように

きみな 君無しじゃ 不安定 なんだよ

いつさいがつさい な 一切合切を無くしても 構わないと思えてたのに

そう信じれたのに

むね むじょう あめ ふ ふたり す 胸に 無情の雨が降る 二人で過ごした日々は

ろじょう 路上のチリのように 流れて 消えて The End

つよがり

かま と構えたその姿勢には ふるきず み 古傷 が見え

おも にもつ も て 重い荷物を持つ手にも つよがりを知る笑っていても ぼく にはわ 分かってるんだよ

み 見えない壁が かべ きみ 君のハートに立ちはだかってるのを か な 蚊の泣くような頼りない 声で たよ

きみ 君の名前を呼んでみた なまえ よ 孤独な夜を越えて こどく よる こ まっす 真直ぐに向き合っよ む あ 抱き合っよ だ あ 早く

つ 着かず離れずが恋の術でも こい すべ そば 傍にいたいだよ くん でんわ いつ君が電話くれても

いいようになってる はな あいて おの せば 話す相手も自ずと狭まってくんだよ

ちつちやな願いを ねが いつもポケットに持ち歩 いてるんだ も ある 「優しいね」なんて がいこうむ 買 被る

なっよ 怒りにも似てるけど違 ちが う かな 悲しみを越えて こ まっす 真直ぐに向き合っよ む あ

だ あ 抱き合っよ つよ 強く いと 愛しさのつれづれで かき鳴らす六 弦に な ろくげん

ぶきよう 不器用な指が ゆび から ふる 絡んで震えてる たまにはちよつと じしん み 自信に満ちた 声で こえ

きみ 君の名を叫んでみんだ な さけ あせらなくていいさ いちほ ぼく そば 一歩づつ僕の傍においで

そしていつか ぼく と まっす 真直ぐに向き合っよ む あ 抱き合っよ だ あ

はや 早く つよ 強く あるがままで つよがりも捨 すす

じゅうにがつ
二月のセントラルパークブルース

ダコタハウスの^{まえ}前の^{みち}道で ^{こいびとたち}恋人達とすれ^{ちが}違う ^{ぼく}僕は^{えり}コートの^た襟を立てて ^{あゝ}あゝ ^{きみ}君

に^だ抱きしめて^ほ欲しい ^{こころ}心^{なか}の中^ののアルコールランプを ^{とも}灯すためのヴィンテージワイン

グラスに^{そそ}注いで^{ひと}ひとり^{さび}寂しくチャーズ ^{じゅうにがつ}十二月のセントラルパークブルース

いつそ^{こお}凍り^{そうさ}そうさ ^{こり}こりや^{なに}何^のの^{しゅぎょう}修行だ？ ^{じゅうにがつ}十二月 ^{きみな}君無し^{ろんがい}など論外 ^{もう}もうどうし

たらいいんだ？ ^{ゆき}雪だ ^{ばんがい}6番^のの^{べトナム}ベトナム ^{りょうりてん}料理店 ^{ウェイ}ウエイ^{トレス}レスの ^{むすめ}娘 ^{きみに}が君に似てた

クリームプリュレを^{なが}流し込みながら ^{あゝ}あゝ ^{きみ}君を^{おも}思い出^だしていたい

^{しゅうきょう}宗教 ^{かぶ}かぶれ^がが^{ぼく}僕に^{こう}こう^と問う 「Hey ^{あなた}あなたは ^{しあわ}幸せですか？」

「^{しあわ}幸せですとも」と^{うそ}嘘^ぶぶきながら ^{じゅうにがつ}十二月のセントラルパークブルース

いつそ^き帰ろ一か？ ^{ひがえ}日帰り^{じゃ}じゃどうだい？ ^{じゅうにがつ}十二月

^{ひとこい}人恋^のの^{かいがい}海外 ^{もど}もどかしくて^{へん}変だ ^す好きだ

^{まち}街を^{うめ}うめ^{つく}尽くす^{クリスマス}クリスマスツリーを^み見てたら ^{なみだ}涙^でが出てきた

ちよつと^ま待^{しもべ}待僕^ははもう^{さんじゅう}三十^だだぜ ^{じゅうにがつ}十二月のセントラルパークブルース ^{いつ}いつそ^{こお}凍りそ

うさ ^{こり}こりや^{なに}何^のの^{しゅぎょう}修行だ？ ^{じゅうにがつ}十二月

^{きみな}君無し^{ろんがい}など論外 ^{もう}もうどうしたらいいんだ？ ^{ゆき}雪だ

いつそ^き帰ろ一か？ ^{ひがえ}日帰り^{じゃ}じゃどうだい？ ^{じゅうにがつ}十二月

^{ひとこい}人恋^のの^{かいがい}海外 ^{もど}もどかしくて^{へん}変だ ^す好きだ ^{なのに}なのに ^{ゆき}雪だ ^{だけ}だけど ^す好きだ

とも うそ いぶくろ
友とコーヒーと嘘と胃袋

ああ 風の噂で君の話^きを聞いたんだよ 結婚^{けっこん}はしたけれどあまり幸^{しあわ}せではないらしい

ぼく 僕にだってそれなりに守^{まも}る生活^{せいかつ}があるから 何^{なに}をしてあげられるという訳^{わけ}じゃないけど

とも とも とも 友よ 友よ 友よ ああ 男^{おとこ}もまた女^{おんな}によって変^かわるんだなあ

さいきん こうちや 最近^{さいきん}は紅茶^{こうちや}よりもコーヒーを飲^のんでるんだよ あの娘^{むすめ}の吸^すう煙草^{たばこ}の口^{くち}の中^{なか}の残^{のこ}り香^がと

にがいコーヒーとの相性^{あいしょう}がとてもいいから 飲^のむよ 飲^のむよ 飲^のむよ 飲^のむよ

セリフ) ああ コーヒーを飲^のむよ タバコも飲^のむよ 飲^のむよ

さけ の 飲^のむよ 飲^のむよ なに 何^{なに}だって飲^のむよ

ひと ものまね あとさき かんが だめ 人を物真似^{ものまね}した 後先^{あとさき}とか考^{かんが}えちゃ駄目^{だめ}だよ

だってそもそも今日^{きょう}の自分^{じぶん}なんて初^{はじ}めから無^ないも同然^{どうぜん}だからね

もういいかい そりゃそうだよ

たと 例^{たと}えばそれが無茶苦茶^{むちゃくちや}な要^{よう}求^{きゅう} だろうが

たと 例^{たと}えばそれが傲慢^{ごうまん}な女^{おんな}のワガママだろうとさ

の 飲^のむよ 飲^のませてちょうだいよ

いいねえ 飲^のむ 達人^{たつじん}になりたいね

ある意味^{いみ}もうあこがれに近^{ちか}い感^{かん}じがあるよ

あかつか ふじお 赤塚^{あかつか}不二夫^{ふじお}にキース・リチャード^{のさかあきら}ね 野坂^{のさかあきら}昭如^{ふじわらくみちょう}に 藤原^{ふじわらくみちょう} 組長^{でしよ} でしょ

いき 粹^{いき}だねえ 下町^{したまち} 情緒^{じょうちよ} だよ

ああそれはちょっと^{ちが}違うか ^{だっせん}脱線しちやっただね ^{だっせん}脱線だよねえ

でも僕^{ぼく}はね ^{だっせん}脱線はいいけど ^{だせい}惰性で生きちや駄目^{だめ}だねえ

これ僕^{ぼく}のポリシーよ ^{だせい}惰性で生きちやだめ これ僕^{しもべ}のポリシー

上手^{うま}い事^{こと}入^{はい}った 上手^{うま}い事^{こと}言^いった

そう僕^{ぼく}の今年^{ことし}の運勢^{うんせい}はとてもいいんだなあ

くだらないB級^{きゅうざつし}雑誌^かに書いてあつたけど

信^{しん}じる事^{こと}の出来^{でき}そうな位^{くらい}のかわいい嘘^{うそ}は

なるべく信^{しん}じてみることにしたんだから

さあ見てみろよ ^{いま}今や世紀末^{せいきまつ}は遠^{とお}い過去^{かこ}の話^{はなし}だ

そもそもキリスト^{きょう}教^{ぼく}に僕^{しんこう}はなんの信仰^{しんこう}もない

罰^{ばちあ}当たり^いと言^いわれてもクジラやイルカの肉^{にく}も食^たべる

かな ^{にく}悲しみも ^{いと}憎しみも ^{やさ}愛しさも ^{いやらしさ}優しさも ^{いやらしさ}いやらしさも

食^たべるよ 食^たべるよ 食^たべるよ

だから胃袋^{いぶくろ}よ ああ僕^{ぼく}の胃袋^{いぶくろ}よ

もつと ^{きょうじん}強靱^{たれ} たれ もつと ^{どんよく}貪欲^{たれ} たれ

なんだって飲^のみ込^こんで なんだって消^{しょうか}化^{して}して

全部^{ぜんぶ} エネルギー^かに変^かえてしまおうだから 胃袋^{いぶくろ}よ ああ僕^{ぼく}の胃袋^{いぶくろ}よ

もつと ^{きょうじん}強靱^{たれ} たれ もつと ^{どんよく}貪欲^{たれ} たれ

なんだって飲^のみ込^こんで なんだって消^{しょうか}化^し ^{ぜんぶ}全部^{きんにく} 筋肉^かに変^かえてしま

Everything is made from a dream

なんじかんねむ つか
何時間眠つても疲れはとれないし

ちかごろ みちくさ いえ かえ ぼく
近頃は道草せず家に帰る僕だ

ハッピーな夢を見て 眠りたい

てづか みらい とし じっしゃばん まち きんだいか すす
手塚マンガの未来都市の実写版みたいな街だ ハイスピードで近代化は進む でもなんと

なくメランコリック なん ひ か げんたい て う あ ゆめ
なくメランコリック 何と引き換えに 現代を手にした3. 2. 1. 0. で 打ち上げた夢は

いま ひ み
今 どころへんを oh oh oh Where? 飛んでんだろう あなたには見えるかい?ブルースリーも

ジョンレノンも このよからさったいま あの じょうねつ を あの かんどう を いでんし きざ
ジョンレノンも この世から去った今 あの 情熱 を あの 感動 を 遺伝子に刻もうか

うた さけ う お だれ ゆめ いま
そう歌いながら 叫びながら 1. 2. 3. GO! で 打ち落とした誰かの夢 今もう

oh oh oh て つぐな しだい な ぶぶん
oh oh oh 手おくれ 償えもせず 次第に慣れてった~セリフ部分~

ゆめ ゆめ すば もの
「夢、夢って あたかもそれが素晴らしい物のように

かがや もの ぼく さんび
あたかもそれが 輝かしい物のように 僕らはただ讚美してきたけど

じっさい なんじゅうまんにん いのち いっしゅん うば さ かくばくだん
実際のところどうなんだろう? 何 十万人もの命を一瞬で奪い去った核爆弾や

さいきんへいき さいしょ な かがくしゃ じゅんすい ちい ゆめ はじ
細菌兵器あれだつて最初は 名もない科学者の 純粹で小さな夢から始まっているんじ

やないだろうか?そして今また僕らは 僕らだけの幸福の爲に

かがく ぶき せいぶつ いのち つづ はる
科学を武器に 生物の命までをもコントロールしようとしている」そしてマーチは続く 遙

みらい ゆめ よ わる やく
かな未来へやっかいだな 夢は良くもあり 悪くもなる てな訳で

oh oh oh oh yes ぼく て かか
oh oh oh oh yes 僕らの手に懸ってたりして3. 2. 1. 0. で 今こそ打ち上げよう 僕らの

oh oh oh oh ゆめ
oh oh oh oh 夢 everything is made from a dream everything is made from a dream

Hallelujah

どんなに きみ おも わ
どんなに君を想っているか 分かってくれていない

やす ばしょ
安らげる場所

じゅうがつ ゆうぐ さび まち うつ
十月の夕暮れが 寂しげに街を映す

ぼく きみ おも
僕はただそれを見ているだけ 君を想って

どこ いと さみ むね こ あ
何処からか愛しさが 胸に込み上げたなら

セーターなど着てなくても そつとぬくもる

ぼく く かえ わか う い
僕はなぜ 繰り返す別れを受け入れてきたんだろう？

なぞ きみ であ と
その謎が君と出会い ちよつと解けた

こどく くら うみ とうだい きず
孤独とゆう暗い海に ひとつの灯台を築こう

きみ み いちばんやす ばしょ
君はただそれを見ていればいい 一番安らげる場所で

ひと しあわ やみくも もと
人はなぜ 幸せを闇雲に求めてしまうんだろう？

なに だいじ もの まも
何より大事な物も守れずに

こい ゆ さき なに し
この恋の行き先に 何があるかは知らない

しず て と えいえん ねが
ただ静かに手を取っては 永遠にと願う

きみ ふたり
いつも君と二人で

そせい
蘇生

にしゃせん こくどう をまたぐように かける 虹を じぶん のものにしようとして

カメラ 向けた 光って いて 大きくて 透けている 三色の 虹に

ピントが 上手く 合わずに やがて 虹は 消えた 胸を 揺さぶる 憧れや 理想は

やっと 手にした 瞬間に その 姿を 消すんだ でも 何度でも 何度でも

僕は 生まれ 変わって 行く そして いつか 君と 見た 夢の 続きを

くらやみ から 僕を 呼ぶ 明日の 声に 耳を 澄ませる

そうだ 心に 架けた 虹がある カーテンが 風を受け

大きく たなび いている そこに 見え 隠れ している

テレビに 目を やる アジアの 極東で

僕が かけられて いた 魔法は 誰かが 見破って しまった

トリックに 解け 出した 君は 誰だ？ そして 僕は 何処？

だれも 知らない 景色を 探す 旅へと 出ようか

そう 何度でも 何度でも 君は 生まれ 変わって 行ける

そして いつか 捨てて きた 夢の 続きを ノートには 消し 去れは しない 昨日が

ページを 汚しても まだ 描き 続けたい 未来がある

叶いもしない 夢を見るのは もう 止めに することに したんだから

今度はこの さえない 現実を 夢みたい に 塗り 替えれば いいさ

そう 思ってたんだ

か
変えていくんだ

でき
きつと出来るんだ

なんど なんど
そう何度でも 何度でも

ぼく う か い
僕は生まれ変わって行ける

す ゆめ つづ
そしていつか捨ててきた夢の続きを

くらやみ ぼく よ
暗闇から僕を呼ぶ

あした こえ みみ す
明日の声に耳を澄ませる

いま ころろ にじ
今も心に虹があるんだ

なんど なんど
何度でも 何度でも

ぼく う か い
僕は生まれ変わって行ける

みらい
そうだ まだやりかけの未来がある

Dear wonderful w Oh Baby ^{とお あめ あ} 通り雨が上がったら

はなうた ^{うた ある} 鼻歌でも歌って歩こう

この ^{みにく うつく せかい} 醜くも美しい世界で

^{むだ} 無駄なことなど ^{なにひと} きっと何一つとしてないさ

^{きみ み} 君の身の上 ^{うえはなし} 話 ^き のひとつでも聞かせてよ

Oh Baby ^{とお あめ あ} 通り雨が上がるまで

カプチーノでも ^{たの ま} 頼んで待とうか？

この ^{みにく うつく せかい} 醜くも美しい世界で

one two three

服よりはブレザーがよく似合う」^{にあ} 浴びせられた^あ 最終^{さいしゅう} の嫌^{いや}みが胸^{むね}をえぐる

君^{きみ}の目^めからすれば いかにもステレオタイプの半端^{はんぱん}者^{しゃ}だっただろう

高^{たか}らかな望^{のぞ}みは のつけから持^もってない でもだからといって 将来^{しょうらい}を諦^{あきら}める気^きもない

ぬるま湯^ゆの冥利^{みょうり}と 分別^{ぶんべつ}を知^しった者^{もの}特有^{とくゆう}の もろく 鈍^{にぶ}く 持^もて余^{あま}すほろ 苦^{にが}い 悲^{かな}しみ

客寄^{きゃくよ}せ用の無^{よう}数の風船^{ふうせん}が 気圧^{きあつ}に逆^{さか}らって散^ちっていった 破裂^{はれつ}寸前^{すんぜん}の自分^{じぶん}の心^{しん}境^{きょう}を

それとダブらせてみたりして 僕^{ぼく}ならいつも 冗談^{じょうだん}めかしてたりするけれど

ずっと ずっと 考^{かんが}えているんだ その場^ばしのぎで振^ふり回^{まわ}す 両手^{りょうて}もやがて 上昇^{じょうしょう}

気流^{きりゅう}を生^うむんだ 別^{べつ}の未^み来^{らい}へと向^むくベクトル 寂^{さび}しくたって

一^{いち}歩^ぽ 一^{いち}歩^ぽ 踏^ふみ出^だしていかなくちや 胸^{むね}の奥^{おく}で繰^くり返^{かえ}す 秒読^{びょうよ}み

今^{いま} 前^{ぜん}人^{じん}未^み到^{とう}の未^み来^{らい}へ 1. 2. 3! 要^{よう}人^{じん}を乗^のつけた 黒^{くろ}光^{びか}りの車^{くるま}

間^ま近^{ぢか}で鳴^ならすクラクションに 老^{ろう}人^{じん}はたじろぐ いろんな人^{ひと}いるなあ 僕^{ぼく}は君^{きみ}のこと

を思^{おも}い出^だしてた 横^{おう}断^{だん}歩^ぽ道^{どう} 目^めの前^{まえ}のリングが 有^{ゆう}刺^{して}鉄^{てつ}線^{せん}でも

そこ^たに立^たつチャンスをそつと狙^{ねら}ってるんだよ 逆^{ぎやく}転^{てん} 勝^{かち}ちをしてる 光^{こう}景^{けい}を目^めに浮^うかべ

ニヤリ いつか君^{きみ}に見^みせよう 戦^{せん}闘^{とう}服^{ふく}のカウントスリー 薄^{うす}暗^{くら}がり僕^{ぼく}が見^みていた

一^{ひと}筋^{すじ}の光^{ひかり}に手^てをやつて 世^よにも奇^き妙^{みょう}な力^{ちから}手^{しゅ}に入^{はい}る なんてある 訳^{わけ}がな^ないけれど

ビデオに撮^とった「ショーシャンクの空^{そら}に」見^みてからは

もつと もつと 確^{かく}信^{しん}に近^{ちか}いな

暗^{くら}闇^{やみ}で振^ふり回^{まわ}す 両手^{りょうて}もやがて 上昇^{じょうしょう} 気流^{きりゅう}を生^うむんだ

おとな 大人^{おとな}になりきれなくて 逆^{さか}恨^{かう}みしたけれど

うんと うんと ^{かんしゃ}感謝しているんだ

いと ^{ひと}愛しき人よ ^{きみ こう}君に幸あるように

もう ^{うし}後ろなんか見ないぜ 1.2.3!

^{いのき}
【猪木のセリフ】

^{みち い}
この道を行けばどうなるものか。

^{あや}危ぶむなかれ、^{あや}危ぶめば^{みち}道はなし。

^ふ踏み出せばその^{ひとあし}一足が^{みち}道となり、

^{ひとあし}その一足が^{みち}道となる。

^{まよ}迷わず行けよ、^い行けばわかるさ。

^い行くぞ～！！

1・2・3 ダ～！！

かわ
渴いた kiss

くうき が ベッドに ちんもく つ を連れてくる

もう うんざりしてるのは ぼく だって 気づいてる

きみ さいご こた ぐち を 口にしてしまう まえに

かわ
渴いたキスで 塞いでしまう

それでなんとか いま をしのげれば いいのに

いつからか 君は取り 繕い 不覚にも 僕は 嘘を見破り

よくあるフォーマットの 上 片一方 の 踵 で 乗り上げてしまうんだ

だれ 禁断 の 実摘み取り 再び 次の 果実が 実る

ゆ 揺るぎのない 決心 に 凍りつく 顔

ちから 力 のない 瞳 が 映すのは 僕 という 過去なんだ

くたびれたスニーカーがベランダで 雨に 打たれてる

せんこうはなび 線香 花火 は しゃいでた 記憶と 一緒に

にち や 日に 焼けた ショーツの 痕 を やたら 気にしてたろう

あんなポーズが この 胸を

いま も かき 乱しているとは 知らずに

Oh Baby Don't go

ある日 君が 眠りに 就く時 僕の 言葉を 思い出せば いい

そして 自分を 責めて 途方に 暮れて

せつ 切ない 夢を見れば いい

とりあえず^{ほく}僕はいつも^{とお}通り^か 駆け足^{あし}で地下鉄^{ちかてつ}に乗り込む^のこ

なに^なもなかった^{かお}顔^で 何処^{どこ}吹く^ふ風^{かせ}

こんなにも^{じぶん}自分を^{ふかん}俯瞰^みで見れる

せい^{せいかく}かく^{すこ} 性格^{のろ}を少し^を呪^ううんだ

すべ^{すべ} 総^{おも}ての^た想^きいを^き絶^{たび}ち切^{たび}ろうとする^{たび}度

まとわりつく^{むね}ような^{いた}胸^の痛み

Oh Baby Don't go

ある^{ひくん}日^{ねむ}君^つが^{とき}眠^{だれ}りに^{むね}就^{いた}く^{とき}時^{とき} 誰^{だれ}か^{むね}の^{いた}胸^に抱^かかれて^{とき}る^{とき}時

なま^{なまがわ}がわ^{むね} 生^か乾^かき^かだ^かった^か胸^の瘡^か蓋^かが^かは^かが^かれ

も^もいろ^も 桃^か色^かの^かケ^かロ^かイ^かド^かに^か変^かわ^かれ^かば^かい^かい

とき^{とき}ど^{とき}き^{とき}う^{とき}ず^{とき} 時^{とき}々^{とき} 疼^{とき}き^{とき}な^{とき}が^{とき}ら

へ^へいき^{かお} 平^{かお}気^{かお}な^{かお}顔^{かお}を^{かお}し^{かお}な^{かお}が^{かお}ら

</BLO

LOVE はじめました

「^{あい}相^わわらずだね」って ^{むかし}昔 ^あ付き合^ってた ^{おんな}女 ^いにそう言^われた

よ^くと^と取^っていいの^か ^{わる}悪い^い意味^ななの^か？

よ^くわ^から^ずしば^らくへ^らへ^ら笑^ってた

^{ふい}不^し意^{せん}に視^あ線^あを^あげ^らば ^{ごく}極^{さい}彩^し色^く ^{がい}ネ^おン^ん街^の ^{ひかり}光^だ

お^やじ^に買^われて ^さホ^てル^で刺^される ^{しょう}少^{じょ}女^を ^{えが}描^いた ^{えい}映^が画^を ^{おも}思^い出^した

ろ^かた^と止^まった ^{くる}車^ま ^うで^う売^ってる ^{なに}何^{たら}ケ^バブ^ーを^ほお^ばる

か^ばね^まわ^して ^あぶ^って ^き切^きり^さき ^{ちい}小^さく^なった ^{にく}その^お肉^を ^ほお^ばる

LOVE はじめました

そ^いつ^で ^{おお}大^きく^なり^ました

LOVE はじめました

あ^あ ^{くち}お^{くち}に^あ合^いま^した^か？

^{さつ}殺^{じん}人^{げん}ば ^{たち}現^{じょう}場^に ^{ひま}や^{じう}ま^つ達^ぶが ^{むら}暇^潰し^で ^{むら}群^がる

^{ちゅう}中^{こう}生^{せい} ^た達^ちが ^け携^{たい}帯^か ^む片^{しゅ}手^に ^むカ^めラ^に ^む向^かっ^て ^おピ^ース^サイ^ンを^おく^く送^る

^{はん}犯^{にん}人 ^はと^もか^く ^まま^えず^は ^しお^し前^らが ^し死^{けい}刑^に ^{なり}や^いい^んだ

でも ^なこの^あと^ニュ^ース^で ^な中^た田^の ^いン^タビ^ユー^が ^ある^から

そ^れ ^み見^て ^かか^んが ^える^と ^しよ^うか

LOVE ^ひよ^く冷^えて^おり^ます

^じ時^{だい}代^の ^む向^かい ^か風^も ^う受^けて

LOVE ^ひよ^く冷^えて^おり^ます

あ^あ ^のイ^ツキ^に ^ほ飲^み ^せせ^{たら} ^な

この^{まち}街の^{なか}中で^お押し^あ合い^あへし^あ合い^{ぼく} 僕らは^{ある}歩いてく

^{たしょう}多少の^{まさつ}摩擦があつても ^す擦れずに ^{こころ}心を^{みが}磨いていくなんて^{でき}出来るかなあ

^{ぼうず}坊主が^{びょうぶ}屏風に^{じょうず}上手に^{ぼうず}坊主の^え絵を^か書くと^い言うだろう

なら^{ぼく}僕は^{あい}愛して^{ひと}る人に ^{あい}愛してるといふ ^{ひねり}ひねりのない^{うた}歌を^{うた}歌おう

^{いみ}意味なんかないさ ^{ふか}深くもないし ^{いん}韻だつて^ふ踏んでない

ただ ^{いつわ}偽りなく ^{かざ}飾りもない

まぎれもない ^{おも}想いだけがそこにはあるんだ

LOVE はじめました

^{まいどまいど}毎度毎度のことですが

LOVE はじめました

^{きょねん}去年よりおいしくできました

LOVE はじめました

そいつで^{おとな}大人になりました

LOVE はじめました

ああ ^{くち}お口に^あ合いましたか？

</BLO

UFO

「^{うま}上手くいかないことばかりだよ」と

きみ かた お 落とすから き つ いた よ せてた あの 日 いっしょ み きみよう ひかり
君が肩を落とすから 気が付けば抱き寄せてた あの日 一緒に見た奇妙な光

アダムスキーだなんだと^{ちやか}茶化して^{ちようけ}帳消しにしたいんだろう

は ものさわ 触るみたいな ^{かくしん} ^さ ^{わだい}
腫れ物 触るみたいな 核心を避ける話題

さ 冷めかけたスパゲティーをフォークに^ま ^つ巻き付けては ^{あま} ^{ゆううつ} ^か
冷めかけたスパゲティーをフォークに巻き付けては 甘い憂鬱を噛みしめる

バランスとるのはやめて ^{あい} ^は ^だ
バランスとるのはやめて 愛を吐き出したら

つぐんでた^{きのう}昨日より ^{むね}
つぐんでた昨日より 胸のつかえはなくなるけど

どうかなあ ^{たが} ^{むね} ^{きづ} ^{いじょう}
どうかなあ 互いの胸のうちに気付いてる以上

ぼく ^{きょうはんしゃ} ^{ねん} ^お ^{たし}
僕は 共犯者だ 念を押して確かめなくても

ぼく ^{しん} ^{ひと} ^{きら}
僕を信じきっているあの人が 嫌いになれもしないから

よけい ^わ ^{ふたり} ^{いま} ^ひ
よけい 分かんなくなるんだよ なぜ二人 今になって惹きあってしまうんだろう

はる ^{かなた} ^{ひらい} ^{みち} ^{ひかり}
遥か彼方から飛来する未知の光が

ぼく ^{つつ} ^{まよ} ^{くる} ^{せかい} ^つ ^さ
僕らを包んで 迷いも苦しみもない世界へと連れ去る

みがって ^{ゆめ} ^{ていくうひこう} ^{りよかくき} ^{じひび}
身勝手なその夢は 低空飛行の旅客機の地響きに

はぎとられた ^{はる} ^{かなた} ^{ひらい} ^{みち} ^{ひかり}
はぎ取られた 遥か彼方から飛来する未知の光が

ぼく ^{つつ} ^{まよ} ^{くる} ^{せかい} ^{さそ}
僕らを包んで 迷いも苦しみもない世界へと誘う

あの UFO が^で出てくる^{ゆめ}夢 僕の^{ぼく}心^{こころ}を 無重力^{むじゅうりよく}の^{うちゅう}宇宙^うへ浮かべる

ふたり ^{ゆめ} ^{なか} ^つ ^こ
二人を 夢の中へ連れてっておくれ UFO来ないかなあ

Drawing

とお とお こども ころゆめ み けしき いっしゆん
遠い遠い子供の頃 夢で見た景色が 一瞬 フラッシュバックしたんだ

わら ぼく ほお しょうじょ きみ
笑いながら僕の頬にキスをする 少女が 君とオーバーラップして

あわ ひかり くも ぞら とき きざ
淡い光の曇り空に フワフワな時を刻んでいく

すば わずら きも しんくう
この素晴らしい 煩わしい気持ちを 真空パックしておけないもんかなあ

え えが とき とも なに いろあ
絵に描いたとしても 時と共に何か色が褪せてしまうでしょう

えいえん かたち はかな げんえい
永遠はいつでも 形のない 儚い幻影(かげ)

きみ とも ぼく もと じょうず え えが
君と共に 僕の元に もっともっと上手にいろんな絵を描けたなら

きみ えが ぼく きみ ちい てん
やっぱり君を描きたいな 僕にとって君とは つまりそう小さな点

すべ うそ おく
そしてあらゆる 総て デタラメと嘘の奥に

ほんとう こた ねむ すば あわ
本当の答えが眠っている この素晴らしい 慌ただしい

じんせい ににんさんきゃく こ い ばめん ぼく え かなら
人生を 二人三脚で越えて行けるかなあ どんな場面でも 僕の絵には 必ず

きみ えが め と しんこきゅう わ
君が描かれていて 目を閉じたまま 深呼吸してみれば分かる

きみ ぼく
君はいつも 僕のノートに

え えが とき とも なに いろあ
絵に描いたとしても 時と共に何か色が褪せてしまうでしょう

えいえん かたち はかな げんえい
永遠はいつでも 形のない 儚い幻影(かげ)

きみ とも ぼく もと
君と共に 僕の元に

そしていつも 僕のノートに

きみ す
君が好き

もしもまだ ^{ねが}願いが ^{ひと}一つ ^{かな}叶うとしたら・・・ ^{くうそう}そんな空想を ^{ひろ}広げ

いちにちちゆう ^{すご}一日中 ^{つき}ぼんやり ^{にご}過せば ^{つき}月も ^{とうきよう}濁る ^{よる}東京の夜だ

そして ^だひねり出した ^{こた}答えは ^{きみ}君 ^すが好き

ぼく ^い僕 ^{いじょう}が生きるうえで ^{いみ}これ以上の意味は ^いなくなっ

よる ^{ふち}夜の淵 ^{わき}アパートの脇 ^{じはんき}くたびれた自販機で ^{ふた}二つ ^{かん}缶 ^かコーヒーを買って

ぼく ^て僕の手が ^{きみ}君の ^{なみだぬぐ}涙拭えら ^{すてき}とすればそれは素敵だけ

きみ ^{ぼく}君もまた ^に僕と似たような ^{だれ}誰にも ^ふ踏み ^こ込まれ

りょういき ^{かく}領域を ^も隠し持 ^{りょう}っているんだらう

きみ ^す君が好き ^{ひび}この響きに ^{ひそ}潜んで ^{ぬく}る ^{だせい}温い ^{にお}情性の匂いが ^おしても

く ^{かえ}繰り返し ^く繰り返し ^{かえ}

に ^き煮え切らない ^そメロディに ^{おも}添って ^こ思いを ^{ほどうきよう}焦がして ^{うえ}歩道橋の上には ^{みな}見慣

にご ^{つき}濁った月が ^う浮かんで ^{よご}いて ^{よご}汚れて ^{ぼく}いってしまう ^{ぼく}僕らに ^そと

ああ ^{むな}空しく ^{なに}何かを ^{うた}訴 ^{きみ}えている ^す君が好き

ぼく ^い僕 ^{いじょう}が生きるうえで ^{いみ}これ以上の意味は ^いなくなっ ^{よる}夜の淵 ^{ふち}君 ^{きみ}を ^ま待ち

い ^ば行き場のない ^{おも}想いが ^{よぞら}また ^う夜空に ^う浮かんで

きみ ^す君 ^{きみ}が好き ^す君 ^すが好き

に ^き煮え切らない ^そメロディに ^{おも}添って ^こ思いを ^こ焦がして

いつでも^{ほほえ}微笑みを

せま ^{ろじ} 狭い路地に ^{くろ} 黒いスーツの ^{ひとたち} 人達

きゅう ^{ふこう} 急な不幸がその ^{いえ} 家にあったという

いのち ^は 命は果てるもの ^わ 分かっているけど

なに ^{おも} 何もかも思い ^{どお} 通りになったとしても

すぐ ^{つぎ} 次の ^{ふまん} 不満を ^{さが} 探してしまうだろう

けっ ^み 決して満たされない ^{だれ} 誰かが ^{きずつ} 傷付いても

いつでも^{ほほえ}微笑みを ^{うた} そんな歌が ^{むかし} 昔 ^{あつた} あったような

いま ^{うた} 今こそ その歌を ^{ぼくたち} 僕達は ^{うた} 歌うべきじゃないかなあ

いつでも^{ほほえ}微笑みを

^{うた} そんな歌が ^{むかし} 昔 ^{あつた} あったような

ひげき ^ま 悲劇の真ん ^{なか} 中じゃ ^{うた} その歌は

^{いみ} 意味をなくしてしまうかなあ

もし ^{ぼく} 僕がこの ^よ 世から ^{すた} 巣立って ^い 逝っても

きみ ^{なか} 君の中で ^{ぼく} 僕は ^い 生き ^{つづ} 続けるだろう

そう ^{おも} 思えば ^{なん} 何とか ^や やって ^い いけ ^そ そうだよ

そう ^だ だから ^い いつも

いつでも^{びしょう}微笑みを ^{びしょう} いつでも微笑みを

いつでも^{びしょう}微笑みを

やさ うた
優しい歌

だれ すく て きみ さ だ
誰かが救いの手を 君に差し出している

ただ いま きつ ぼくとう むね なか どうくつ
ただ今 はそれに気付かずにいるんだらう しらけムードの僕等は 胸の中の洞窟に

す まもの たいじ いちふ き はかな ねが
住みつく魔物と対峙していけるかな 一吹きで消えそうな 儚い願い

い の こ は たましい うた て かく うら し
言いかけて飲み込んで 恥ずかしくなる 魂の歌 くすぶってた 照れ隠しの裏に忍ばせた

かくしはん こえ でぐち な じもんじとう なんどく かえ
確信 犯の声 出口の無い自問自答 何度繰り返しても

やっぱり ぼく ぼく でしかないなら どちらに ころ 転んだとしても それはやはり ぼく 僕だらう

このスニーカーのヒモを 結 んだなら さあ行こう

かんたん ひれふ ひ ちか
簡単に平伏した あの日の 誓い

おも だ はがゆ おも さけ
思い出して歯痒くて 思わず叫ぶ

こうかい うた あま かがみ なか おとこ いま
後悔の歌 甘えていた 鏡の中の男に今

ふくしゅう ちか
復讐を誓う

ぐんしゅう なか た そら み
群衆の中に立って 空を見れば

たいせつ もの きづ くる
大切な物に気付いて 狂おしくなる

やさ うた わす だれ ため
優しい歌 忘れていた 誰かの為に

ちい ひ
小さな火をくべるよな

あい よろこ み うた
愛する喜びに 満ちあふれた歌

</BLO

It's a wonderful world

Oh Baby ^{とお あめ あ} 通り雨が上がるまで

カプチーノでも ^{たの ま} 頼んで待とうか？

この ^{みにく うつく} 醜くも ^{せかい} 美しい世界で

^{むだ} 無駄なものなど ^{なにひと} きっと何一つとしてないさ

^{とつぜん} 突然 ^{おとず} 訪れる ^{にぶ} 鈍い ^{かな} 悲しみであつても

^{わす} 忘れないで ^{きみ} 君の ^{ぼく} ことを ^{ひつよう} 僕は必要としていて

^{おな} 同じように ^{いじょう} それ以上 ^{おも} に ^{ひと} 想ってる人もいる

あなどらないで ^{ぼく} 僕らには ^{まだ} まだやれることがある

^{ておく} 手遅れじゃない ^{ま あ} まだ間に合うさ

この ^{せかい} 世界は ^{きょう} 今日 ^{うつく} も美しい ^{うつく} そうだ美しい

Oh Baby ^{とお あめ あ} 通り雨が上がったら

^{はなうた} はなうた ^{うた} でも ^{ある} 歌って ^{歩こう} 歩こう

この ^{みにく うつく} 醜くも ^{せかい} 美しい世界で

</BLO